

2 災害時の避難について

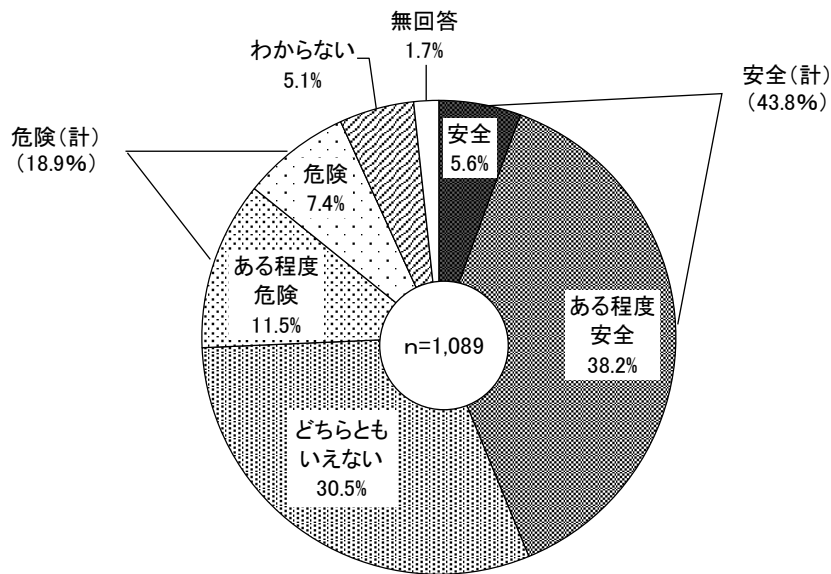
－震災について－

(1) 居住地の大きな地震（震度5弱以上）に対する危険度の認識

◇『安全』と思っている方が4割を超える

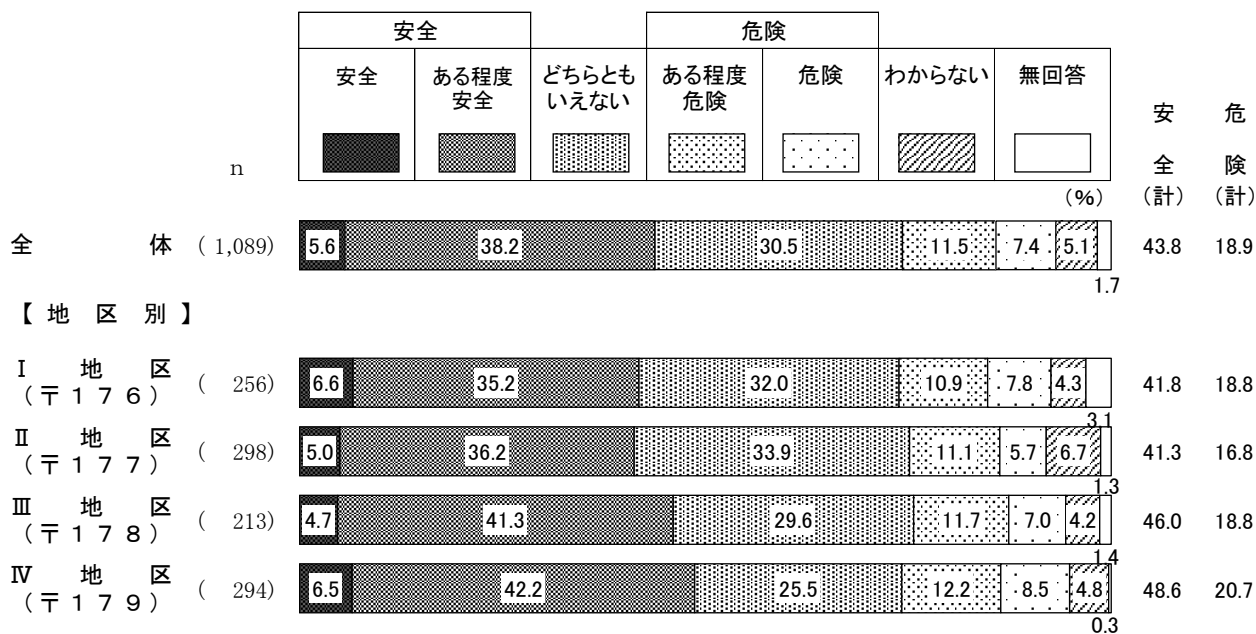
問22 お住まいの地域は大きな地震（震度5弱以上）に対して安全だと思いますか。それとも危険だと思いますか。

図2-1-1 居住地の大きな地震（震度5弱以上）に対する危険度の認識



居住地の大きな地震（震度5弱以上）に対する危険度の認識を聞いたところ、「安全」（5.6%）と「ある程度安全」（38.2%）を合わせた『安全』（43.8%）と思っている方が4割を超えている。一方、「ある程度危険」（11.5%）と「危険」（7.4%）を合わせた『危険』（18.9%）と思っている方は2割近くとなっている。（図2-1-1）

図2-1-2 居住地域の大きな地震（震度5弱以上）に対する危険度の認識—地区別



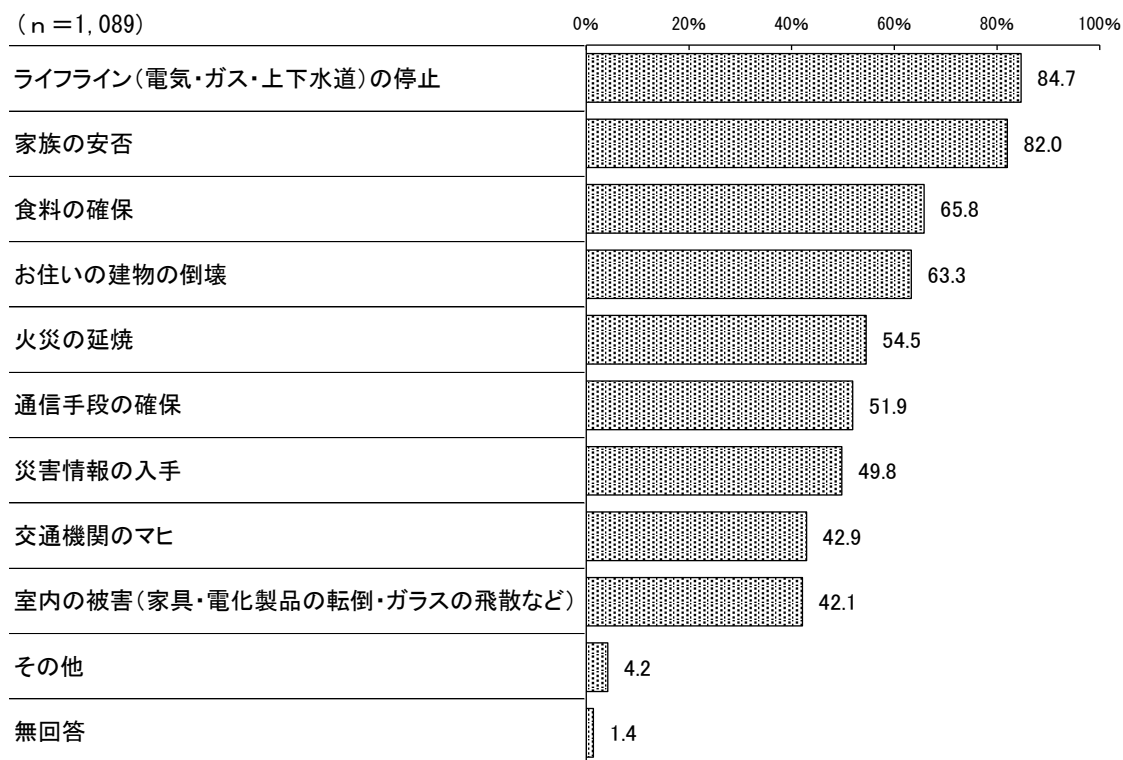
地区別にみると、『安全』と思っている方はIV地区（〒179）で5割近く、III地区（〒178）で4割台半ばとなっている。（図2-1-2）

(2) 大きな地震発生時に心配する点

◇「ライフライン（電気・ガス・上下水道）の停止」が8割台半ば

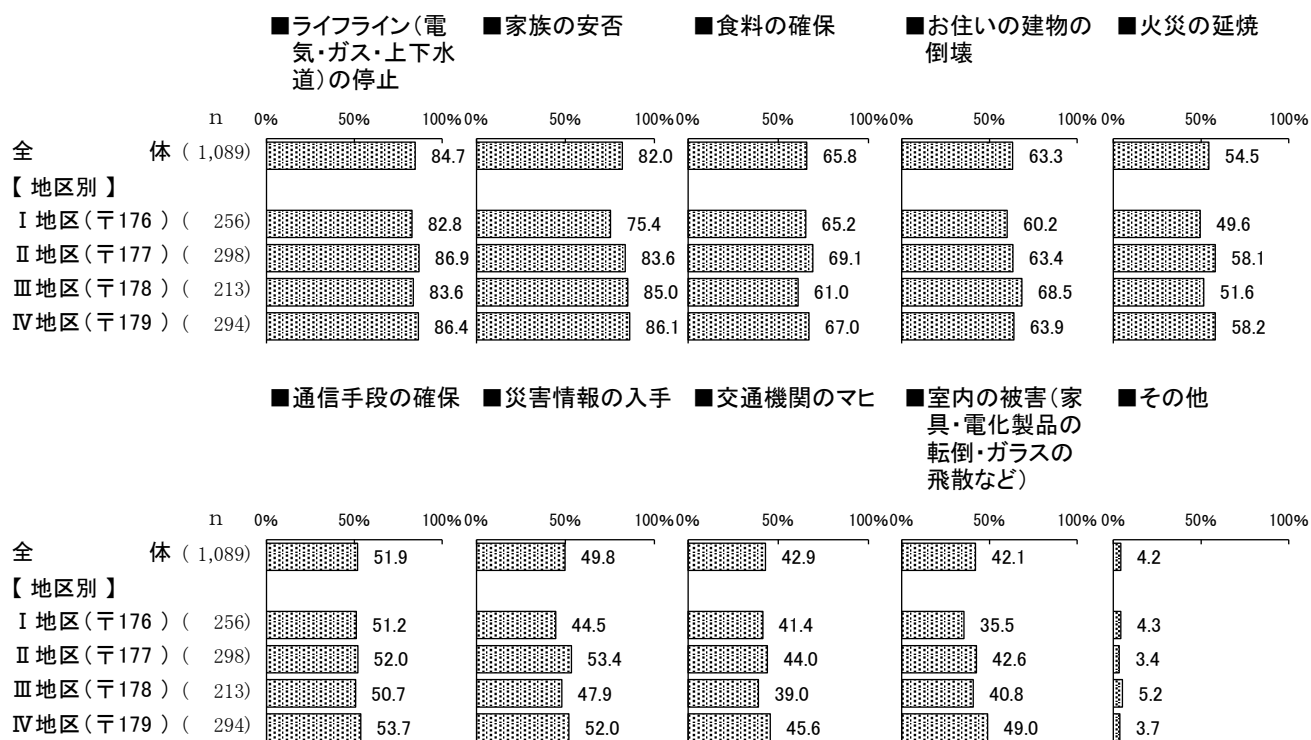
問23 大きな地震が発生した時、何を心配しますか。（〇はいくつでも）

図2-2-1 大きな地震発生時に心配する点



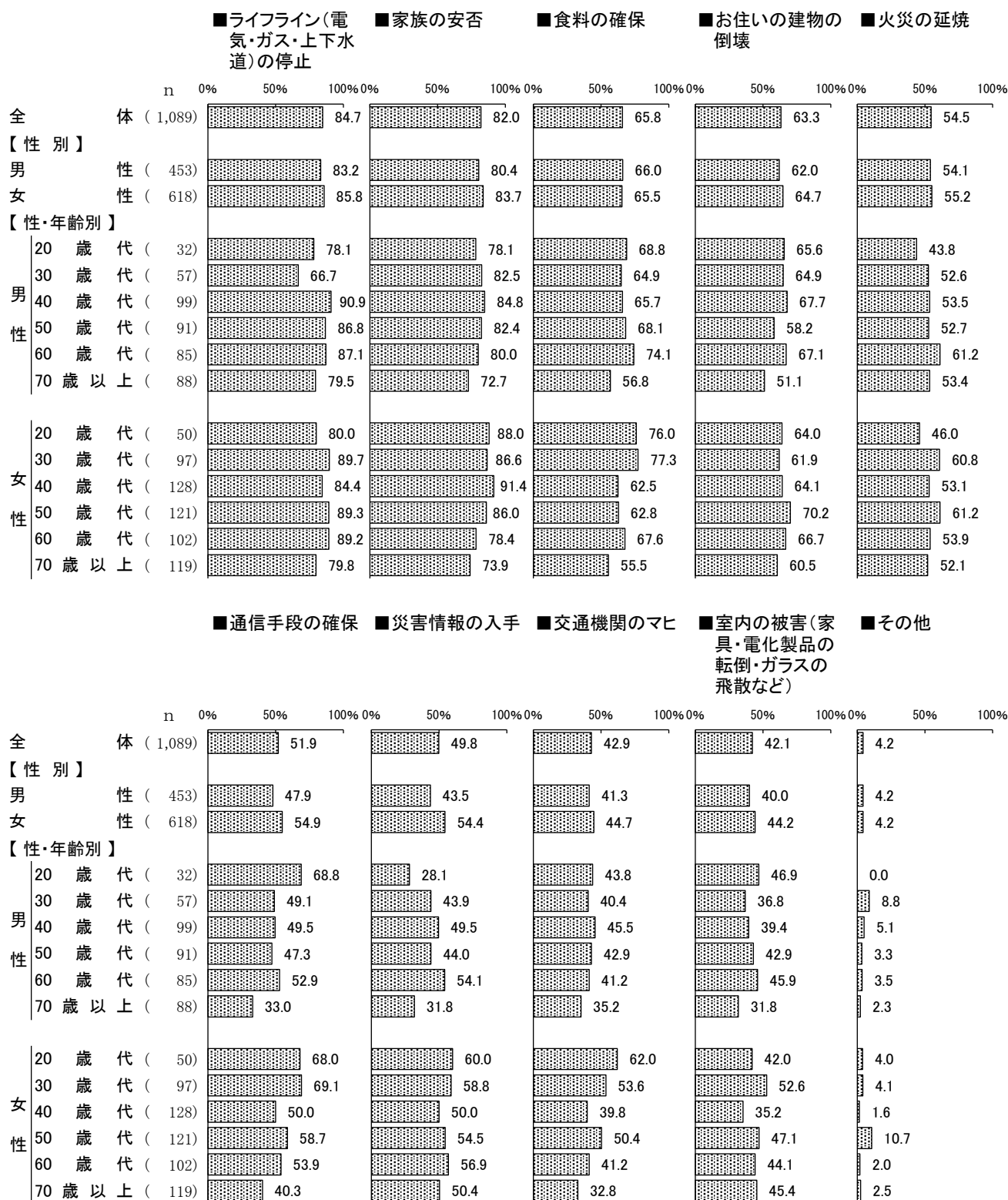
大きな地震発生時に心配する点を聞いたところ、「ライフライン（電気・ガス・上下水道）の停止」（84.7%）が8割台半ばと最も多く、次いで「家族の安否」（82.0%）、「食料の確保」（65.8%）、「お住いの建物の倒壊」（63.3%）、「火災の延焼」（54.5%）などの順となっている。（図2-2-1）

図2-2-2 大きな地震発生時に心配する点—地区別



地区別にみると、「お住いの建物の倒壊」はⅢ地区(〒178)で7割近く、「火災の延焼」はⅡ地区(〒177)、Ⅳ地区(〒179)で6割近く、「室内の被害(家具・電化製品の転倒・ガラスの飛散など)」はⅣ地区(〒179)で約5割と多くなっている。(図2-2-2)

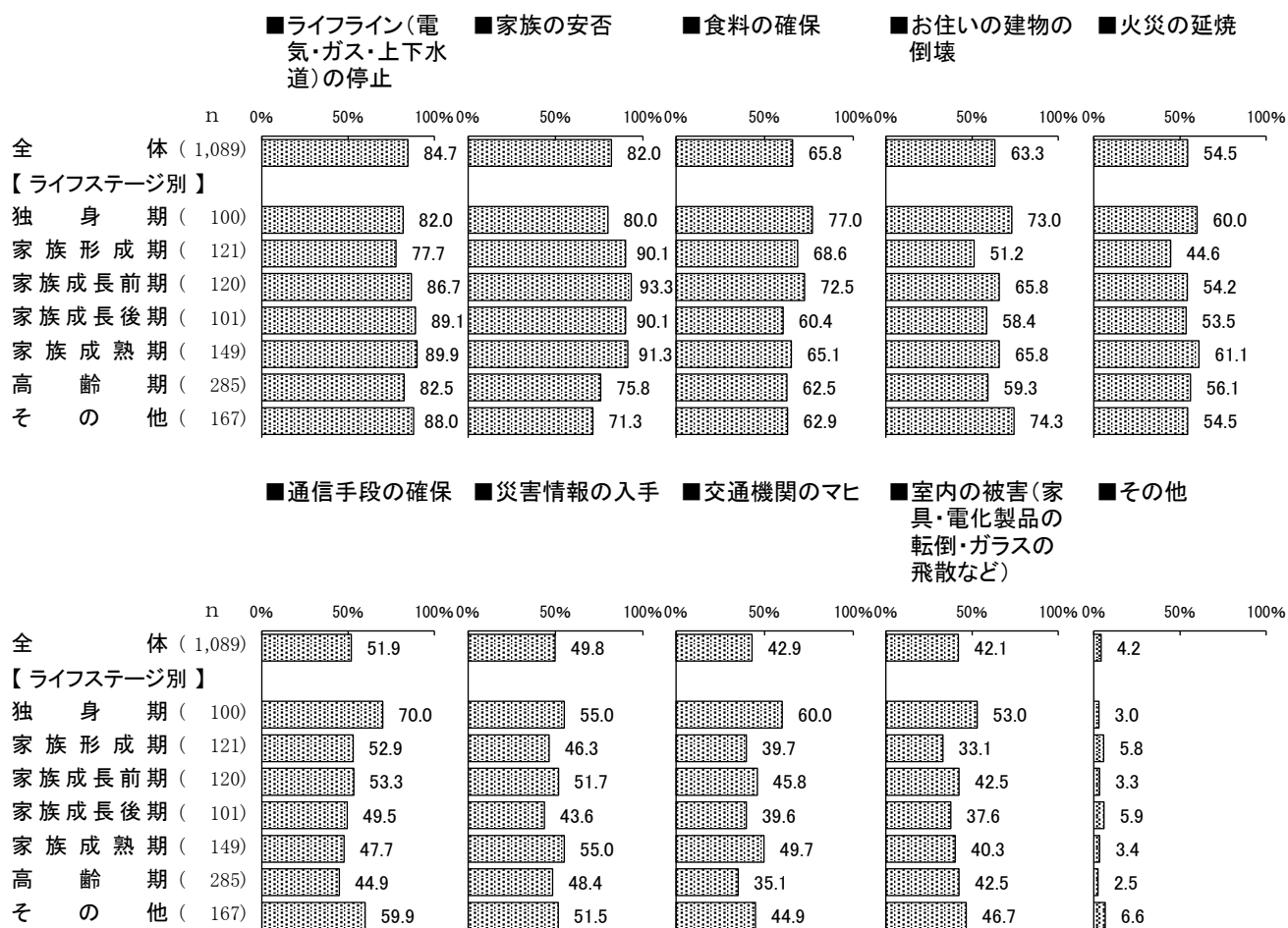
図2-2-3 大きな地震発生時に心配する点—性別／性・年齢別



性別にみると、「災害情報の入手」は女性の方が10.9ポイント高く、5割台半ばとなっており、「通信手段の確保」は女性の方が7.0ポイント高く、5割台半ばとなっている。

性・年代別にみると、「家族の安否」は女性40歳代で約9割、女性20歳代で9割近くと多くなっている。「食料の確保」は女性20歳代・30歳代で7割台半ば、「通信手段の確保」は男性20歳代、女性20歳代・30歳代で7割近く、「交通機関のマヒ」は女性20歳代で6割を超えて多くなっている。(図2-2-3)

図 2-2-4 大きな地震発生時に心配する点－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「家族の安否」は家族形成期、家族成長前期、家族成長後期、家族成熟期で9割を超えて多くなっている。「食料の確保」は独身期で8割近く、家族成長前期で7割を超え、「お住まいの建物の倒壊」はその他で7割台半ば、独身期で7割を超えている。「通信手段の確保」は独身期で7割、「交通機関のマヒ」は独身期で6割、「室内の被害(家具・電化製品の転倒・ガラスの飛散など)」は独身期で5割を超えている。(図2-2-4)

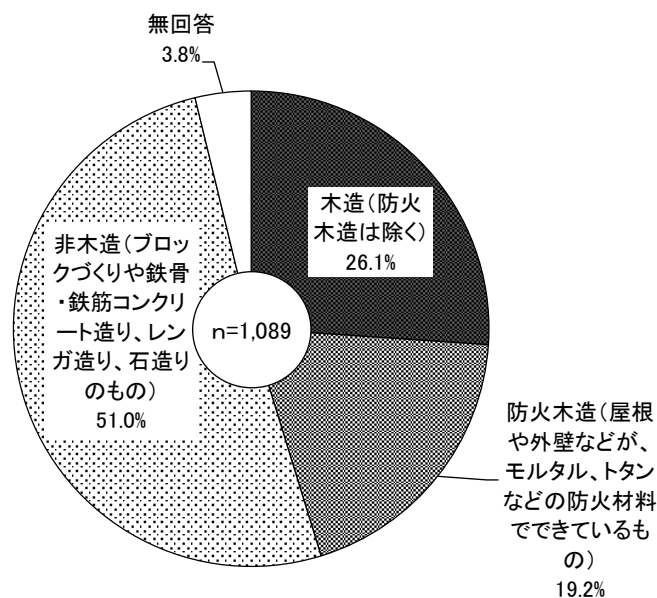
—住まいの耐震化について—

(3) 住まいの建物の構造

◇「非木造」が約5割

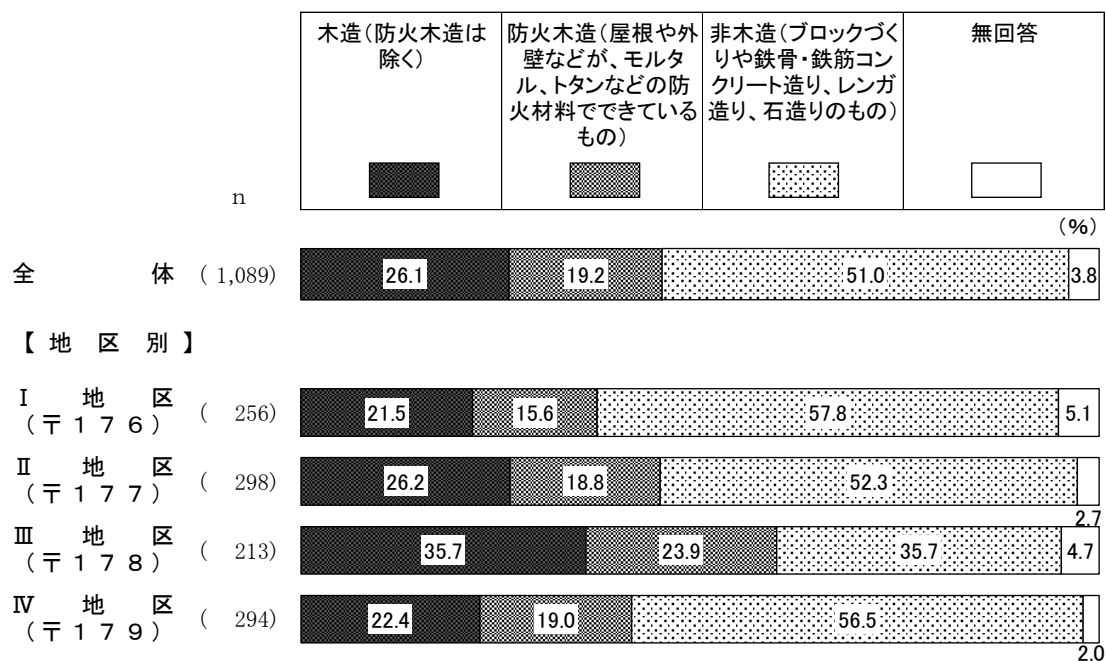
問24 お住まいの建物の構造をお答えください。

図2-3-1 住まいの建物の構造



住まいの建物の構造を聞いたところ、「非木造（ブロックづくりや鉄骨・鉄筋コンクリート造り、レンガ造り、石造りのもの）」（51.0%）が約5割と最も多く、「木造（防火木造は除く）」（26.1%）が2割台半ば、「防火木造（屋根や外壁などが、モルタル、トタンなどの防火材料でできているもの）」（19.2%）が約2割となっている。（図2-3-1）

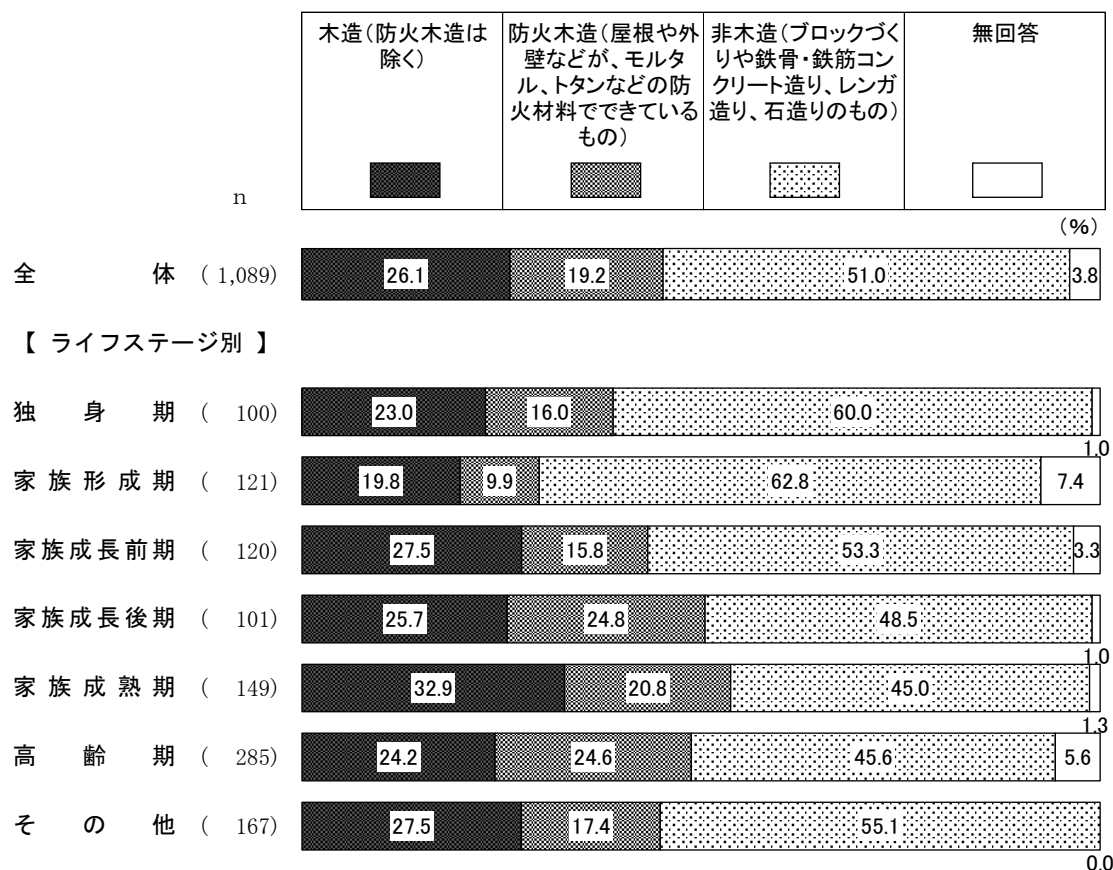
図 2-3-2 住まいの建物の構造—地区別



地区別にみると、「木造(防火木造は除く)」はⅢ地区(〒178)で3割台半ばとなっている。「非木造(ブロックづくりや鉄骨・鉄筋コンクリート造り、レンガ造り、石造りのもの)」はⅠ地区(〒176)で6割近く、Ⅳ地区(〒179)で5割台半ばと多くなっている。

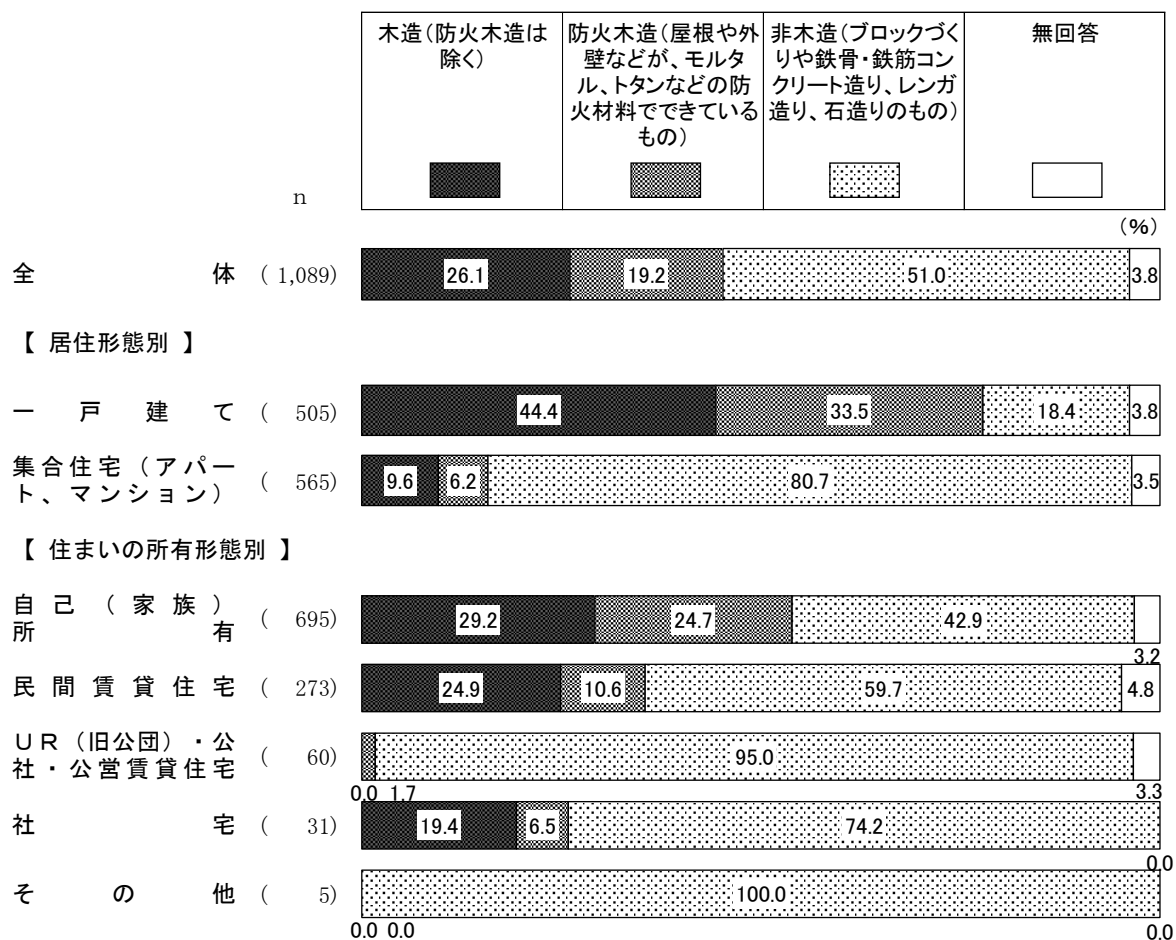
(図 2-3-2)

図 2-3-3 住まいの建物の構造－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「木造(防火木造は除く)」は家族成熟期で3割を超え、「非木造(ブロックづくりや鉄骨・鉄筋コンクリート造り、レンガ造り、石造りのもの)」は家族形成期で6割を超え、独身期で6割と多くなっている。(図2-3-3)

図 2-3-4 住まいの建物の構造—居住形態別／住まいの所有形態別



居住形態別にみると、「木造（防火木造は除く）」は一戸建てで4割台半ば、「非木造（ブロックづくりや鉄骨・鉄筋コンクリート造り、レンガ造り、石造りのもの）」は集合住宅（アパート、マンション）で約8割となっている。

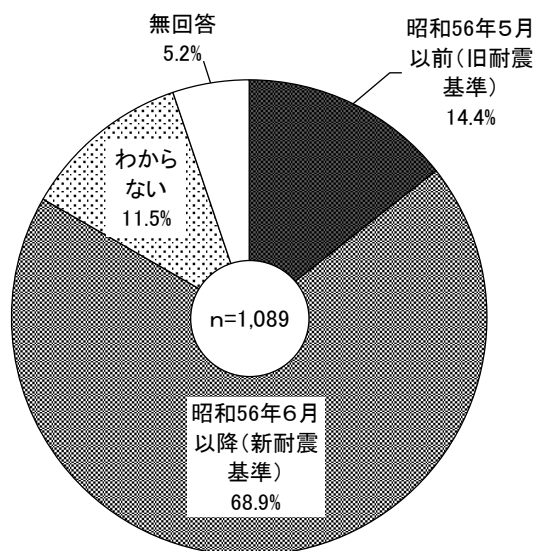
住まいの所有形態別にみると、「木造（防火木造は除く）」は自己（家族）所有で約3割、「非木造（ブロックづくりや鉄骨・鉄筋コンクリート造り、レンガ造り、石造りのもの）」はUR（旧公団）・公社・公営賃貸住宅で9割台半ば、社宅で7割台半ば、民間賃貸住宅で約6割となっている。（図2-3-4）

(4) 住まいの建物の建築された年月

◇「昭和56年6月以降（新耐震基準）」が7割近く

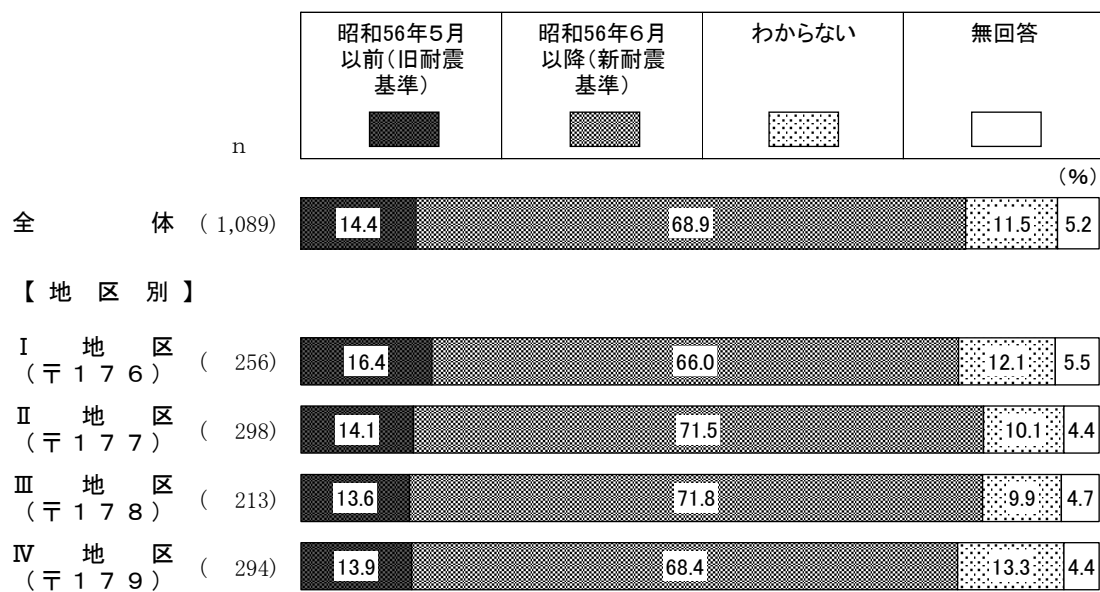
問25 お住まいの建物が建築された年月をお答えください。

図2-4-1 住まいの建物の建築された年月



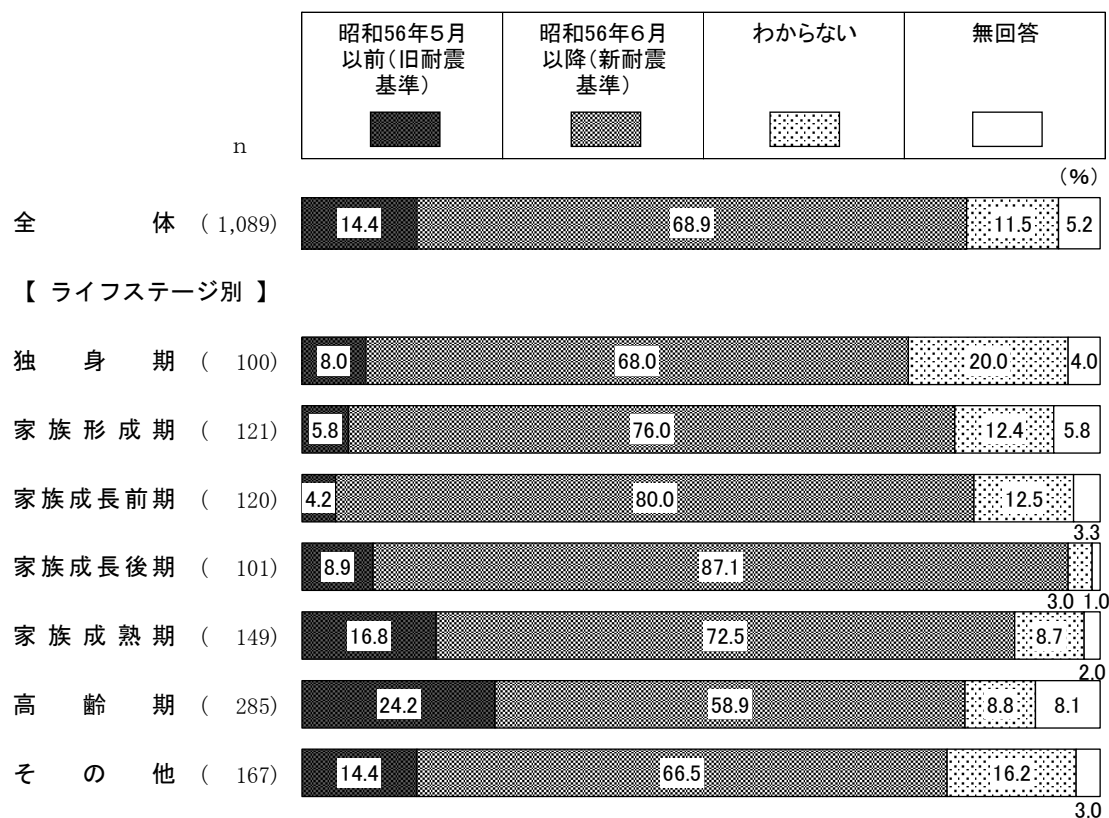
住まいの建物の建築された年月を聞いたところ、「昭和56年6月以降（新耐震基準）」（68.9%）が7割近く、「昭和56年5月以前（旧耐震基準）」（14.4%）が1割台半ばとなっている。（図2-4-1）

図2-4-2 住まいの建物の建築された年月—地区別



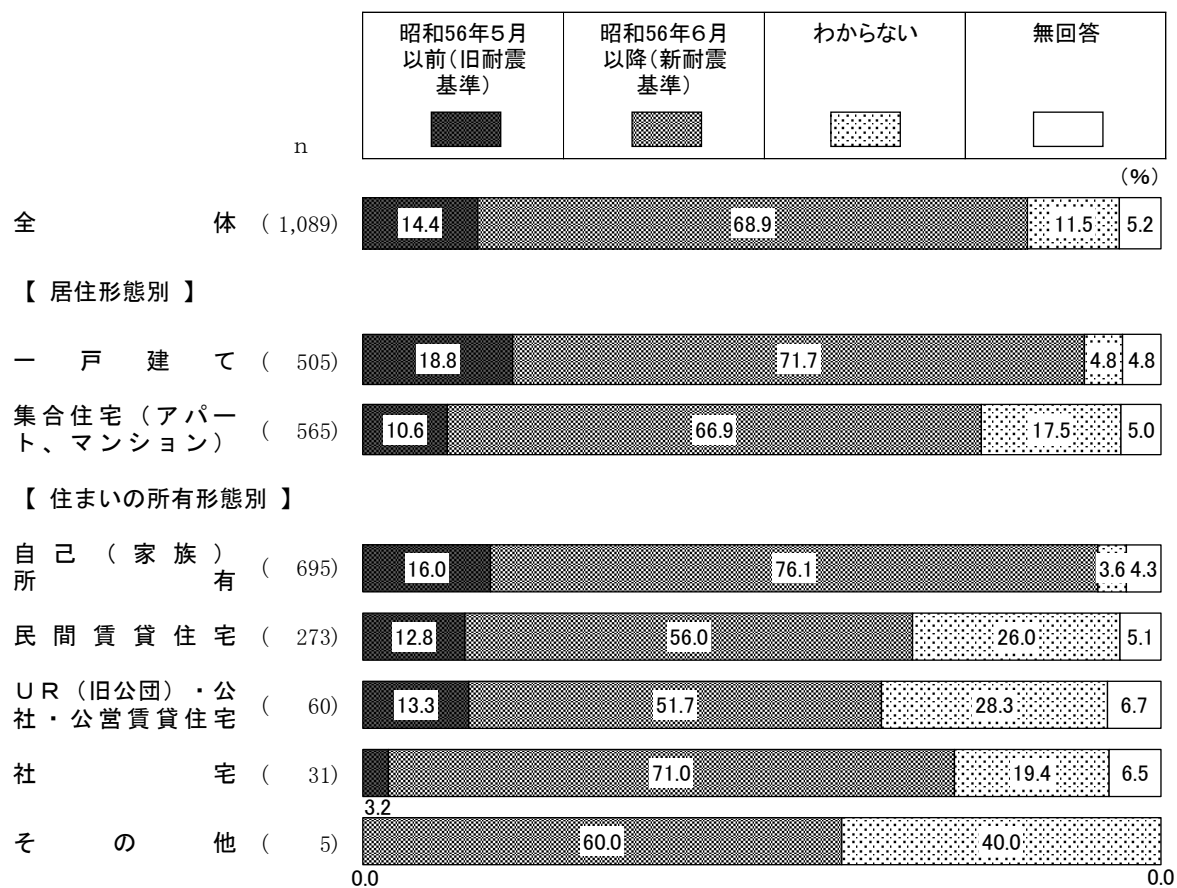
地区別にみると、地区間で大きな傾向の違いはみられない。(図2-4-2)

図 2-4-3 住まいの建物の建築された年月－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「昭和56年5月以前（旧耐震基準）」は高齢期で2割台半ばとなっている。（図2-4-3）

図2-4-4 住まいの建物の建築された年月－居住形態別／住まいの所有形態別



居住形態別にみると、「昭和56年5月以前（旧耐震基準）」は一戸建てで2割近くとなっている。

住まいの所有形態別にみると、「昭和56年5月以前（旧耐震基準）」は自己（家族）所有で1割台半ばとなっている。（図2-4-4）

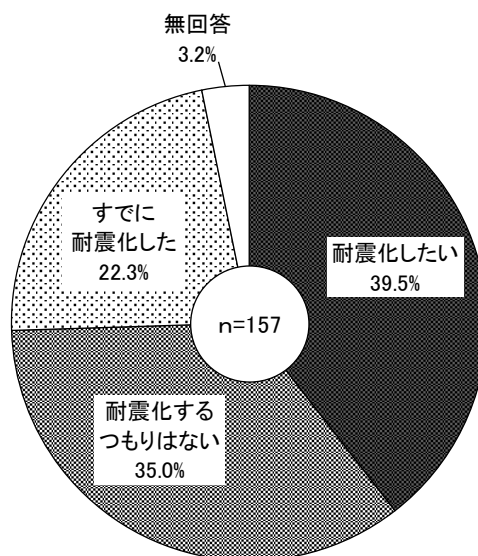
(4-1) 昭和56年5月以前の基準（旧耐震基準）の住まいの耐震化の意向

◇「耐震化したい」が約4割

(問25で「1 昭和56年5月以前（旧耐震基準）」と答えた方へ)

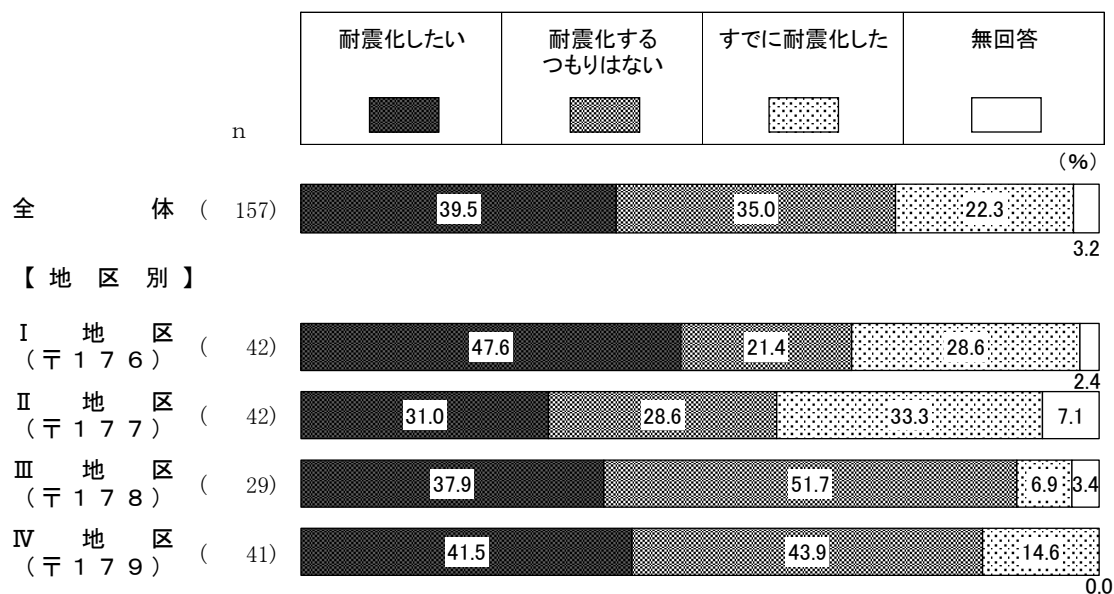
問25-1 昭和56年5月以前の基準（旧耐震基準）で建築された建築物は、大きな地震が発生した場合、倒壊や損壊する危険性があると診断されることがあります。お住まいの耐震化について、どのように考えますか。

図2-4-5 昭和56年5月以前の基準（旧耐震基準）の住まいの耐震化の意向



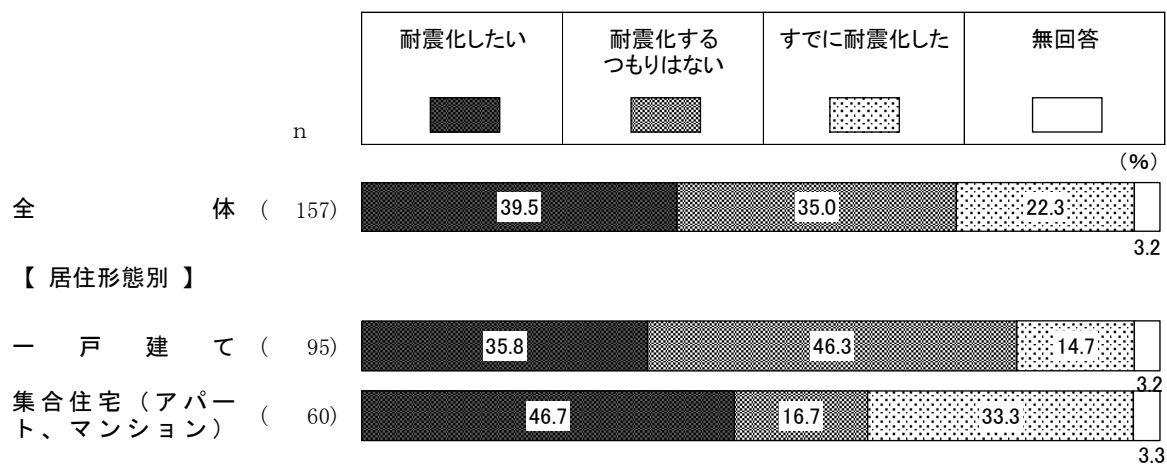
住まいの建物の建築された年月が「昭和56年5月以前（旧耐震基準）」と答えた方（157人）に、住まいの耐震化の意向を聞いたところ、「耐震化したい」（39.5%）が約4割、「耐震化するつもりはない」（35.0%）が3割台半ば、「すでに耐震化した」（22.3%）が2割台となっている。（図2-4-5）

図 2-4-6 昭和56年5月以前の基準（旧耐震基準）の住まいの耐震化の意向—地区別



地区別にみると、「耐震化したい」はI地区（〒176）で5割近くと多くなっている。「すでに耐震化した」はII地区（〒177）で3割を超えている。（図2-4-6）

図2-4-7 昭和56年5月以前の基準（旧耐震基準）の住まいの耐震化の意向—居住形態別



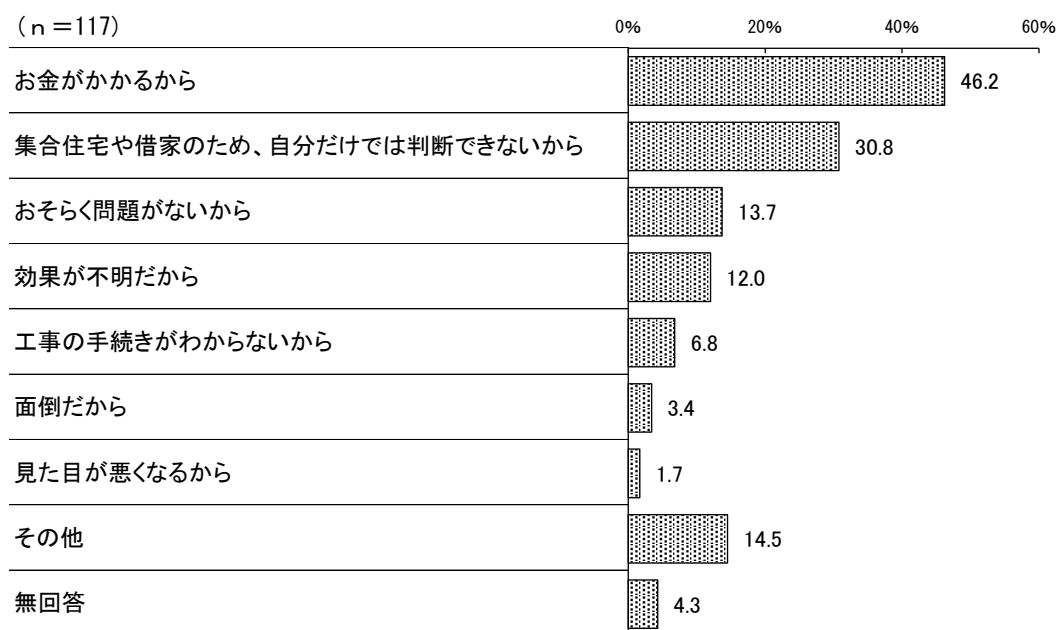
居住形態別にみると、「耐震化したい」は集合住宅（アパート、マンション）で4割台半ば、「耐震化するつもりはない」は一戸建てで4割台半ばとなっている。（図2-4-7）

(4-2) 耐震補強工事をしていない理由

◇「お金がかかるから」が4割台半ば

(問25-1で「1 耐震化したい」「2 耐震化するつもりはない」と答えた方へ)
問25-2 あなたが耐震補強工事をしていない理由は何ですか。
(〇はいくつでも)

図2-4-8 耐震補強工事をしていない理由



昭和56年5月以前の基準（旧耐震基準）の住まいの耐震化の意向に「耐震化したい」、「耐震化するつもりはない」と答えた方（117人）に、これまでに耐震補強工事をしていない理由を聞いたところ、「お金がかかるから」（46.2%）が4割台半ばと最も多く、次いで「集合住宅や借家のため、自分だけでは判断できないから」（30.8%）、「おそらく問題がないから」（13.7%）、「効果が不明だから」（12.0%）などの順となっている。（図2-4-8）

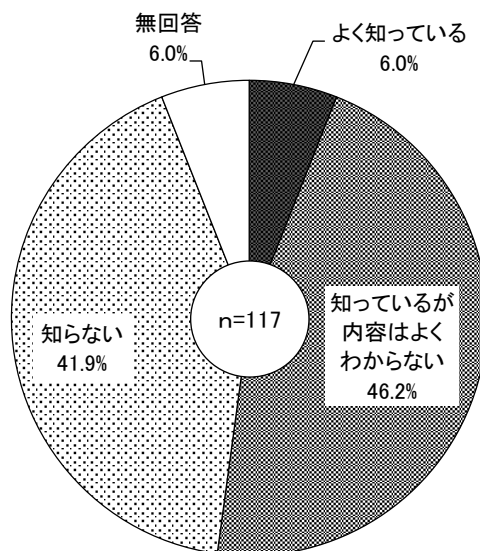
(4-3) 耐震診断や耐震改修工事などの費用の助成の認知度

◇「知っているが内容はよくわからない」が4割台半ば

(問25-1で「1 耐震化したい」「2 耐震化するつもりはない」と答えた方へ)

問25-3 昭和56年5月以前の基準(旧耐震基準)で建築され、諸条件に合致した建築物を対象に耐震診断や耐震改修工事などの費用の助成を行っていますか。

図2-4-9 耐震診断や耐震改修工事などの費用の助成の認知度



昭和56年5月以前の基準(旧耐震基準)の住まいの耐震化の意向に「耐震化したい」、「耐震化するつもりはない」と答えた方(117人)に、耐震診断や耐震改修工事などの費用の助成の認知度を聞いたところ、「よく知っている」(6.0%)が1割未満、「知っているが内容はよくわからない」(46.2%)が4割台半ば、「知らない」(41.9%)が4割台となっている。

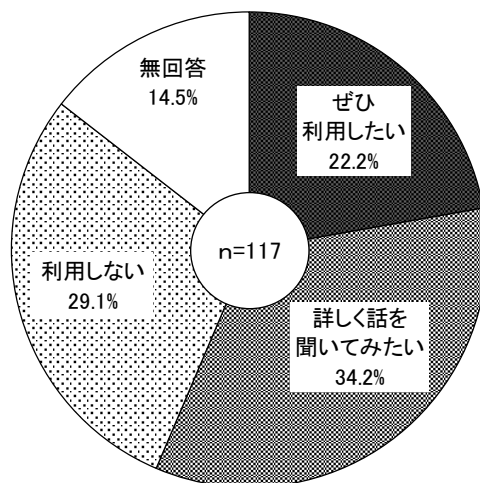
(図2-4-9)

(4-4) 耐震化助成の対象の場合の利用意向

◇「ぜひ利用したい」が2割台

(問25-1で「1 耐震化したい」「2 耐震化するつもりはない」と答えた方へ)
問25-4 耐震化助成の対象であれば利用したいと思いますか。

図2-4-10 耐震化助成の対象の場合の利用意向



昭和56年5月以前の基準（旧耐震基準）の住まいの耐震化の意向に「耐震化したい」、「耐震化するつもりはない」と答えた方（117人）に、耐震化助成の対象の場合の利用意向を聞いたところ、「ぜひ利用したい」（22.2%）が2割台、「詳しく話を聞いてみたい」（34.2%）が3割台半ば、「利用しない」（29.1%）が約3割となっている。（図2-4-10）

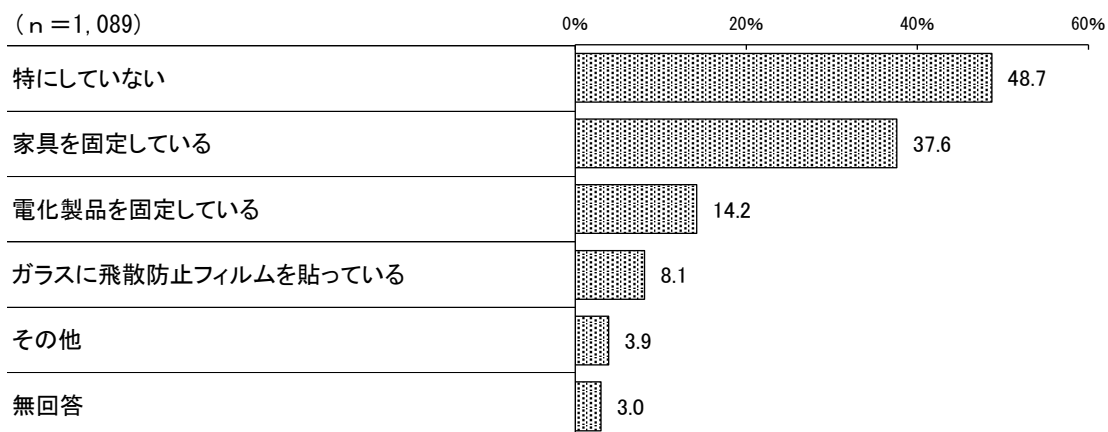
－室内の安全対策について－

(5) 室内の安全対策の実施状況

◇「特にしていない」が5割近く

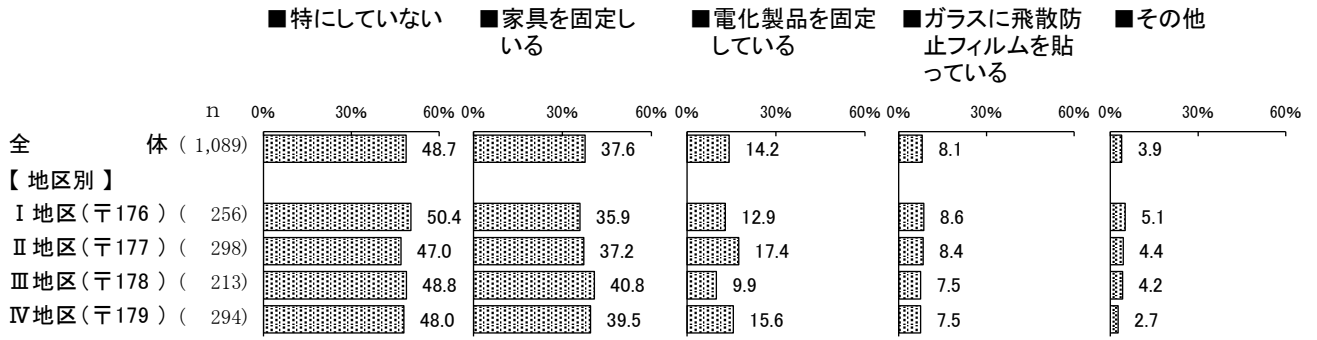
問26 室内の安全対策をしていますか。(〇はいくつでも)

図2-5-1 室内の安全対策の実施状況



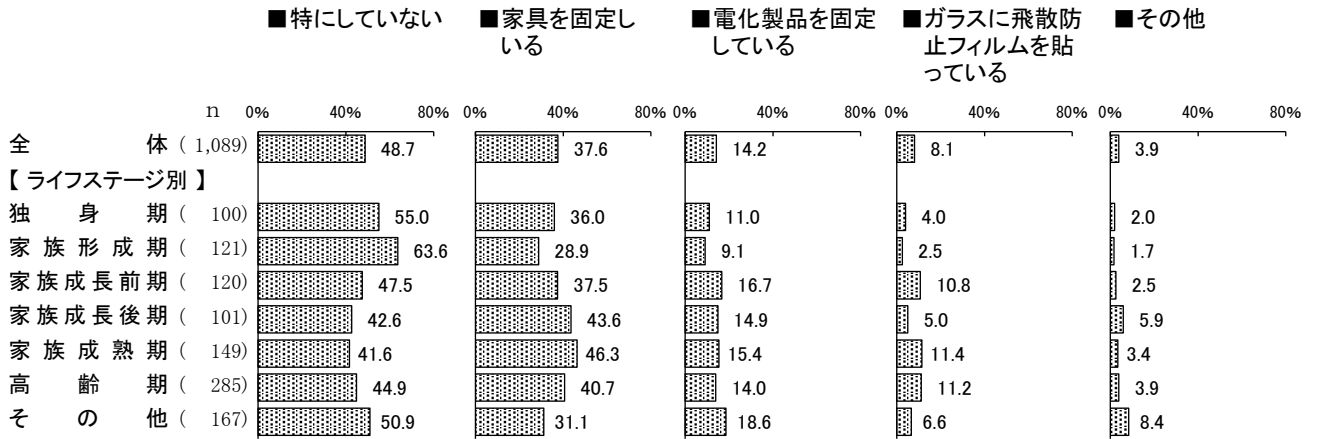
室内の安全対策の実施状況を聞いたところ、「特にしていない」(48.7%)が5割近くと最も多く、「家具を固定している」(37.6%)が4割近く、「電化製品を固定している」(14.2%)が1割台半ばとなっている。(図2-5-1)

図 2-5-2 室内の安全対策の実施状況—地区別



地区別にみると、地区間で大きな傾向の違いはみられない。(図 2-5-2)

図 2-5-3 室内の安全対策の実施状況—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「家具を固定している」は家族成長後期、家族成熟期、高齢期で4割を超えている。一方、「特にしていない」は家族形成期で6割を超え、独身期で5割台半ばと多くなっている。(図2-5-3)

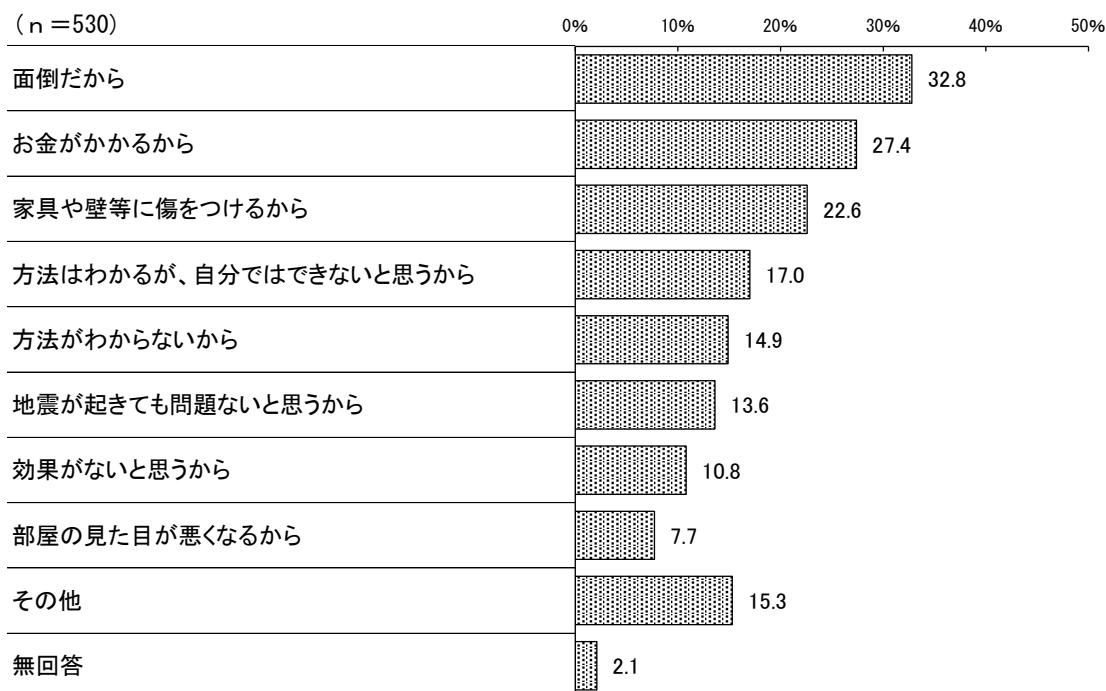
(5-1) 室内の安全対策をしない理由

◇「面倒だから」が3割を超える

(問26で「5 特にしていない」と答えた方へ)

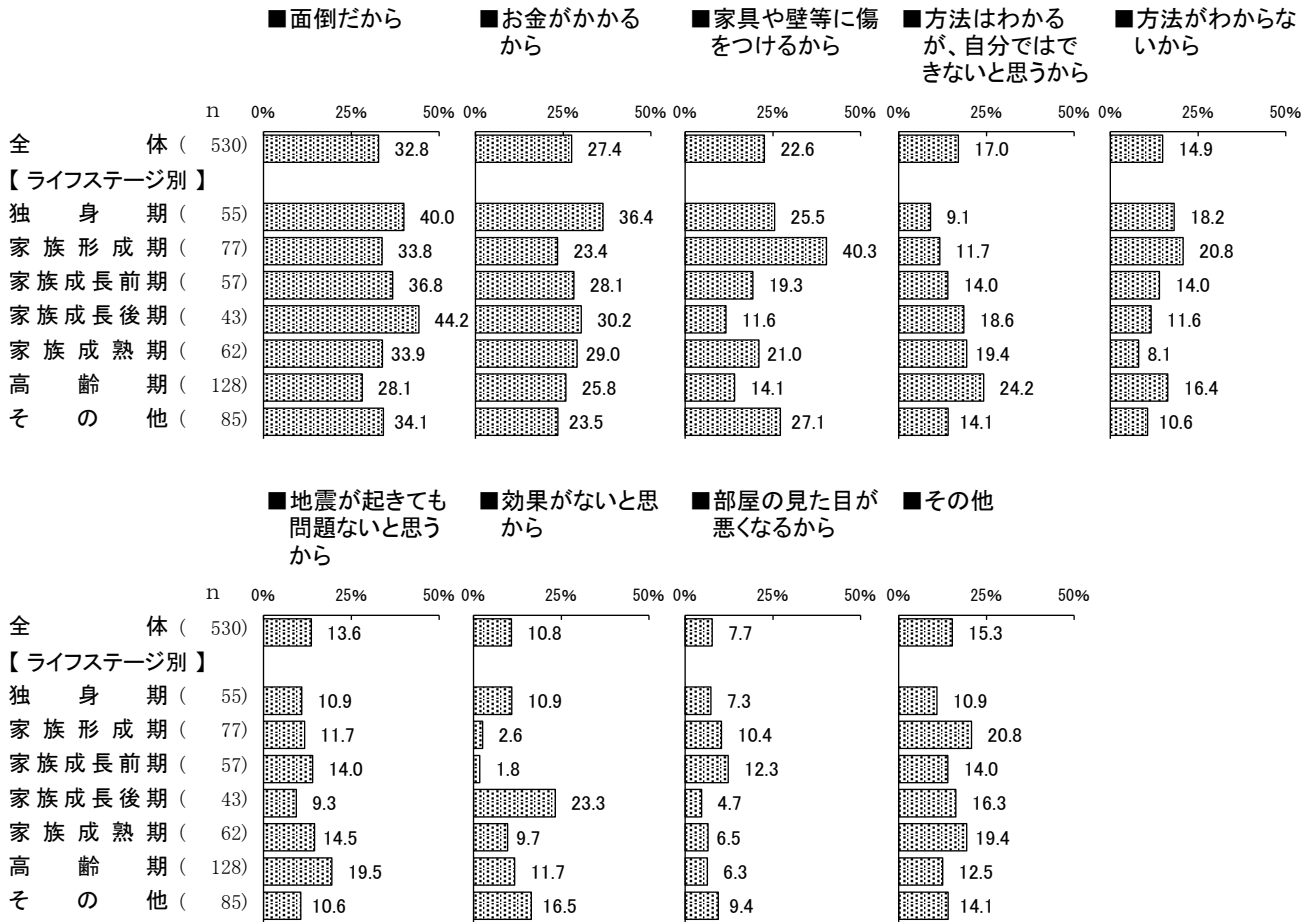
問26-1 あなたが安全対策をしない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図2-5-4 室内の安全対策をしない理由



室内の安全対策を「特にしていない」と答えた方(530人)に、室内の安全対策をしない理由を聞いたところ、「面倒だから」(32.8%)が3割を超えて最も多く、次いで「お金がかかるから」(27.4%)、「家具や壁等に傷をつけるから」(22.6%)、「方法はわかるが、自分ではできないと思うから」(17.0%)などの順となっている。(図2-5-4)

図2-5-5 室内の安全対策をしない理由—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「面倒だから」は家族成長後期で4割台半ば、独身期で4割、「お金がかかるから」は独身期で3割台半ば、「家具や壁等に傷をつけるから」は家族形成期で約4割と多くなっている。「効果がないと思うから」は家族成長後期で2割を超えている。

(図2-5-5)

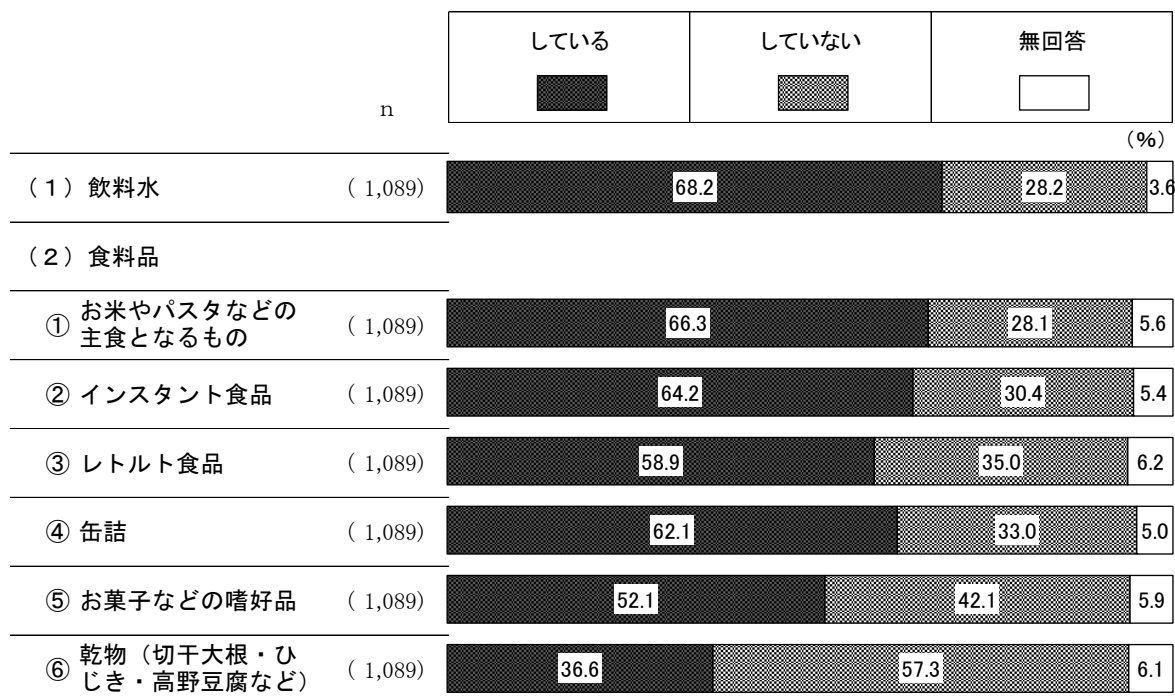
－備蓄について－

(6) 飲料水・食料品の備蓄の有無

◇「している」は飲料水、お米やパスタなどの主食、インスタント食品、缶詰で6割台

問27 次に挙げるものをどの程度備蓄していますか。具体的にご記入ください。
備蓄がない場合は「2 していない」に○をつけてください。

図2-6-1 飲料水・食料品の備蓄の有無



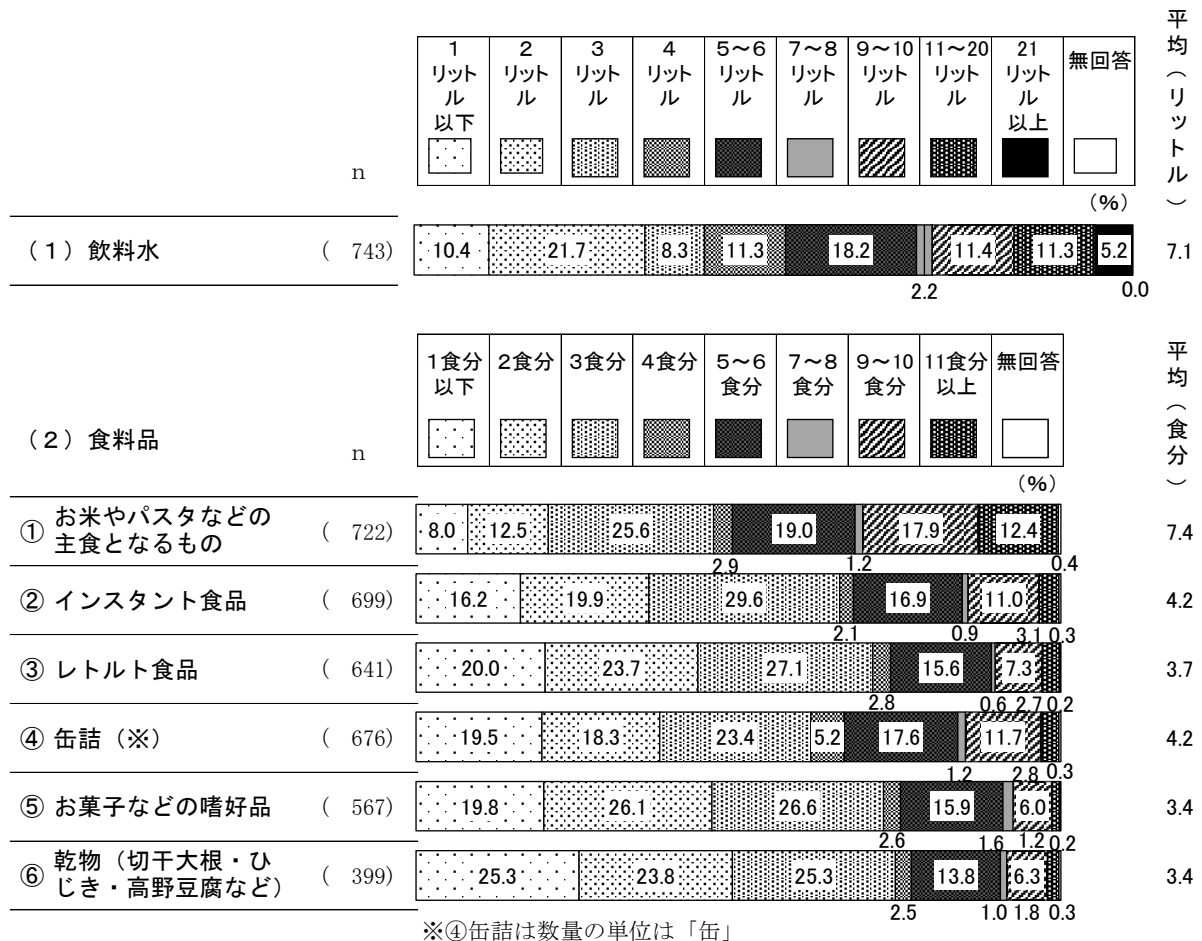
飲料水・食料品について備蓄しているか聞いたところ、「している」は「飲料水」(68.2%)で7割近く、「お米やパスタなどの主食となるもの」(66.3%)、「インスタント食品」(64.2%)で6割台半ば、「缶詰」(62.1%)で6割を超えている。(図2-6-1)

(6-1) 飲料水・食料品の家族一人あたりの備蓄量 (備蓄者)

◇備蓄者の家族一人あたりの平均は飲料水で7.1リットル、お米やパスタなどの主食で7.4食分

問27 次に挙げるものをどの程度備蓄していますか。具体的にご記入ください。
備蓄がない場合は「2 していない」に○をつけてください。

図2-6-2 飲料水・食料品の家族一人あたりの備蓄量 (備蓄者)

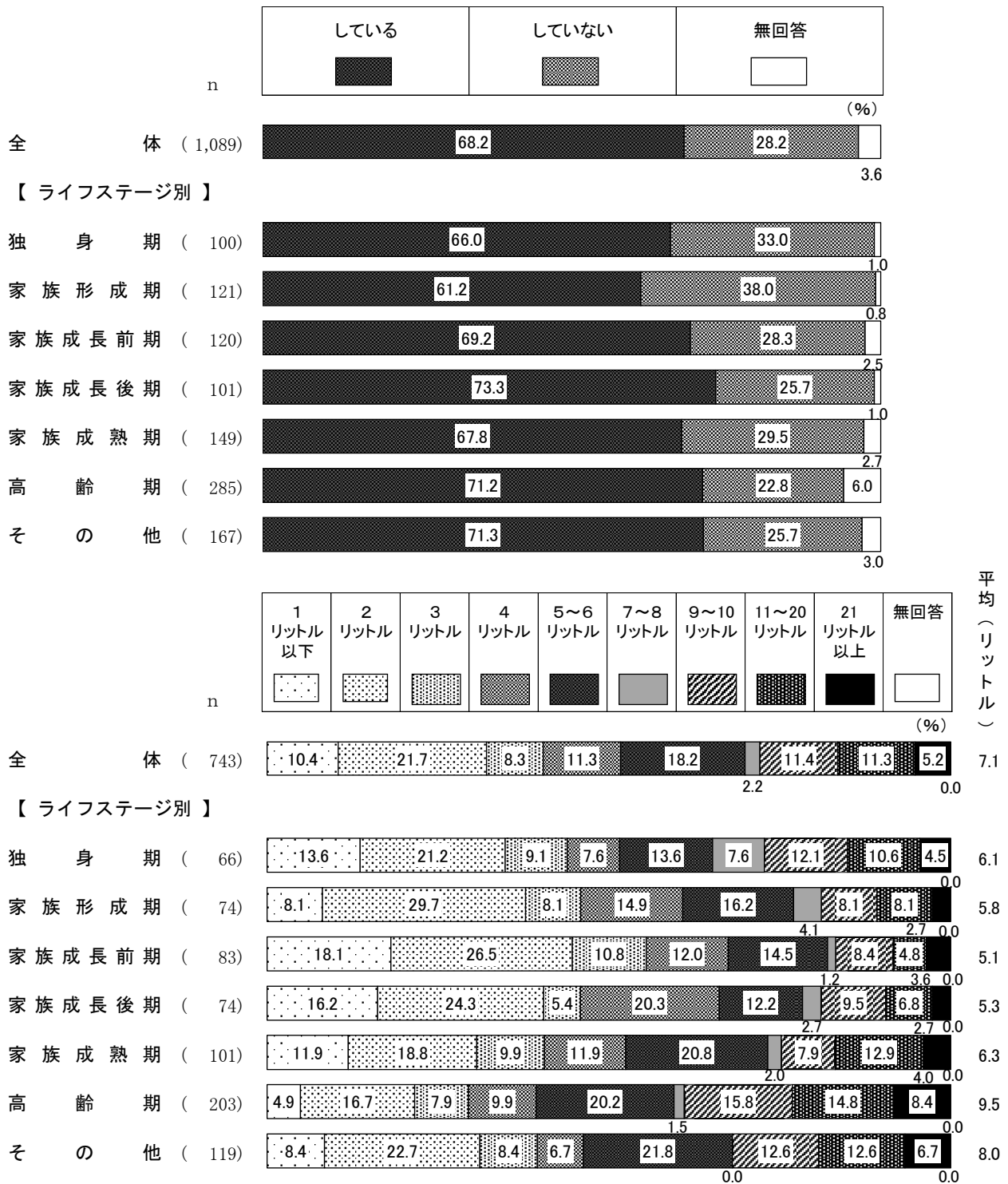


飲料水の備蓄者の家族一人あたりの平均備蓄量は、2日分相当の7.1リットルとなっている。
※飲料水については、1日3リットルを目安に最低3日分程度の備蓄が望ましいとされている。

食料品の備蓄者の家族一人あたりの平均備蓄量は、「お米やパスタなどの主食となるもの」で7.4食分、「インスタント食品」で4.2食分、「缶詰」で4.2缶となっている。(図2-6-2)

図2-6-3 飲料水・食料品の備蓄の有無と家族一人あたりの備蓄量（備蓄者）－ライフステージ別

(1) 飲料水

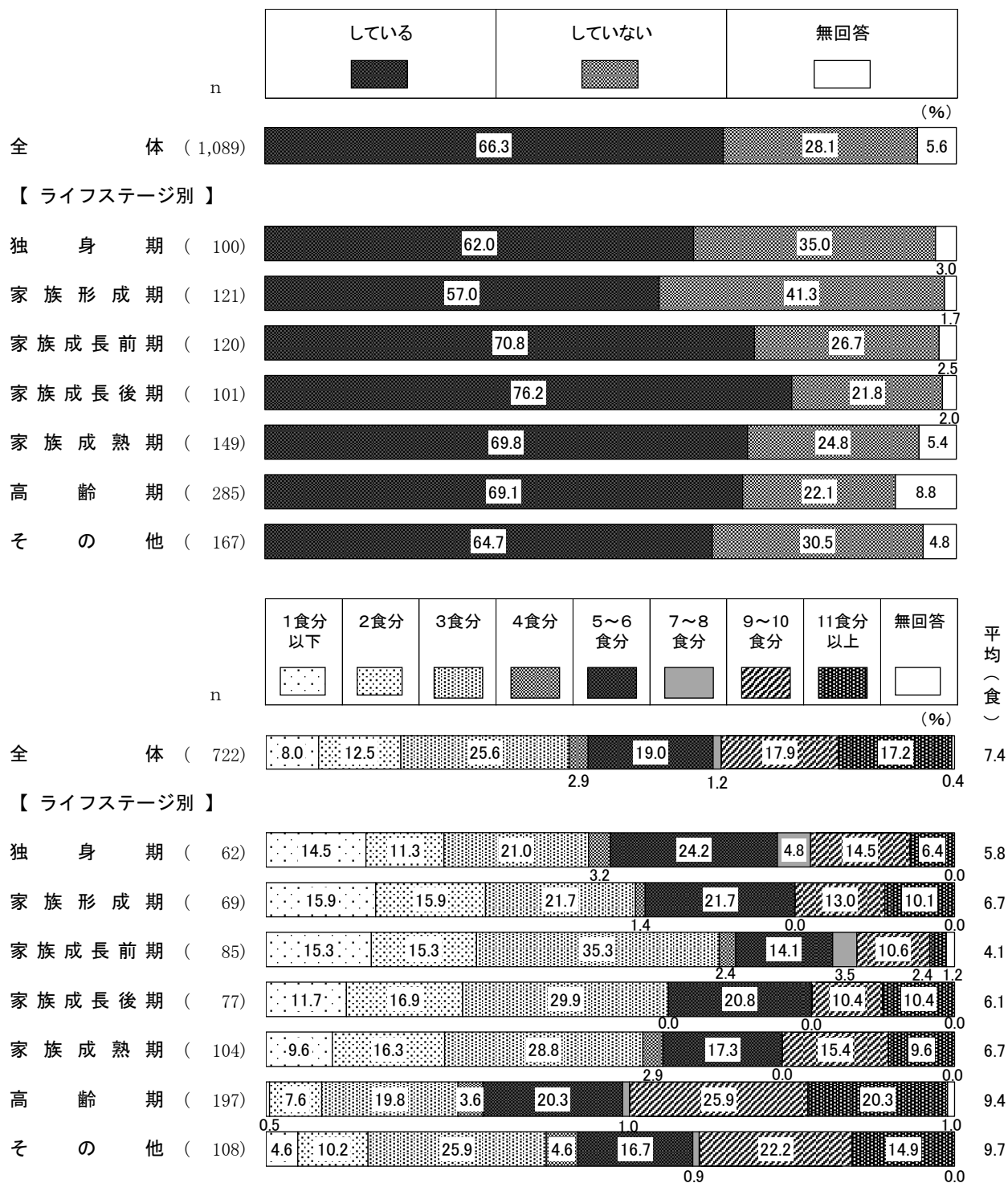


飲料水について、ライフステージ別にみると、「している」は家族成長後期、高齢期、その他で7割を超えている。

備蓄者の家族一人あたりの平均備蓄量は、高齢期で9.5リットル、その他で8.0リットルと多くなっている。(図2-6-3)

図2-6-4 飲料水・食料品の備蓄の有無と家族一人あたりの備蓄量（備蓄者）－ライフステージ別

(2) 食料品 ①お米やパスタなどの主食となるもの

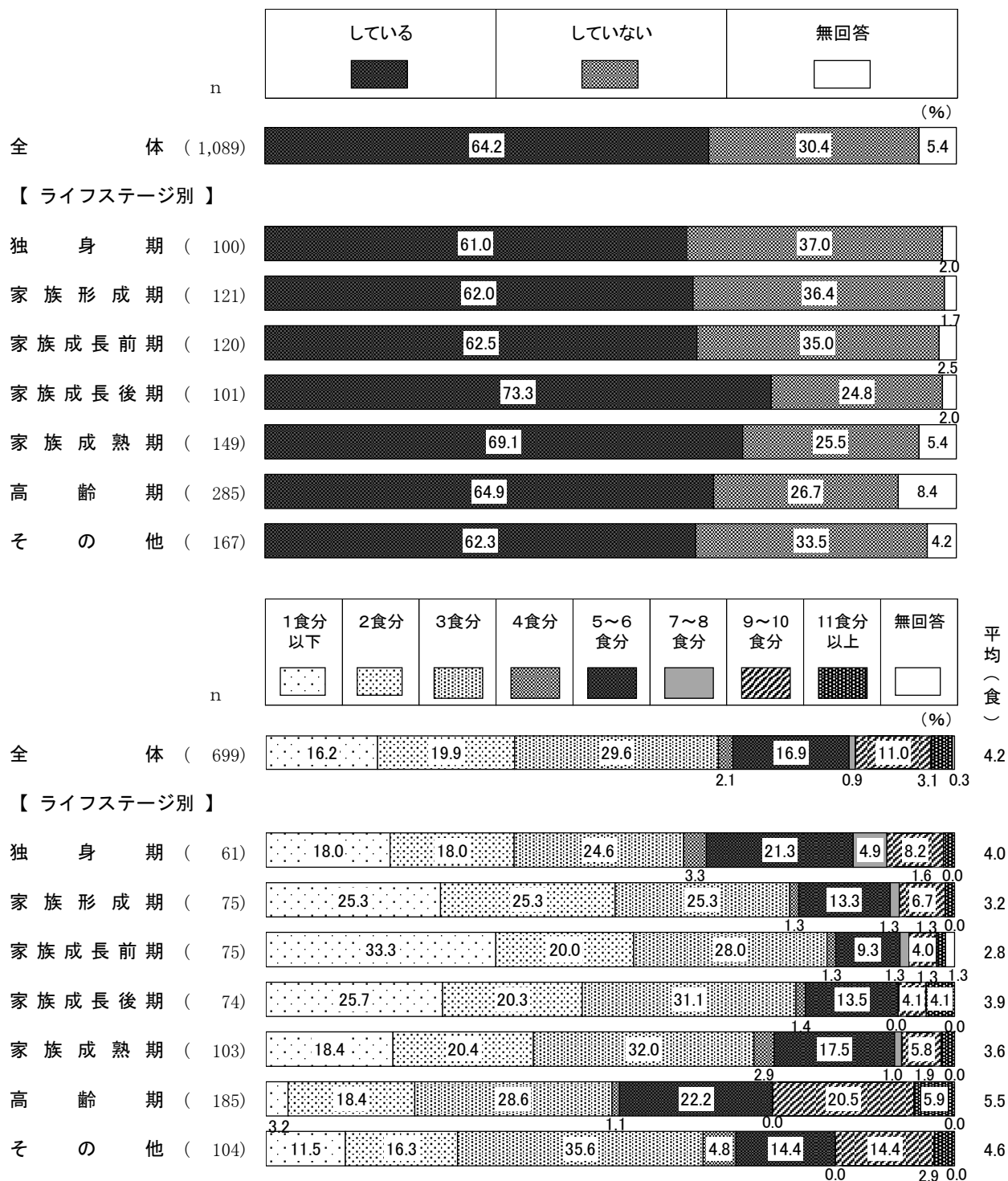


お米やパスタなどの主食となるものについて、ライフステージ別にみると、「している」は家族成長後期で7割台半ばと多く、家族成長前期、家族成熟期、高齢期で約7割となっている。

備蓄者の家族一人あたりの平均備蓄量は、その他で9.7食分、高齢期で9.4食分と多くなっている。(図2-6-4)

図2-6-5 飲料水・食料品の備蓄の有無と家族一人あたりの備蓄量（備蓄者）－ライフステージ別

(2) 食料品 ②インスタント食品

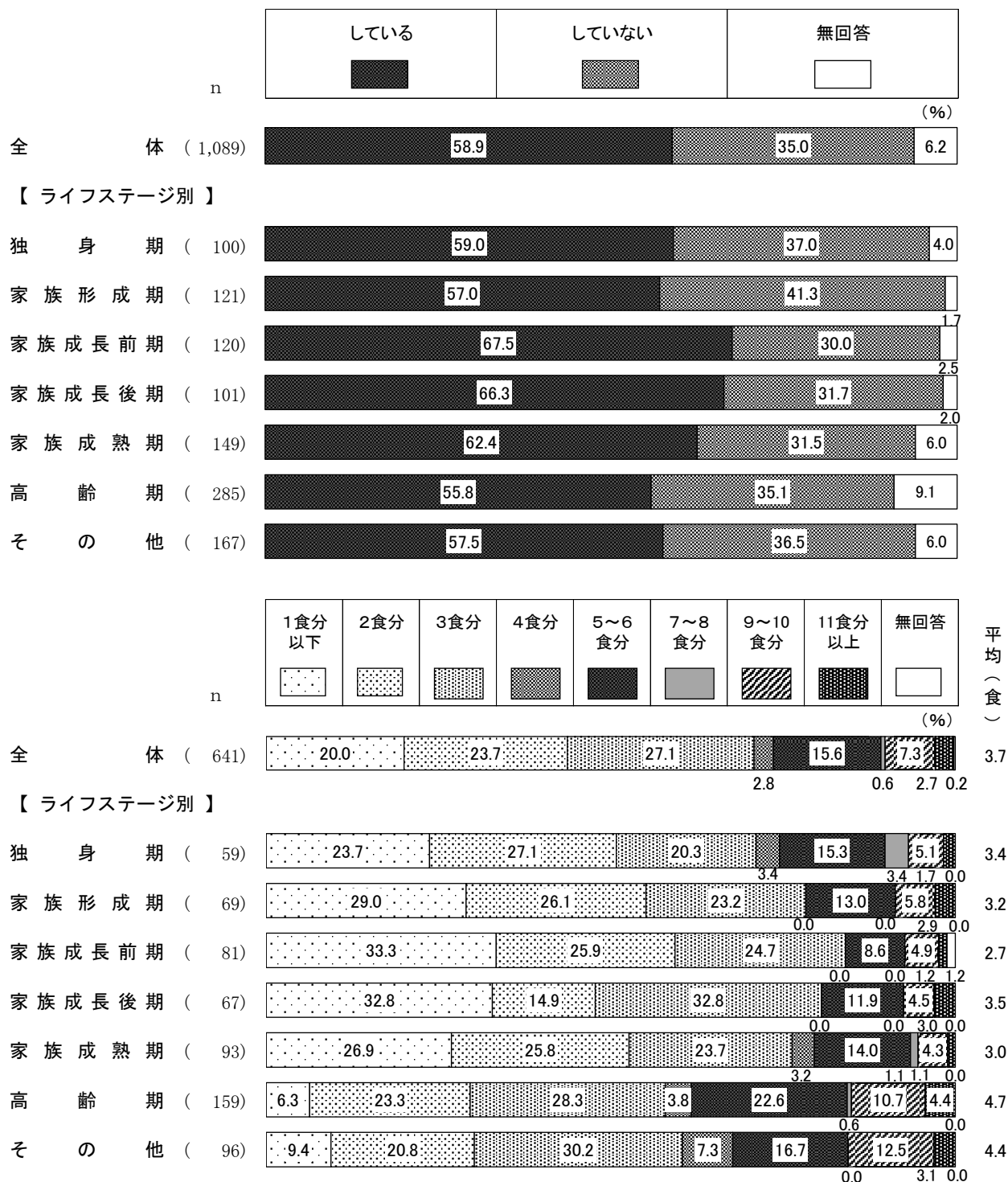


インスタント食品について、ライフステージ別にみると、「している」は家族成長後期で7割を超えて多く、家族成熟期で約7割となっている。

備蓄者の家族一人あたりの平均備蓄量は、高齢期で5.5食分、その他で4.6食分と多くなっている。(図2-6-5)

図2-6-6 飲料水・食料品の備蓄の有無と家族一人あたりの備蓄量（備蓄者）－ライフステージ別

(2) 食料品 ③レトルト食品

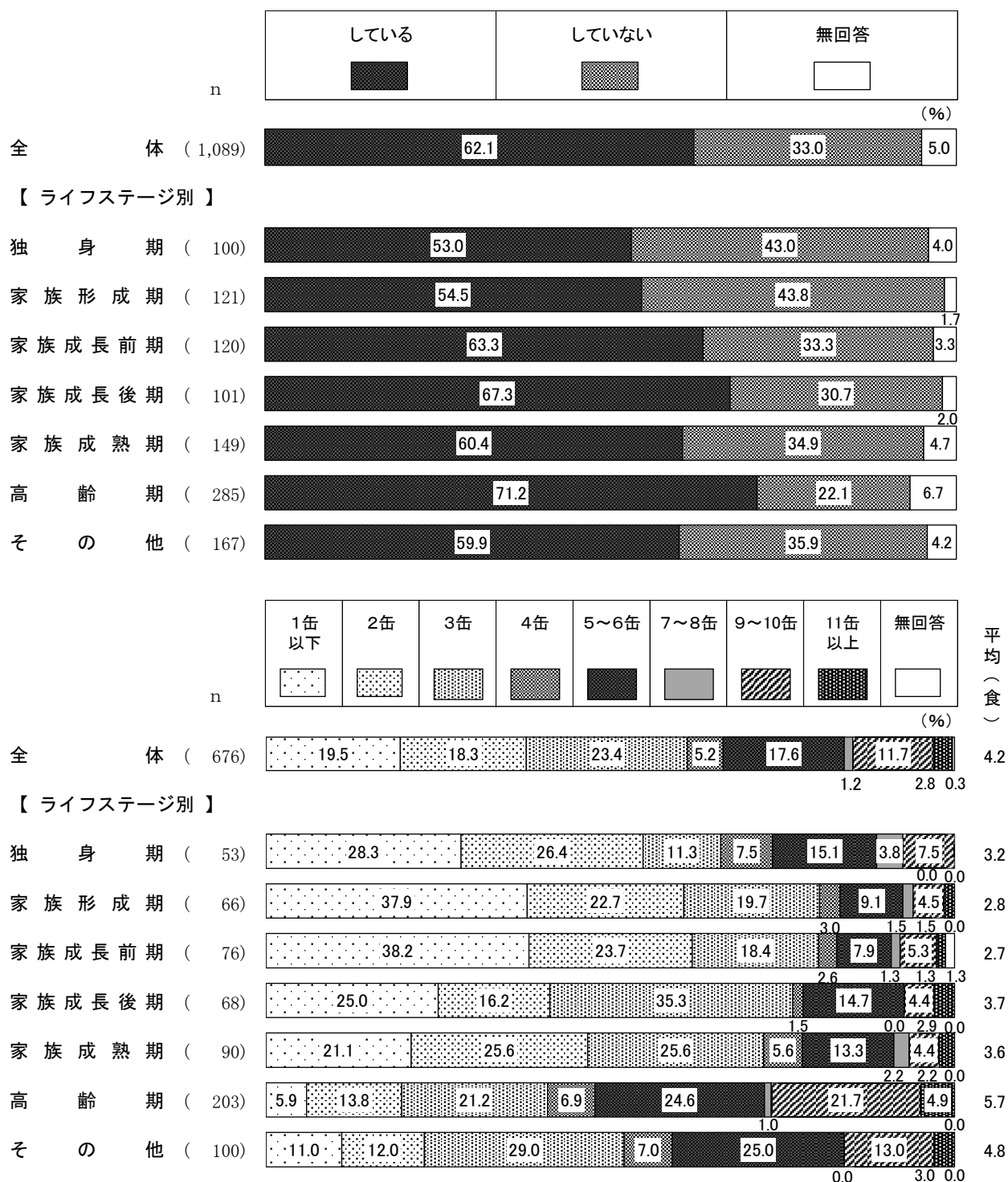


レトルト食品について、ライフステージ別にみると、「している」は家族成長前期で7割近く、家族成長後期で6割台半ばと多くなっている。

備蓄者の家族一人あたりの平均備蓄量は、高齢期で4.7食分、その他で4.4食分と多くなっている。(図2-6-6)

図2-6-7 飲料水・食料品の備蓄の有無と家族一人あたりの備蓄量（備蓄者）－ライフステージ別

(2) 食料品 ④缶詰

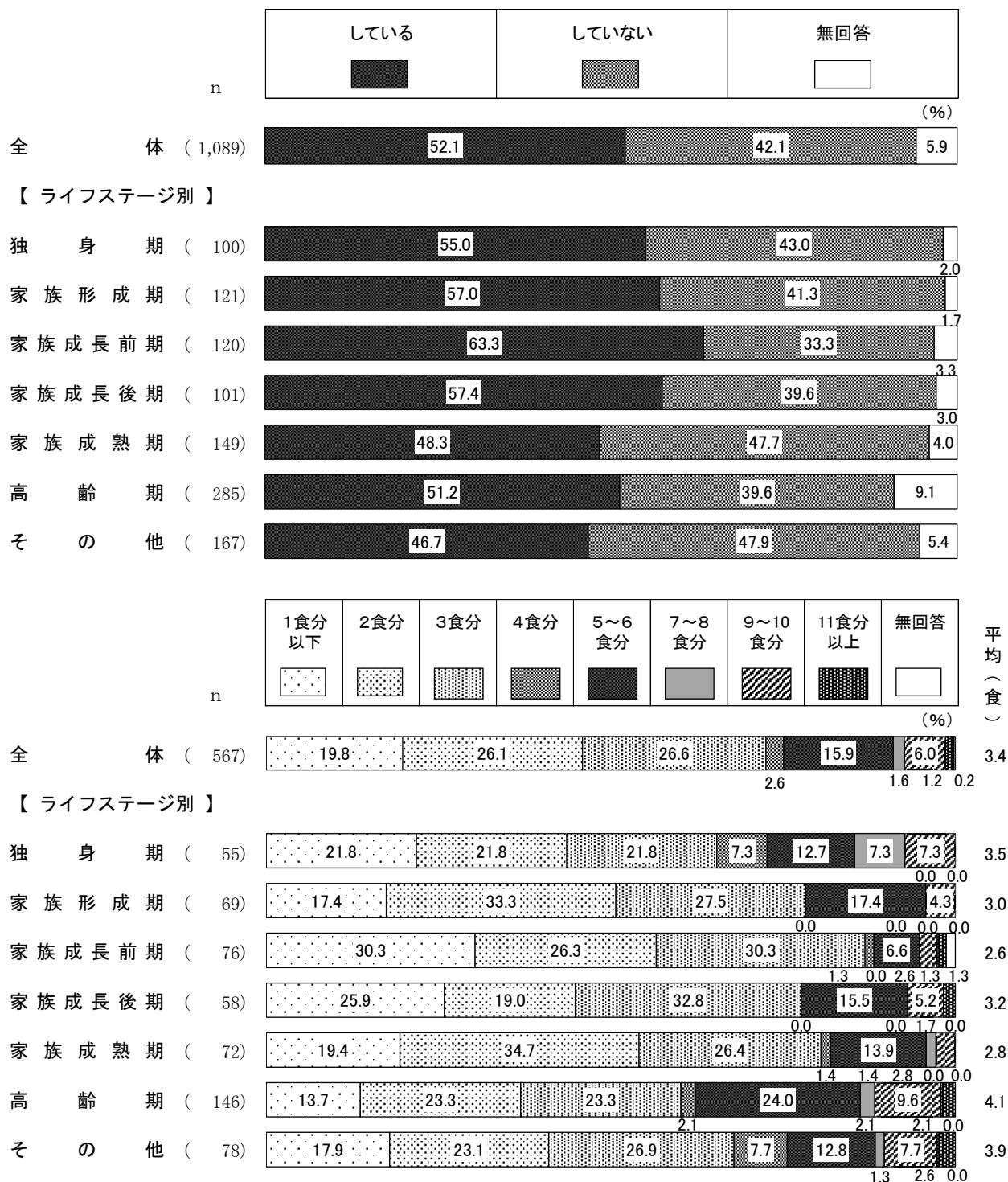


缶詰について、ライフステージ別にみると、「している」は高齢期で約7割、家族成長後期で7割近くと多くなっている。

備蓄者の家族一人あたりの平均備蓄量は、高齢期で5.7缶、その他で4.8缶と多くなっている。(図2-6-7)

図2-6-8 飲料水・食料品の備蓄の有無と家族一人あたりの備蓄量（備蓄者）－ライフステージ別

(2) 食料品 ⑤お菓子などの嗜好品

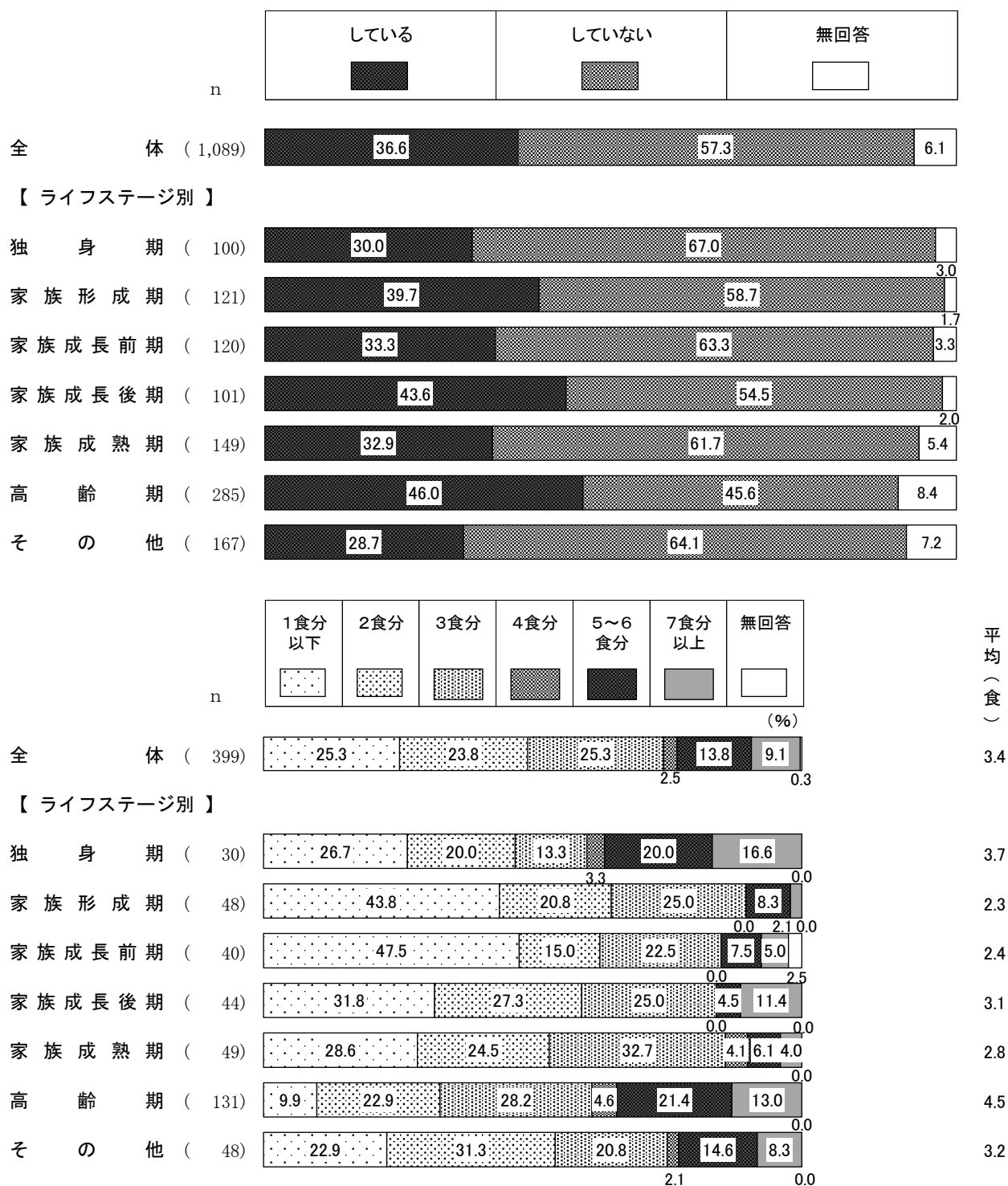


お菓子などの嗜好品について、ライフステージ別にみると、「している」は家族成長前期で6割を超え、家族形成期、家族成長後期で6割近くと多くなっている。

備蓄者の家族一人あたりの平均備蓄量は、高齢期で4.1食分、その他で3.9食分と多くなっている。(図2-6-8)

図2-6-9 飲料水・食料品の備蓄の有無と家族一人あたりの備蓄量（備蓄者）－ライフステージ別

(2) 食料品 ⑥乾物（切干大根・ひじき・高野豆腐など）



乾物（切干大根・ひじき・高野豆腐など）について、ライフステージ別にみると、「している」は高齢期で4割台半ば、家族成長後期で4割を超えて多くなっている。

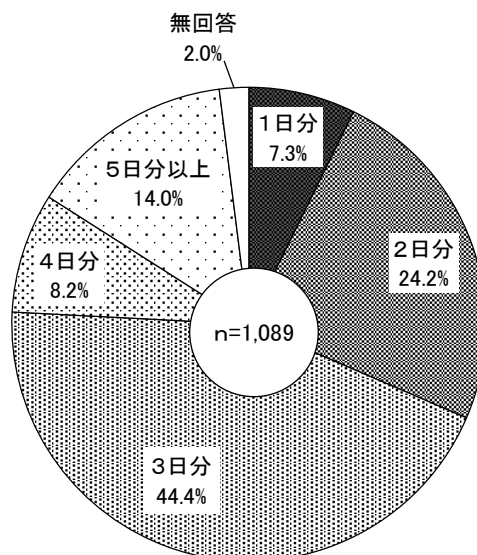
備蓄者の家族一人あたりの平均備蓄量は、高齢期で4.5食分と多くなっている。（図2-6-9）

(7) 日常的に冷蔵・冷凍庫の中に保存している食料品の在庫日数

◇「3日分」が4割台半ば

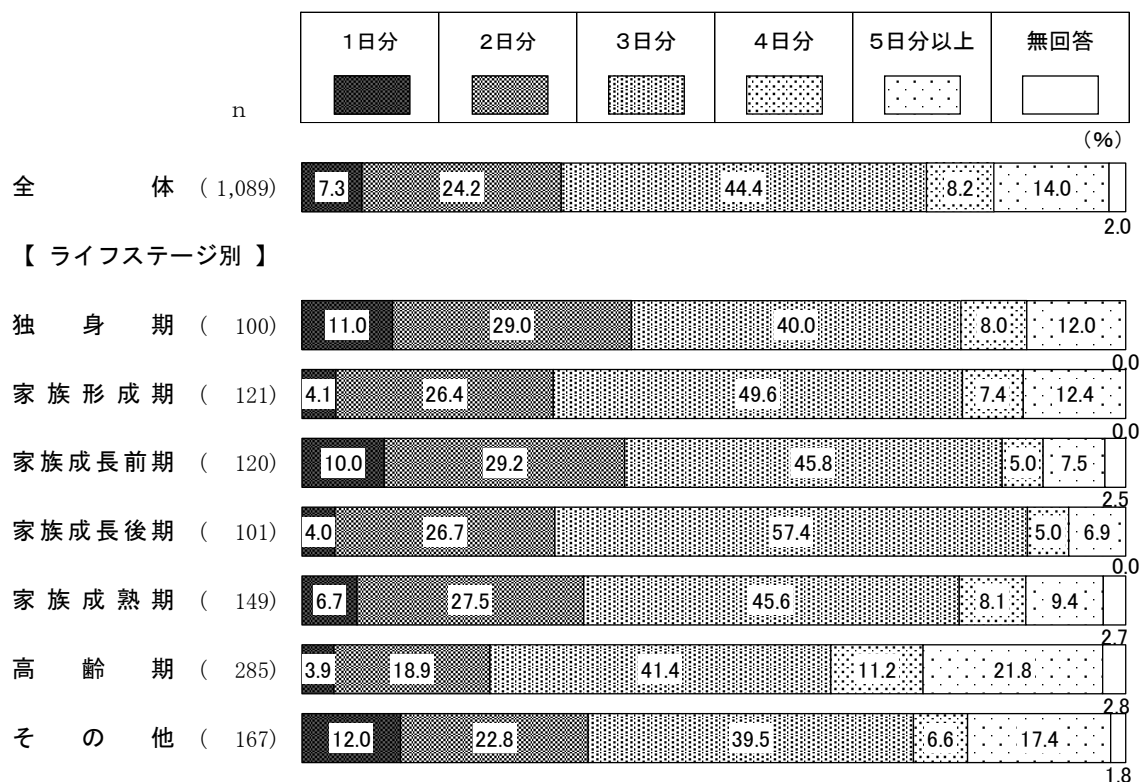
問28 日常的に冷蔵・冷凍庫の中には何日分程度の食料が保存されていますか。

図2-7-1 日常的に冷蔵・冷凍庫の中に保存している食料品の在庫日数



日常的に冷蔵・冷凍庫の中に保存している食料品の在庫日数を聞いたところ、「3日分」(44.4%)が4割台半ばと最も多く、次いで「2日分」(24.2%)が2割台半ば、「5日分以上」(14.0%)が1割台半ばとなっている。(図2-7-1)

図 2-7-2 日常的に冷蔵・冷凍庫の中に保存している食品の在庫日数－ライフステージ別



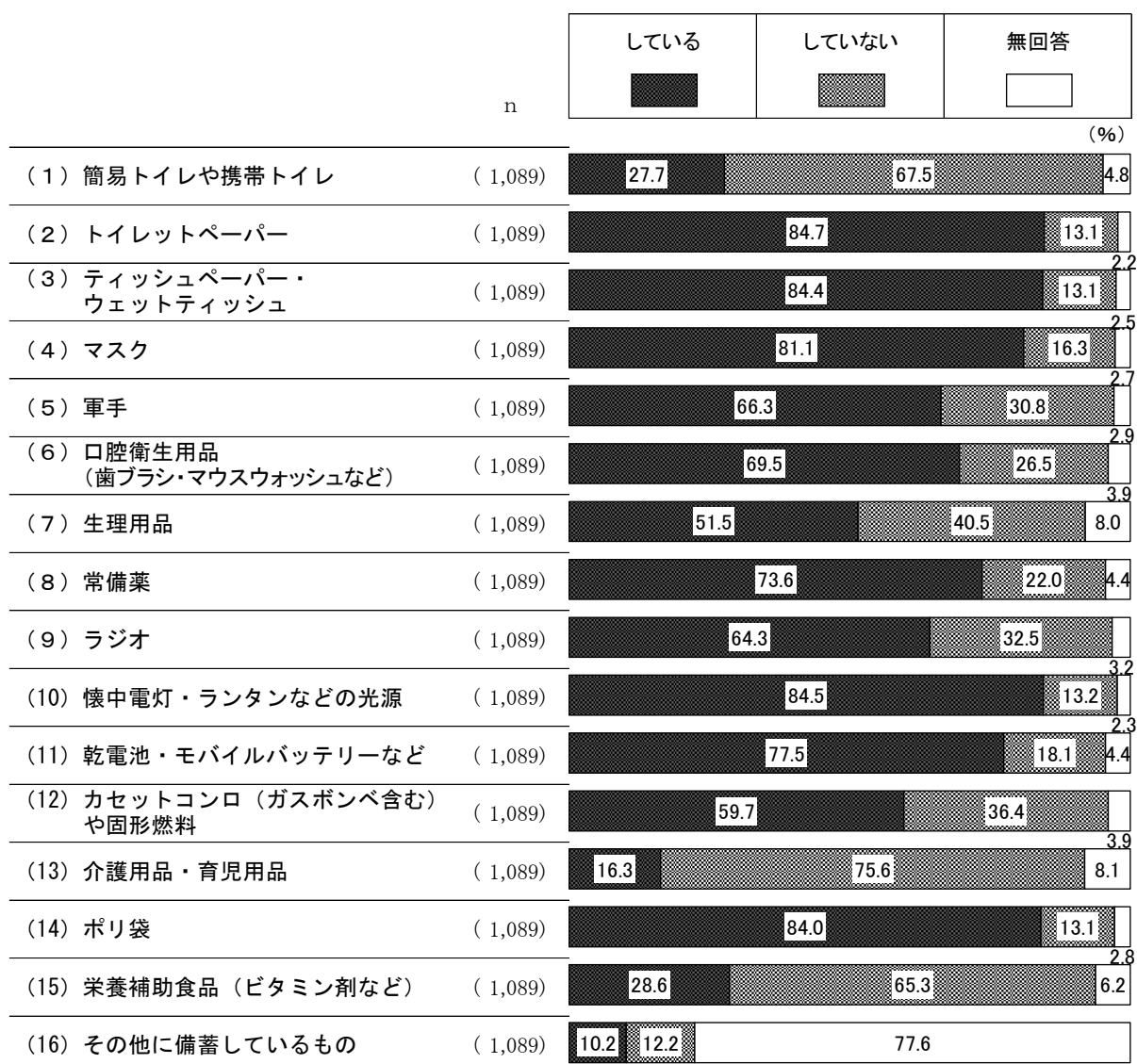
ライフステージ別にみると、「3日分」は家族成長後期で6割近く、「5日以上」は高齢期で2割を超えて多くなっている。(図2-7-2)

(8) 日用品等の備蓄の有無

◇「している」はトイレトペーパー、ティッシュペーパー・ウェットティッシュ、懐中電灯・ランタンなどの光源、ポリ袋で8割台半ば

問29 次に日用品等についておうかがいします。
(1)～(15)の項目ごとに選んでください。

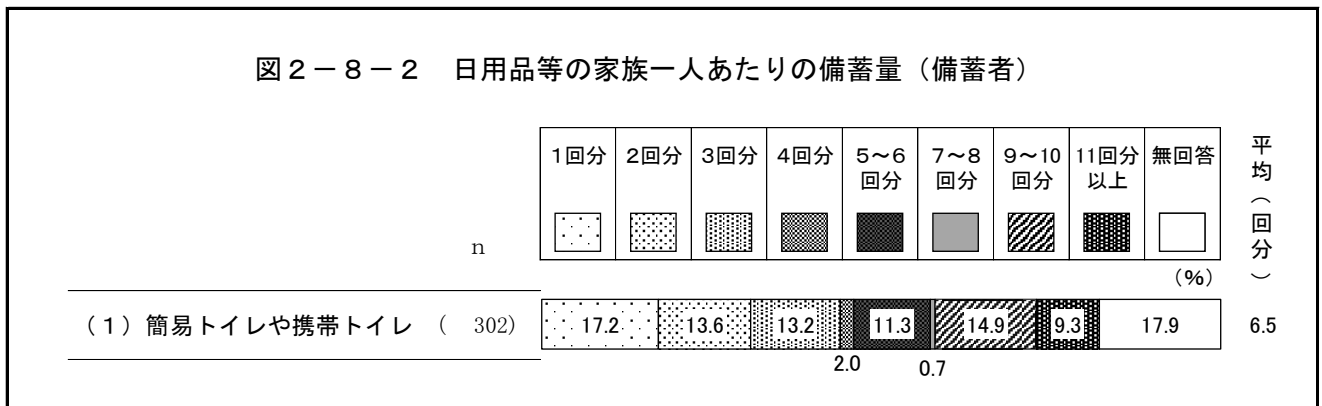
図2-8-1 日用品等の備蓄の有無



日用品等について備蓄しているか聞いたところ、「している」は「トイレトペーパー」、「ティッシュペーパー・ウェットティッシュ」、「懐中電灯・ランタンなどの光源」、「ポリ袋」で8割台半ば、「マスク」で約8割、「乾電池・モバイルバッテリーなど」で8割近くと多くなっている。(図2-8-1)

(8-1) 日用品等の家族一人あたりの備蓄量 (備蓄者)

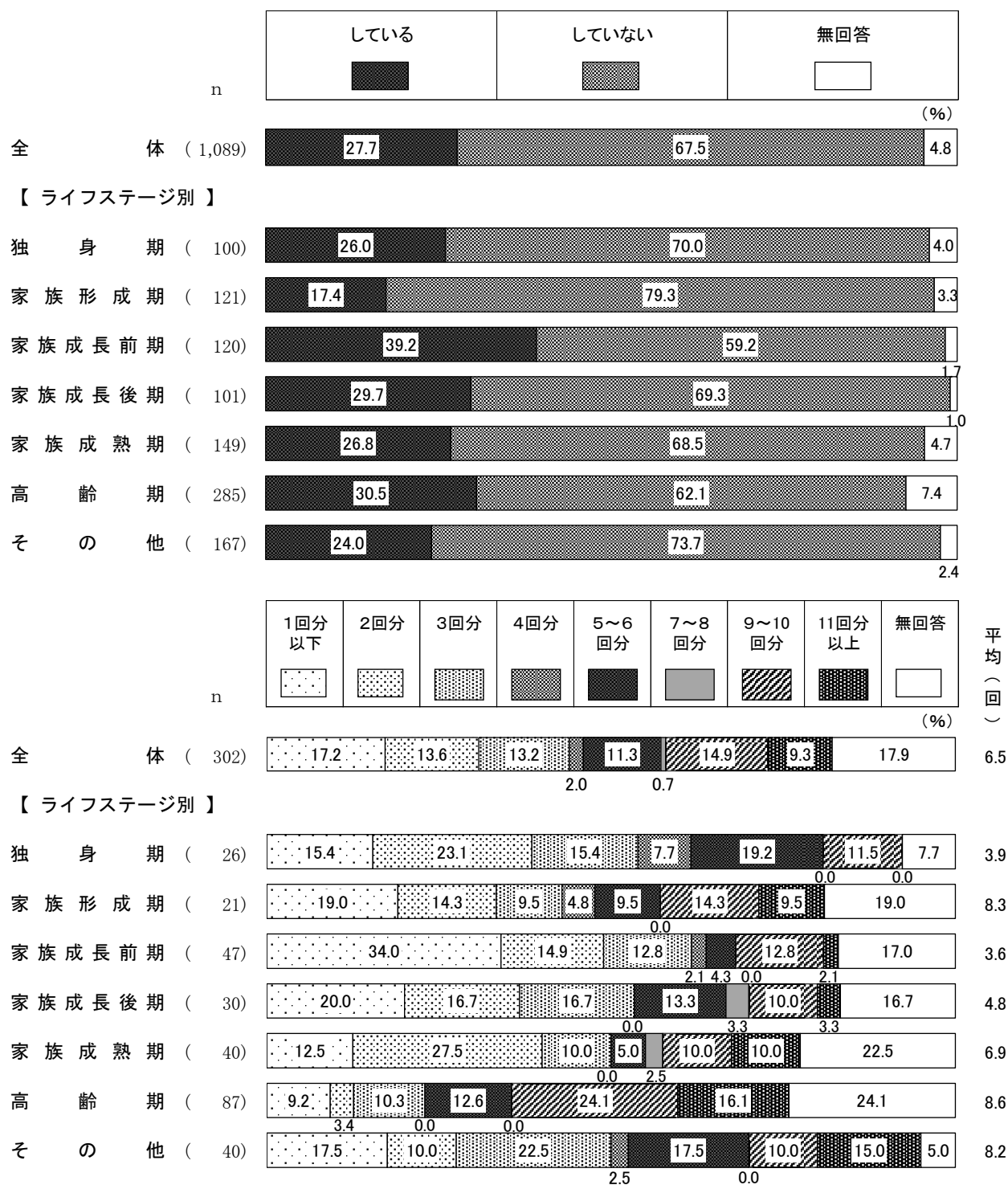
◇簡易トイレや携帯トイレ備蓄者の家族一人あたりの平均は「1回分」が2割近く



簡易トイレや携帯トイレの備蓄者の家族一人あたりの平均備蓄量は、「1回分」(17.2%)が2割近く、「9~10回分」(14.9%)が1割台半ば、「2回分」(13.6%)、「3回分」(13.6%)、「5~6回分」(11.3%)が1割台となっており、平均は6.5回分となっている。
 ※簡易トイレや携帯トイレについては、1日5回を目安に最低3日分程度の備蓄が望ましいとされている。(図2-8-2)

図2-8-3 日用品等の備蓄の有無と家族一人あたりの備蓄量（備蓄者）－ライフステージ別

(1) 簡易トイレや携帯トイレ

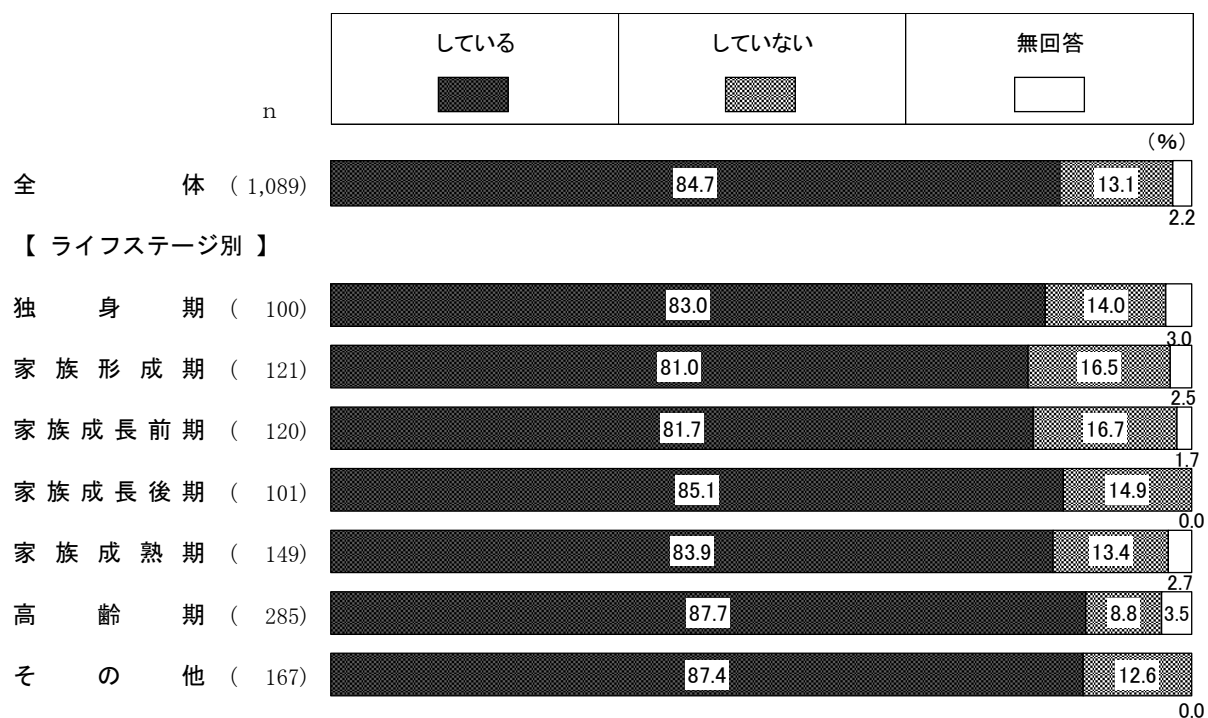


簡易トイレや携帯トイレについて、ライフステージ別にみると、「している」は家族成長前期で約4割と多くなっている。

備蓄者の家族一人あたりの平均備蓄量は、高齢期で8.6回分、その他で8.2回分と多くなっている。(図2-8-3)

図2-8-4 日用品等の備蓄の有無－ライフステージ別

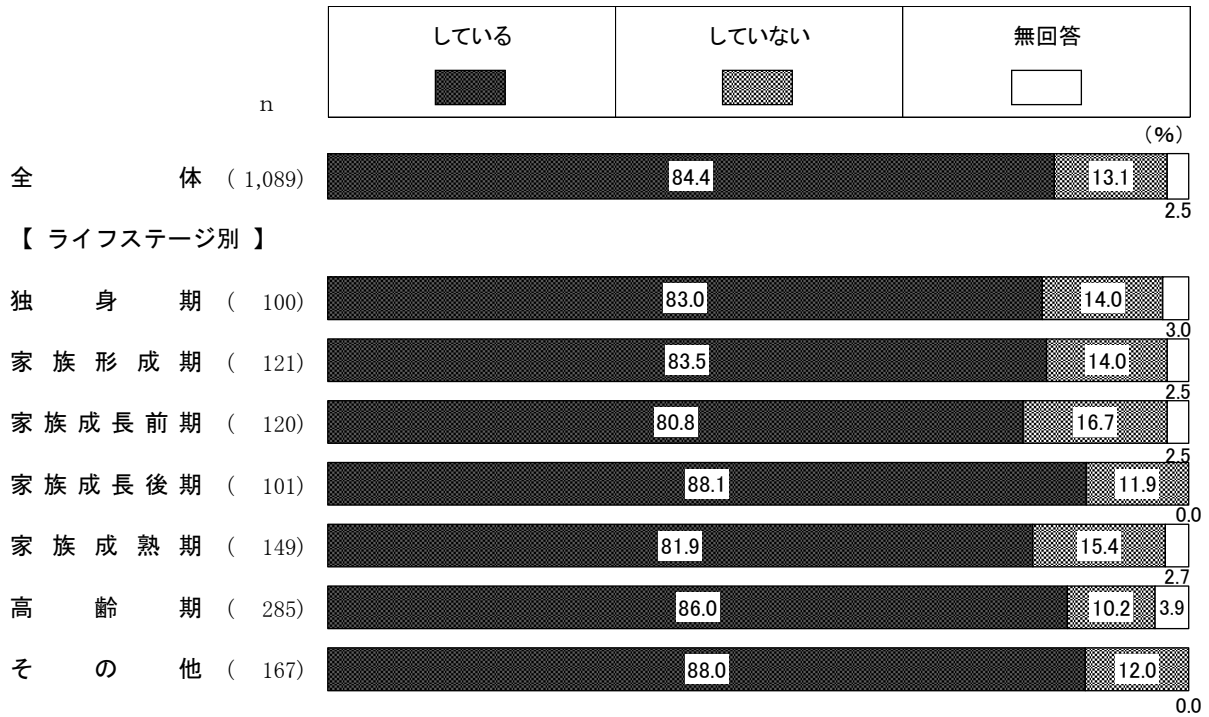
(2) トイレトペーパー



トイレトペーパーについて、ライフステージ別にみると、「している」はすべてのステージで8割を超えている。(図2-8-4)

図2-8-5 日用品等の備蓄の有無－ライフステージ別

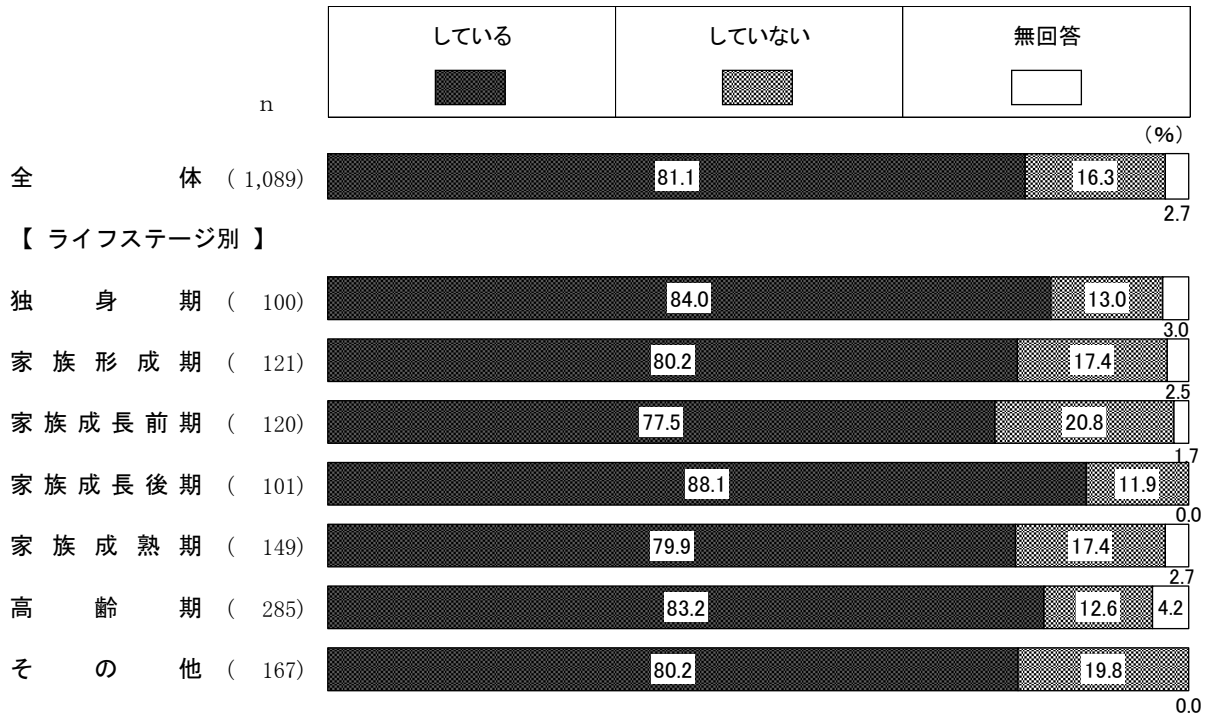
(3) ティッシュペーパー・ウェットティッシュ



ティッシュペーパー・ウェットティッシュについて、ライフステージ別にみると、「している」はすべてのステージで8割を超えている。(図2-8-5)

図2-8-6 日用品等の備蓄の有無－ライフステージ別

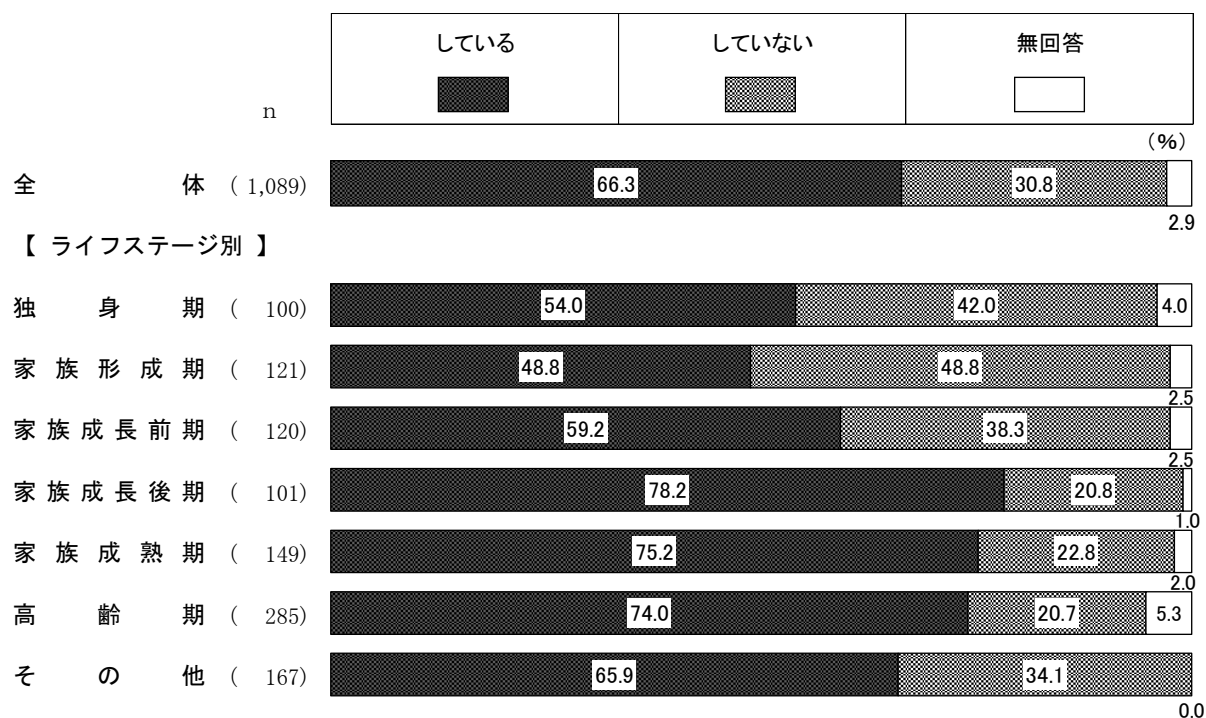
(4) マスク



マスクについて、ライフステージ別にみると、「している」は家族成長後期で9割近くと多くなっている。(図2-8-6)

図2-8-7 日用品等の備蓄の有無－ライフステージ別

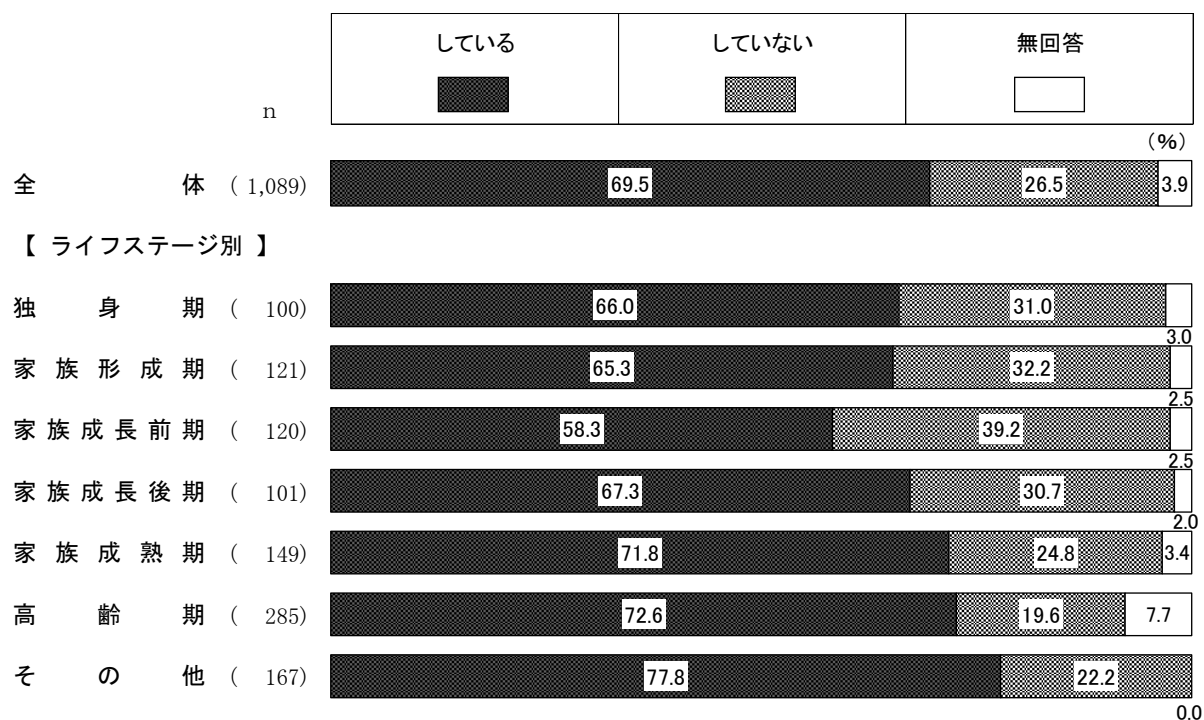
(5) 軍手



軍手について、ライフステージ別にみると、「している」は家族成長後期で8割近く、家族成熟期、高齢期で7割台半ばと多くなっている。一方、「していない」は家族形成期で5割近く、独身期で4割を超えて多くなっている。(図2-8-7)

図2-8-8 日用品等の備蓄の有無－ライフステージ別

(6) 口腔衛生用品（歯ブラシ・マウスウォッシュなど）

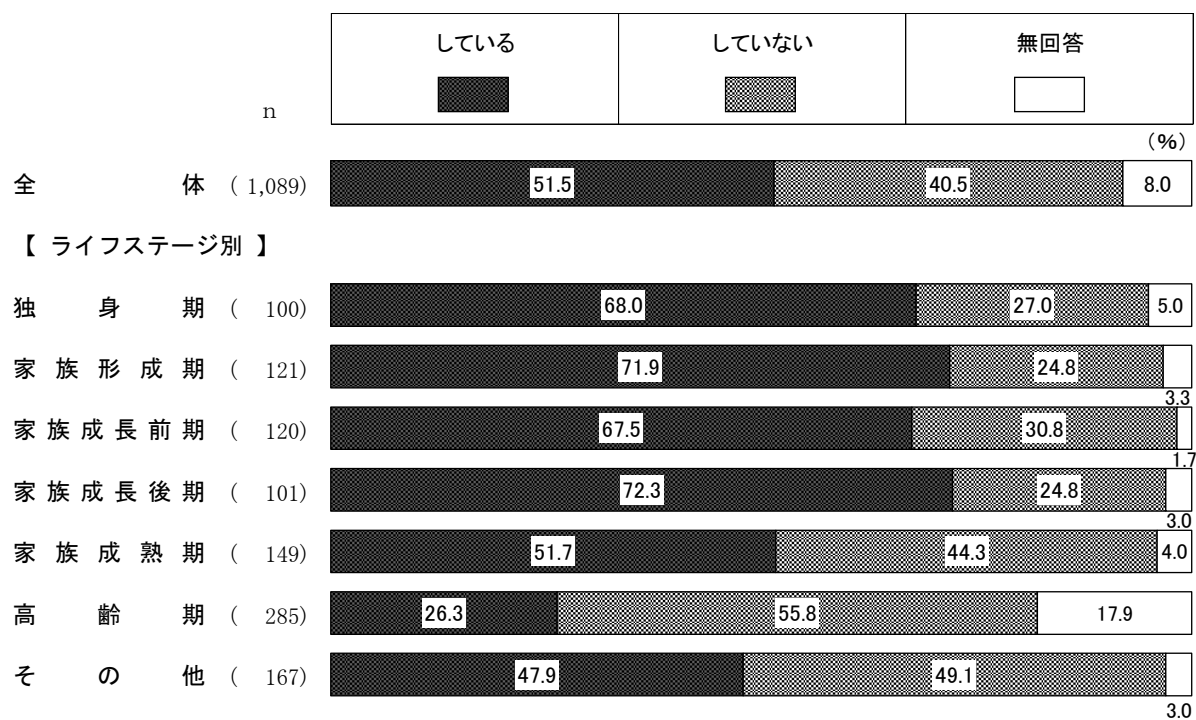


口腔衛生用品（歯ブラシ・マウスウォッシュなど）について、ライフステージ別にみると、「している」はその他で8割近く、家族成熟期、高齢期で7割を超えて多くなっている。

(図2-8-8)

図2-8-9 日用品等の備蓄の有無－ライフステージ別

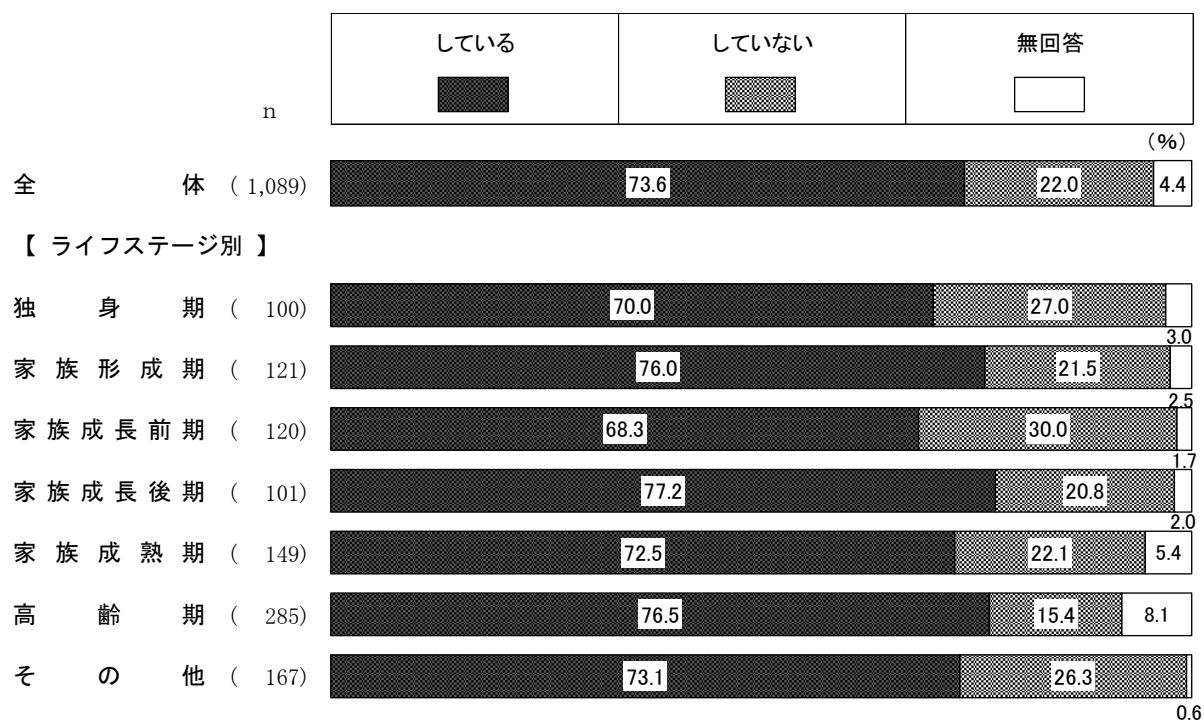
(7) 生理用品



生理用品について、ライフステージ別にみると、「している」は独身期、家族形成期、家族成長前期、家族成長後期で7割前後となっている。(図2-8-9)

図2-8-10 日用品等の備蓄の有無－ライフステージ別

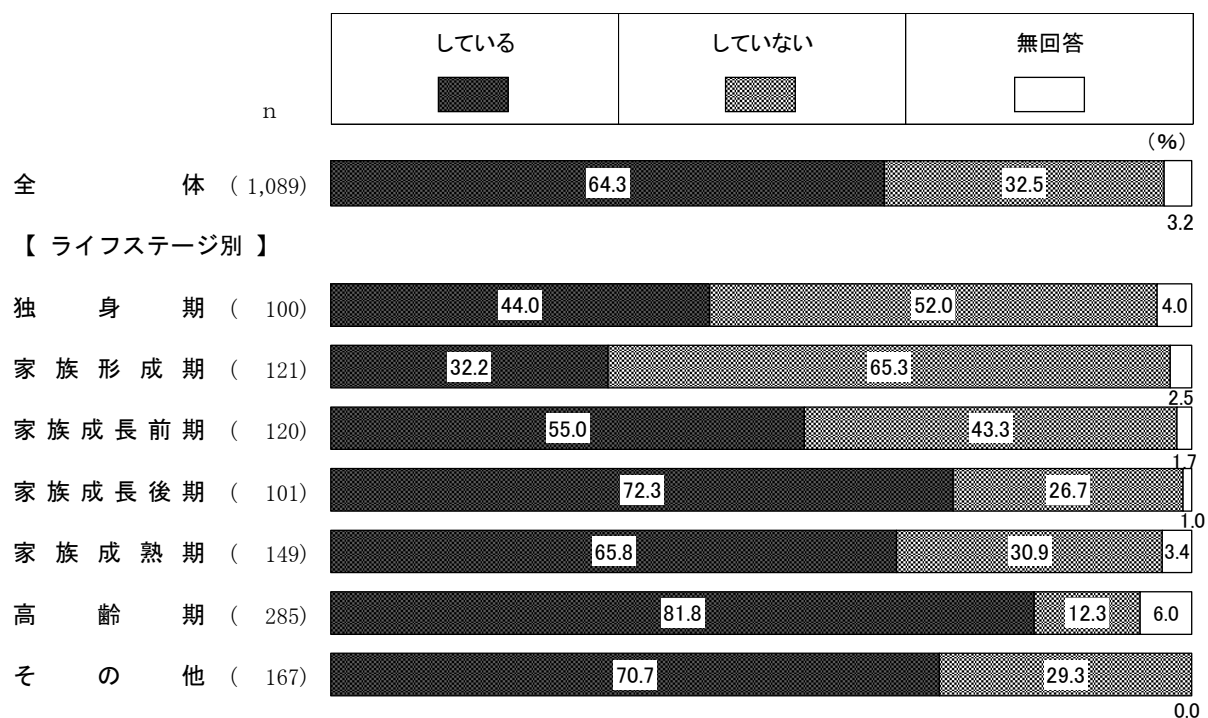
(8) 常備薬



常備薬について、ライフステージ別にみると、「している」は家族成長前期を除くステージで7割を超えている。(図2-8-10)

図2-8-11 日用品等の備蓄の有無－ライフステージ別

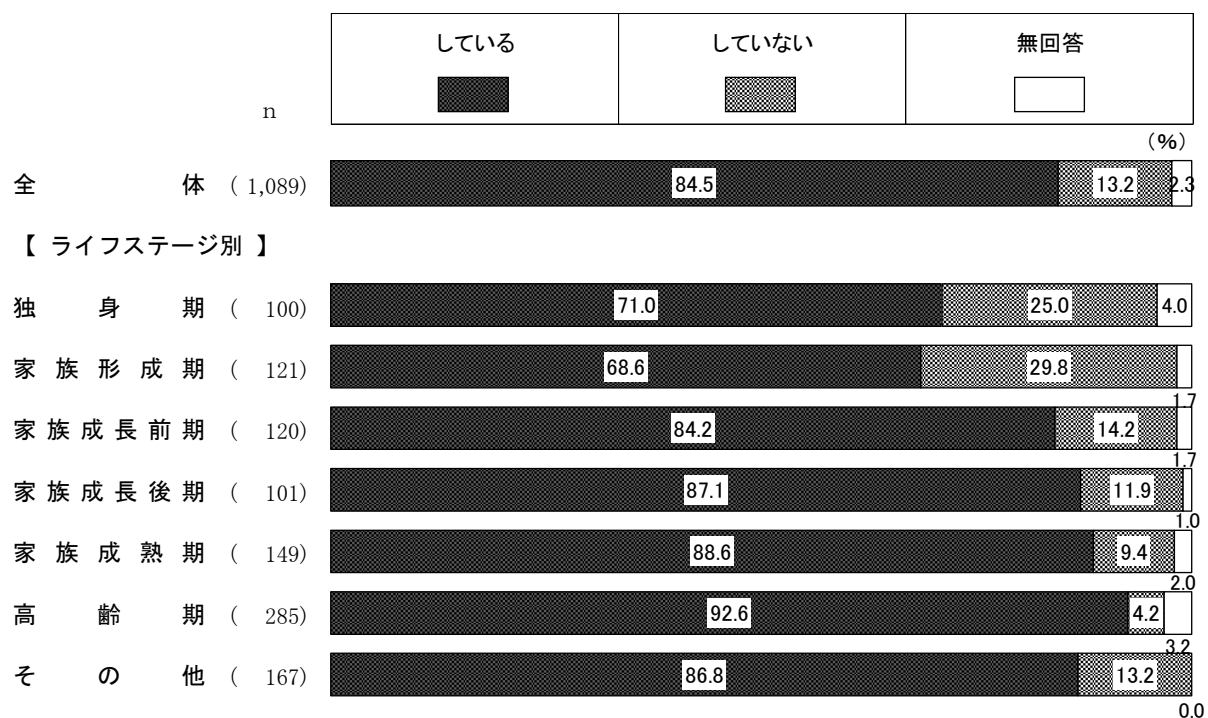
(9) ラジオ



ラジオについて、ライフステージ別にみると、「している」は高齢期で約8割、家族成長後期で7割を超え、その他で約7割と多くなっている。一方、「していない」は家族形成期で6割台半ば、独身期で5割を超えて多くなっている。(図2-8-11)

図2-8-12 日用品等の備蓄の有無－ライフステージ別

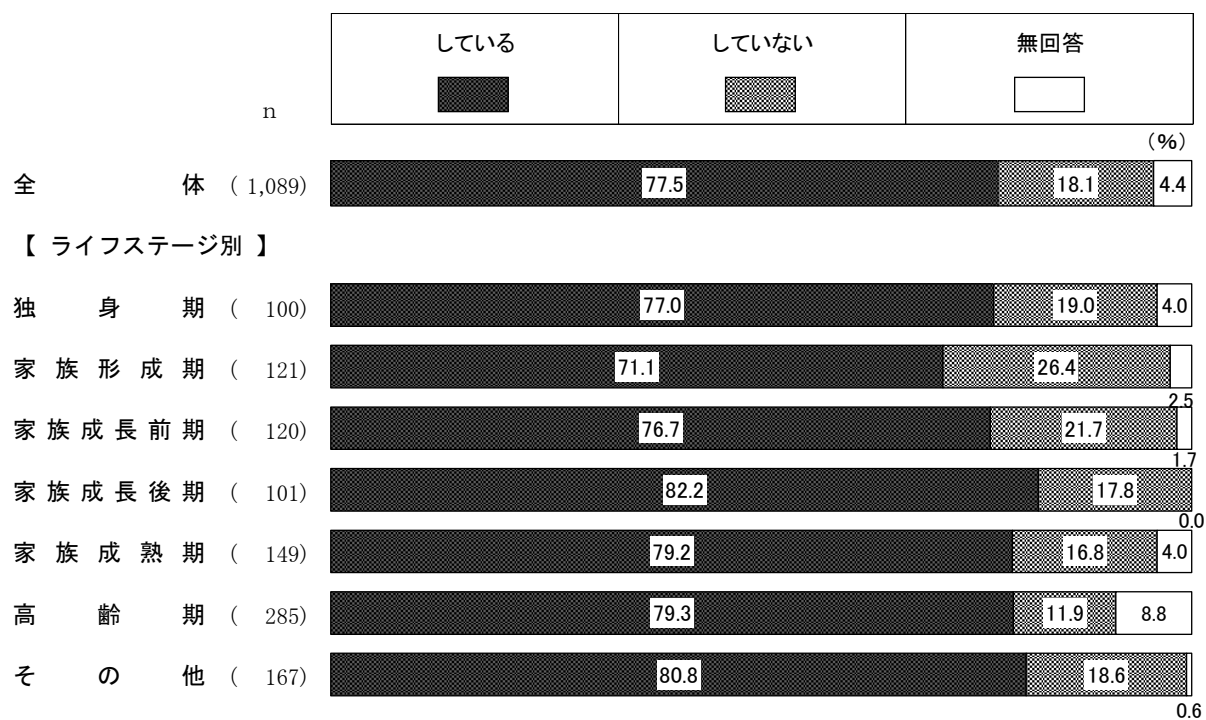
(10) 懐中電灯・ランタンなどの光源



懐中電灯・ランタンなどの光源について、ライフステージ別にみると、「している」は高齢期で9割を超え、家族成長後期、家族成熟期で9割近くと多くなっている。一方、「していない」は家族形成期で約3割、独身期で2割台半ばと多くなっている。(図2-8-12)

図2-8-13 日用品等の備蓄の有無－ライフステージ別

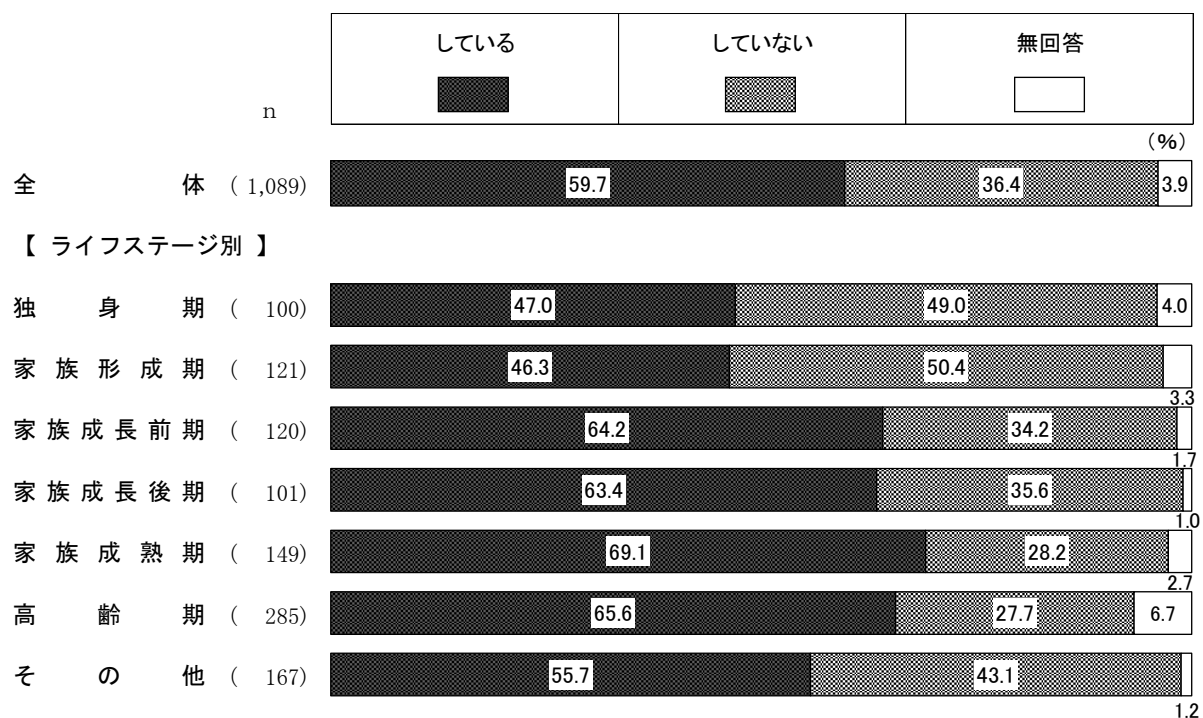
(11) 乾電池・モバイルバッテリーなど



乾電池・モバイルバッテリーなどについて、ライフステージ別にみると、「している」は家族成長後期で8割を超え、家族成熟期、高齢期、その他で約8割となっている。(図2-8-13)

図2-8-14 日用品等の備蓄の有無－ライフステージ別

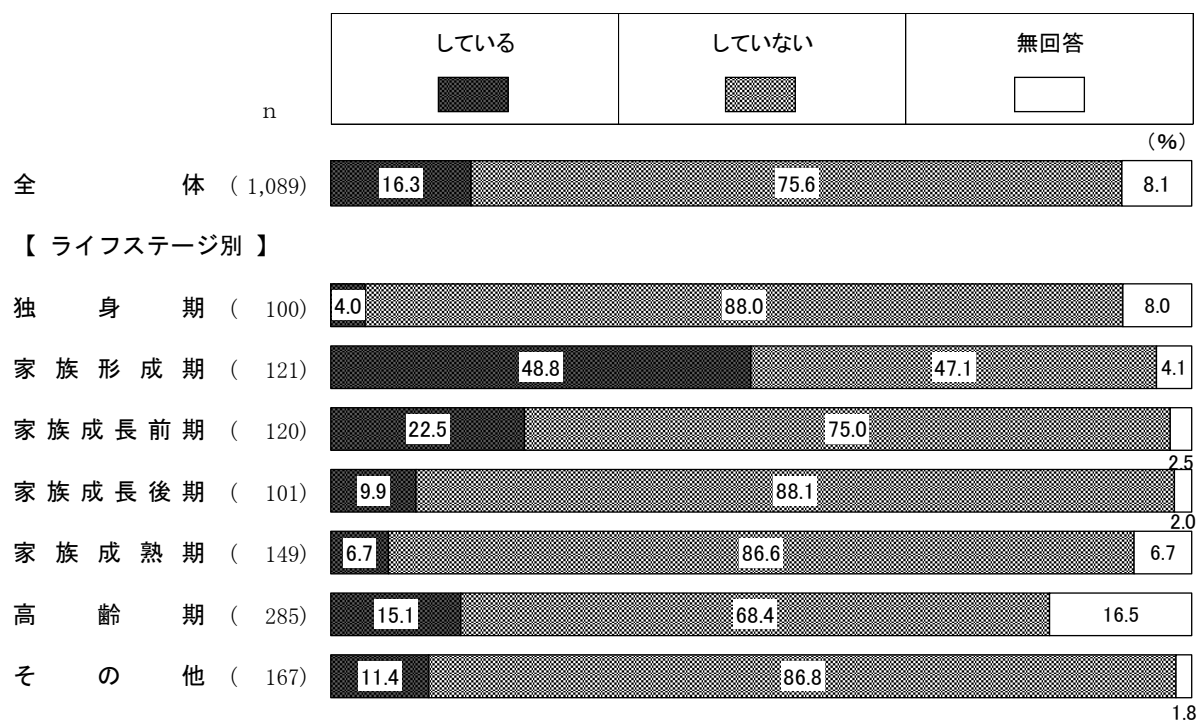
(12) カセットコンロ（ガスボンベ含む）や固形燃料



カセットコンロ（ガスボンベ含む）や固形燃料について、ライフステージ別にみると、「している」は家族成熟期で約7割、家族成長前期、家族成長後期、高齢期で6割台となっている。一方、「していない」は独身期、家族形成期で約5割と多くなっている。（図2-8-14）

図 2-8-15 日用品等の備蓄の有無－ライフステージ別

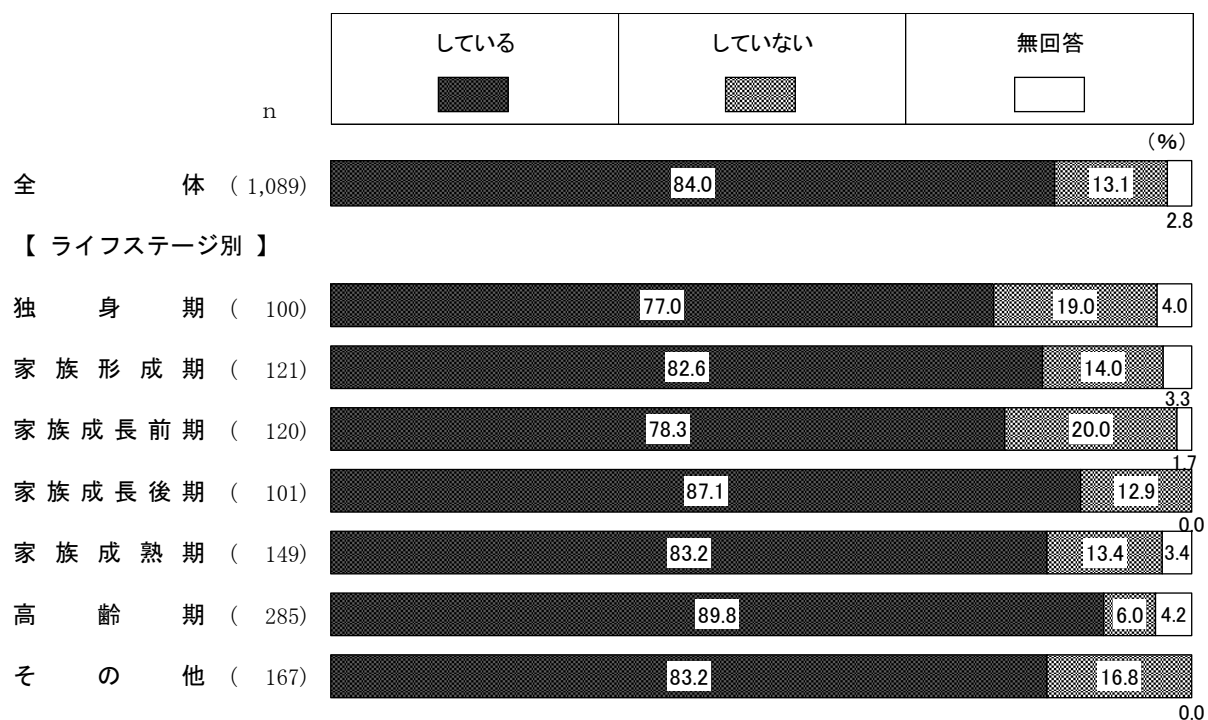
(13) 介護用品・育児用品



介護用品・育児用品について、ライフステージ別にみると、「している」は家族形成期で5割近く、家族成長前期で2割台、高齢期で1割台半ばとなっている。(図 2-8-15)

図2-8-16 日用品等の備蓄の有無－ライフステージ別

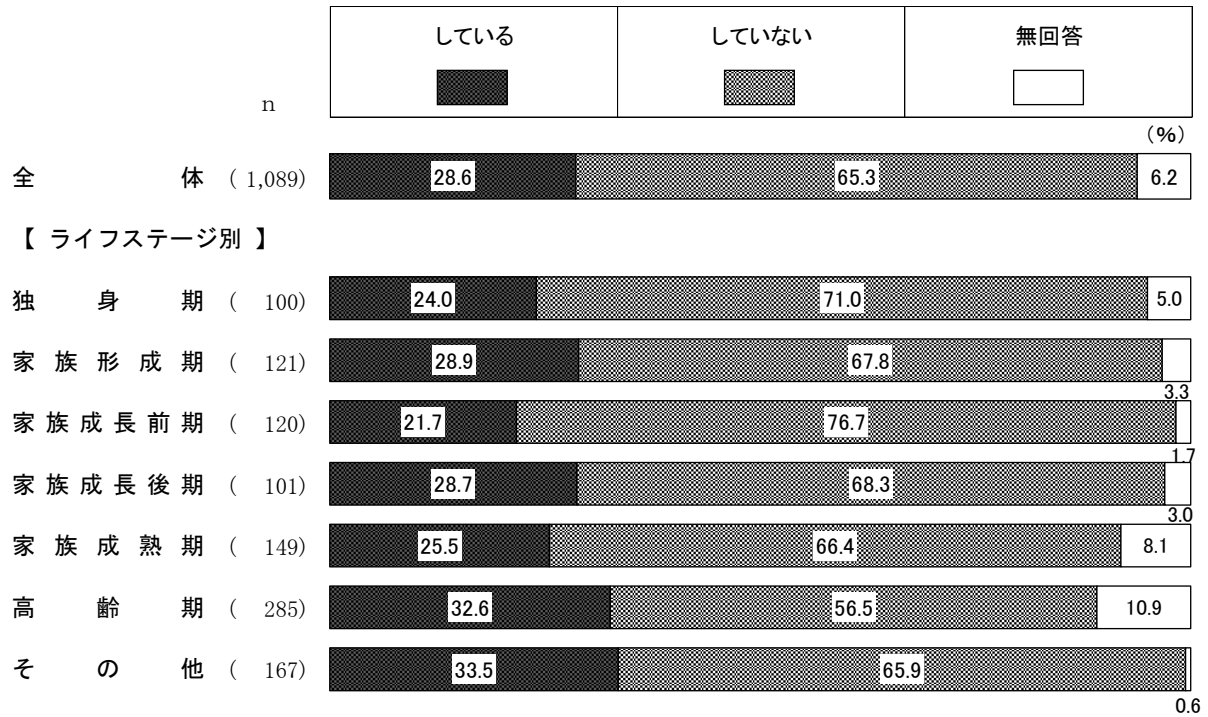
(14) ポリ袋



ポリ袋について、ライフステージ別にみると、「している」は独身期、家族成長前期を除くステージで8割を超えている。(図2-8-16)

図2-8-17 日用品等の備蓄の有無－ライフステージ別

(15) 栄養補助食品（ビタミン剤など）



栄養補助食品（ビタミン剤など）について、ライフステージ別にみると、「している」は高齢期、その他で3割を超えている。（図2-8-17）

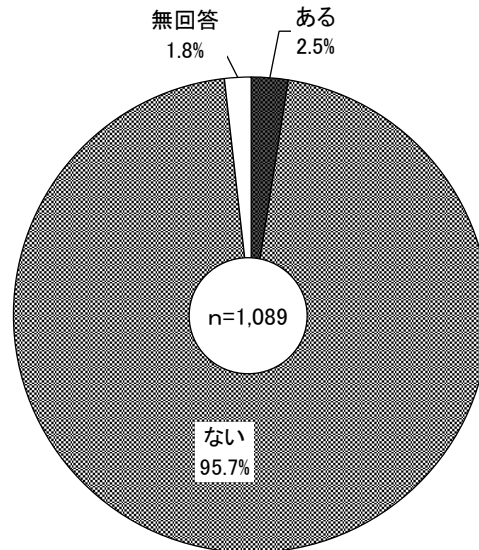
－防災用品のあっせんについて－

(9) 区の防災用品のあっせんの利用状況

◇「ある」が1割を下回る

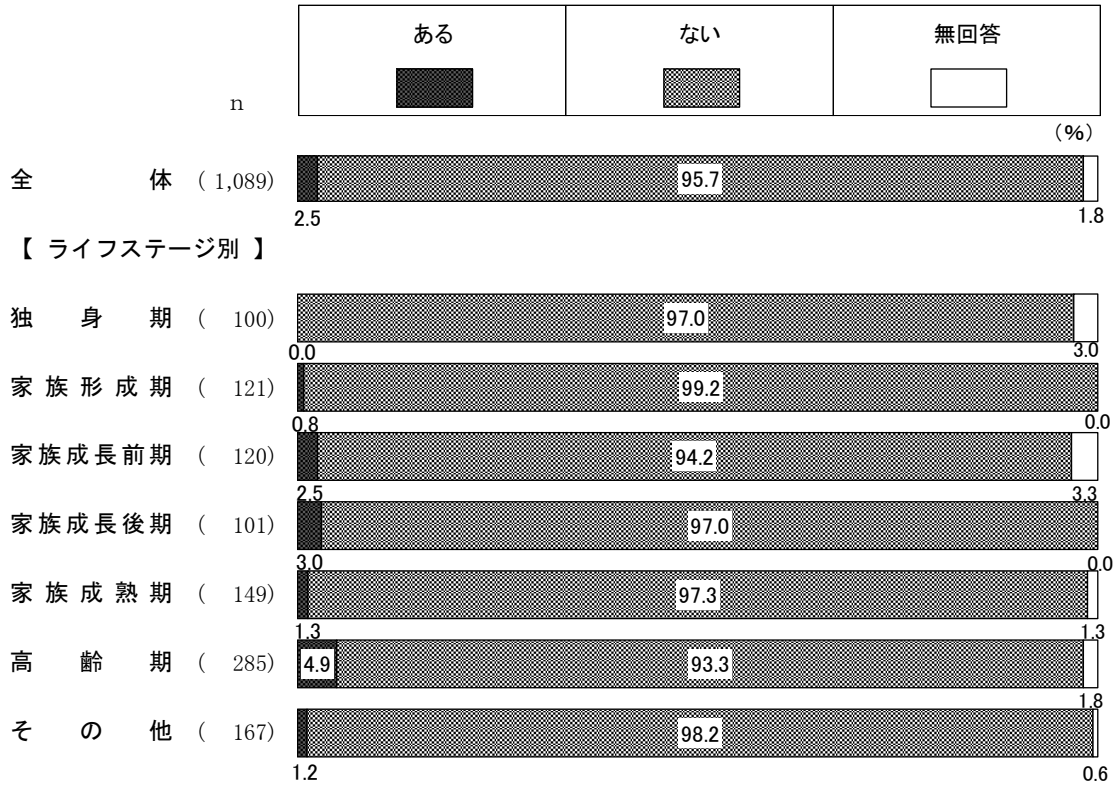
問30 区の防災用品のあっせんを利用したことがありますか。

図2-9-1 区の防災用品のあっせんの利用状況



区の防災用品のあっせんを利用状況を聞いたところ、「ある」(2.5%)は1割を下回っている。(図2-9-1)

図 2-9-2 区の防災用品のあっせんの利用状況－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、いずれのステージも1割を下回っている。(図 2-9-2)

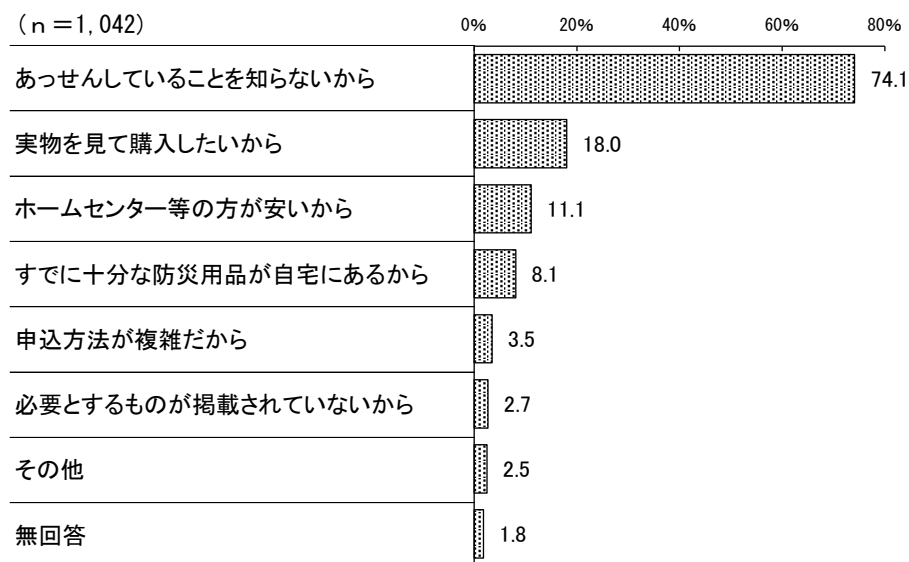
(9-1) 区の防災用品のあっせんを利用しない理由

◇「あっせんしていることを知らないから」が7割台半ば

(問30で「2 ない」と答えた方へ)

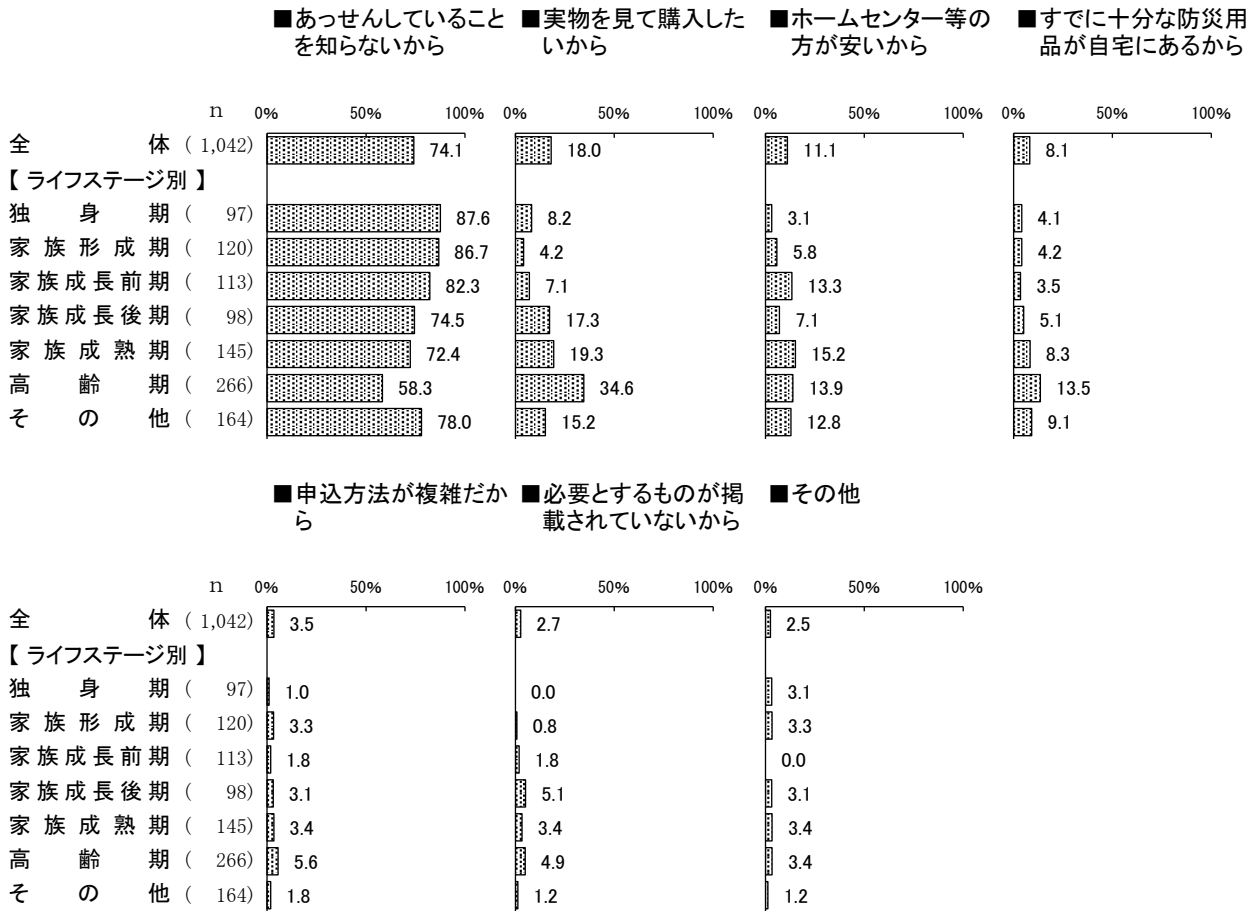
問30-1 区の防災用品のあっせんを利用しない理由はなぜですか。(〇はいくつでも)

図2-9-3 区の防災用品のあっせんを利用しない理由



区の防災用品のあっせんの利用経験がないと答えた方(1,042人)に利用しない理由を聞いたところ、「あっせんしていることを知らないから」(74.1%)が7割台半ばと最も多く、次いで「実物を見て購入したいから」(18.0%)、「ホームセンター等の方が安いから」(11.1%)などの順となっている。(図2-9-3)

図 2-9-4 区の防災用品のあっせんを利用しない理由－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「あっせんしていることを知らないから」は独身期、家族形成期、家族成長前期で8割を超えて多くなっている。「実物を見て購入したいから」は高齢期で3割台半ばとなっている。(図2-9-4)

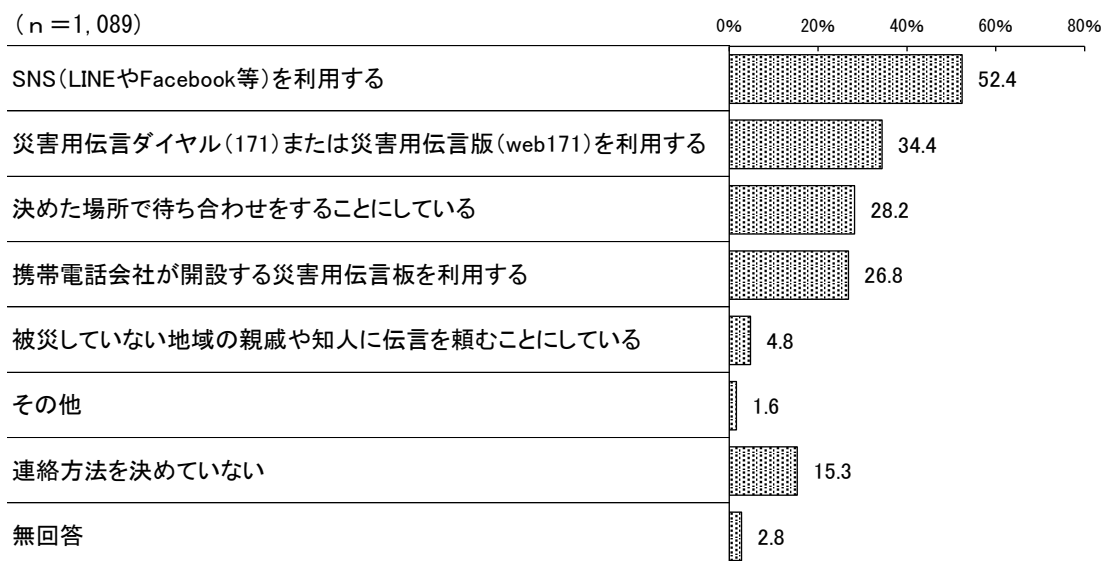
－震災時の対応について－

(10) 震災時の家族との連絡方法

◇「SNS（LINEやFacebook等）を利用する」が5割を超える

問31 震災時には、電話がつながりにくくなることが想定されますが、家族との連絡方法についてどのようにするつもりですか。（○はいくつでも）

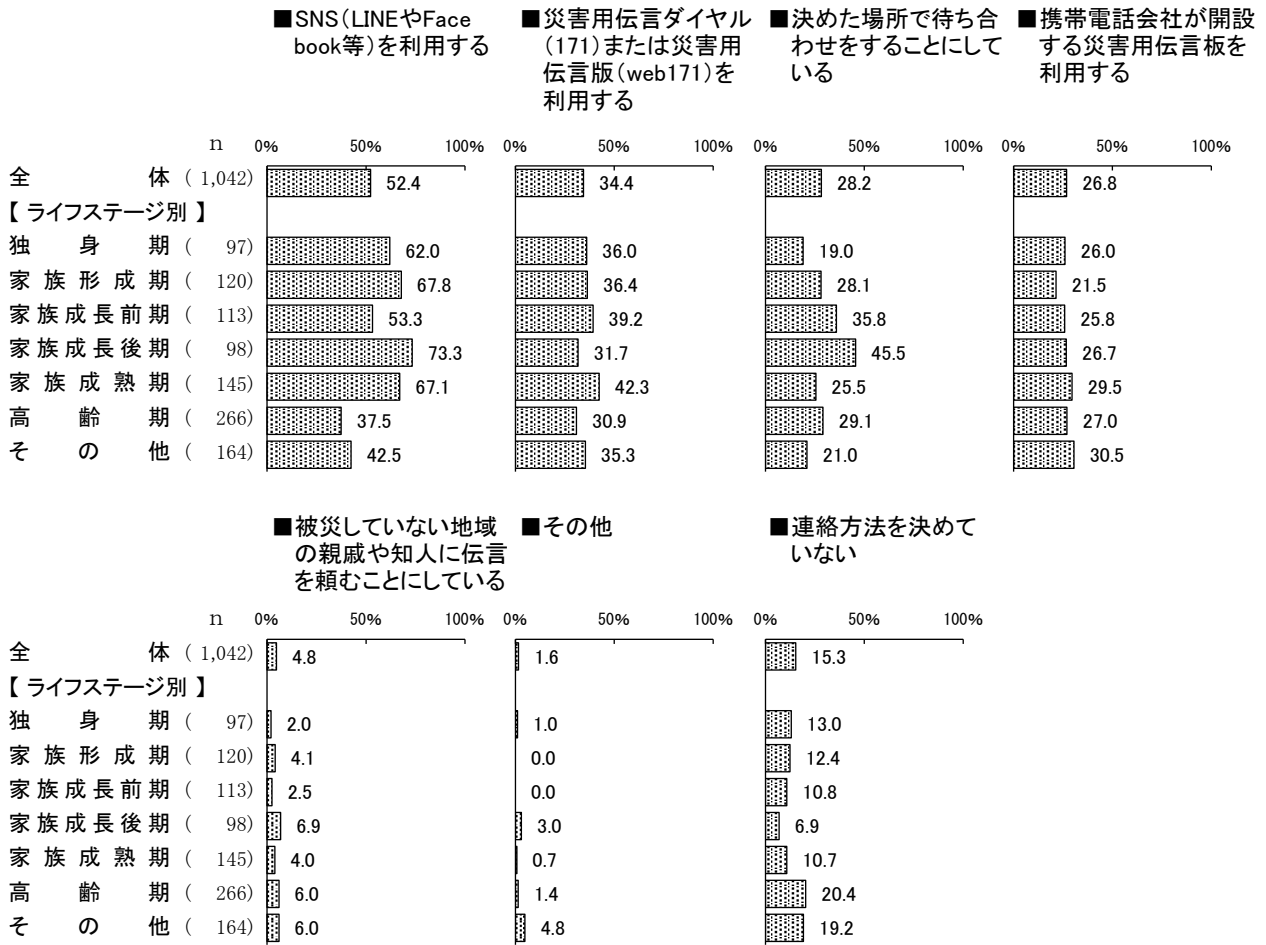
図2-10-1 震災時の家族との連絡方法



震災時の家族との連絡方法を聞いたところ、「SNS（LINEやFacebook等）を利用する」（52.4%）が5割を超えて最も多く、次いで「災害用伝言ダイヤル（171）または災害用伝言版（web171）を利用する」（34.4%）、「決めた場所で待ち合わせをすることになっている」（28.2%）、「携帯電話会社が開設する災害用伝言板を利用する」（26.8%）などの順となっている。一方、「連絡方法を決めていない」（15.3%）は1割台半ばとなっている。

（図2-10-1）

図2-10-2 震災時の家族との連絡方法—ライフステージ別



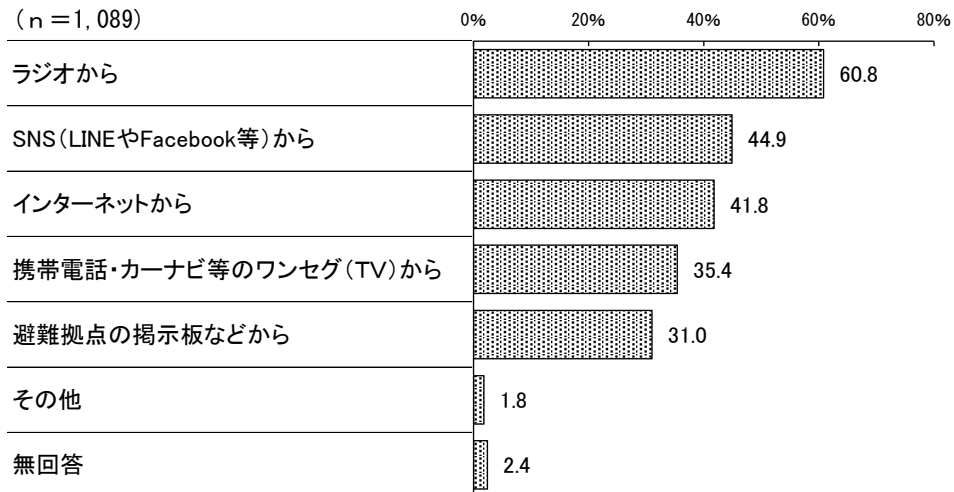
ライフステージ別にみると、「SNS (LINEやFacebook等)を利用する」は家族成長後期で7割を超え、独身期、家族形成期、家族成熟期で6割台、「決めた場所で待ち合わせをすることになっている」は家族成長後期で4割台半ばと多くなっている。(図2-10-2)

(11) 震災時に停電となった場合の情報収集方法

◇「ラジオから」が約6割

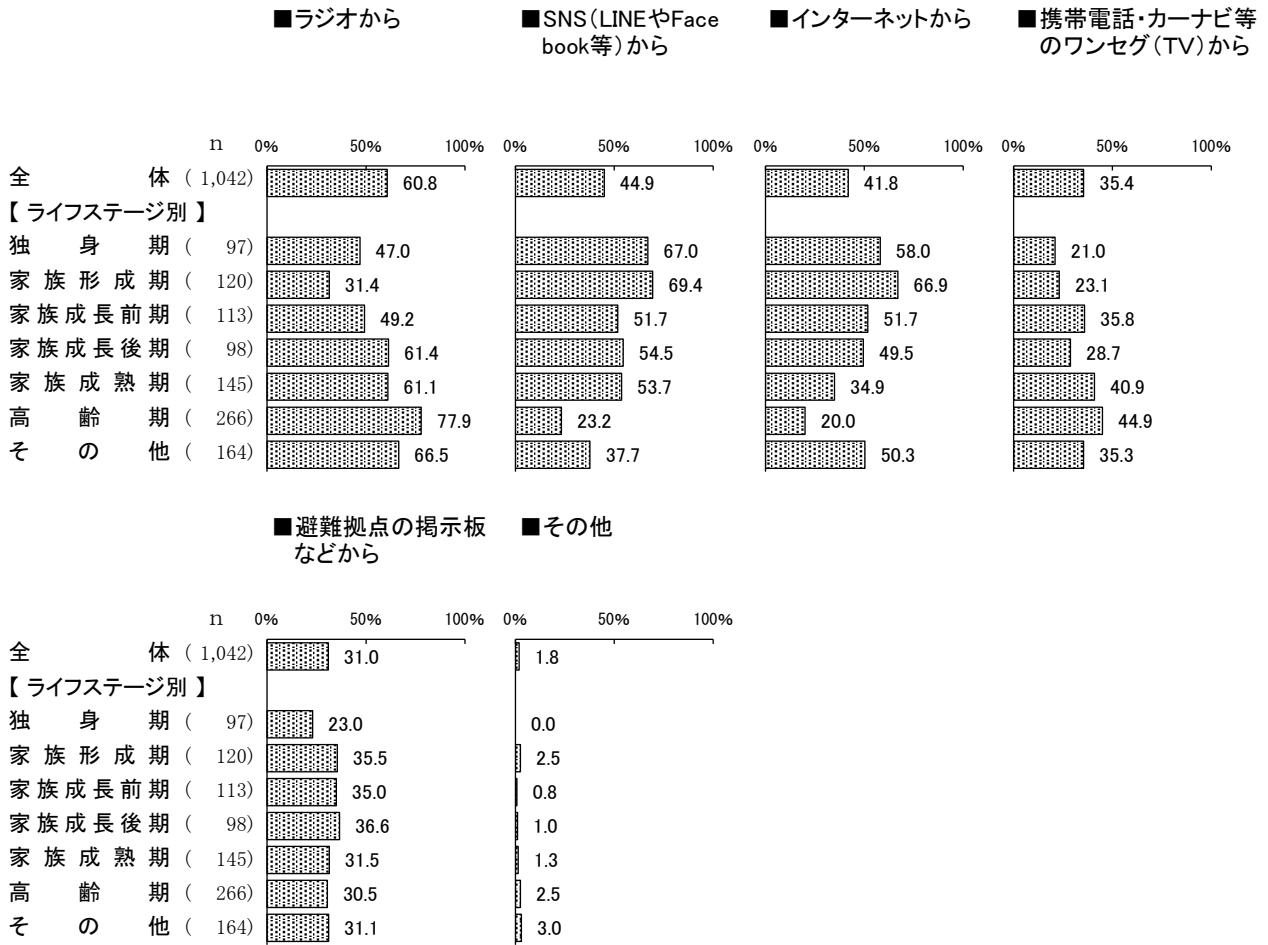
問32 震災時に停電となってしまった場合、どのように情報を収集しようと考えますか。
(〇はいくつでも)

図2-11-1 震災時に停電となった場合の情報収集方法



震災時に停電となった場合の情報収集方法を聞いたところ、「ラジオから」(60.8%)が約6割と最も多く、次いで「SNS(LINEやFacebook等)から」(44.9%)、「インターネットから」(41.8%)、「携帯電話・カーナビ等のワンセグ(TV)から」(35.4%)などの順となっている。(図2-11-1)

図 2-11-2 震災時に停電となった場合の情報収集方法—ライフステージ別



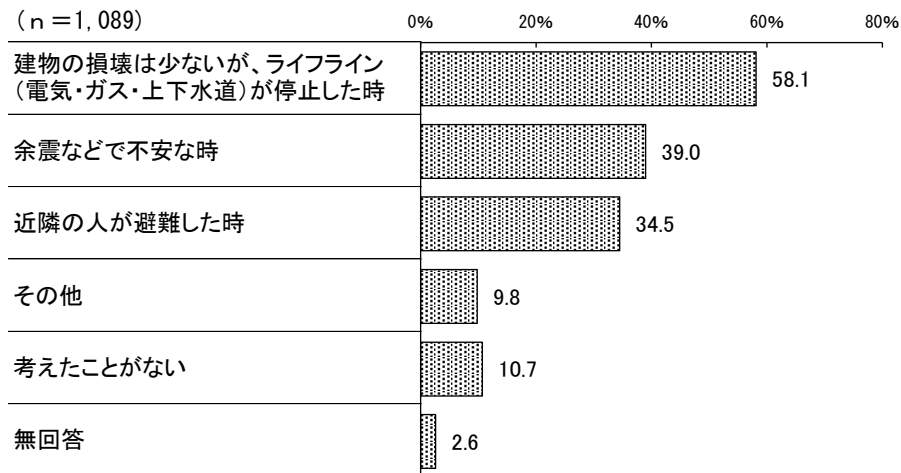
ライフステージ別にみると、「ラジオから」は高齢期で8割近くと多くなっている。「SNS (LINEやFacebook等) から」は家族形成期で約7割、独身期で7割近く、「インターネットから」は家族形成期で6割台半ば、独身期で6割近くと多くなっている。(図 2-11-2)

(12) 震災時に避難する基準

◇「建物の損壊は少ないが、ライフライン（電気・ガス・上下水道）が停止した時」が6割近く

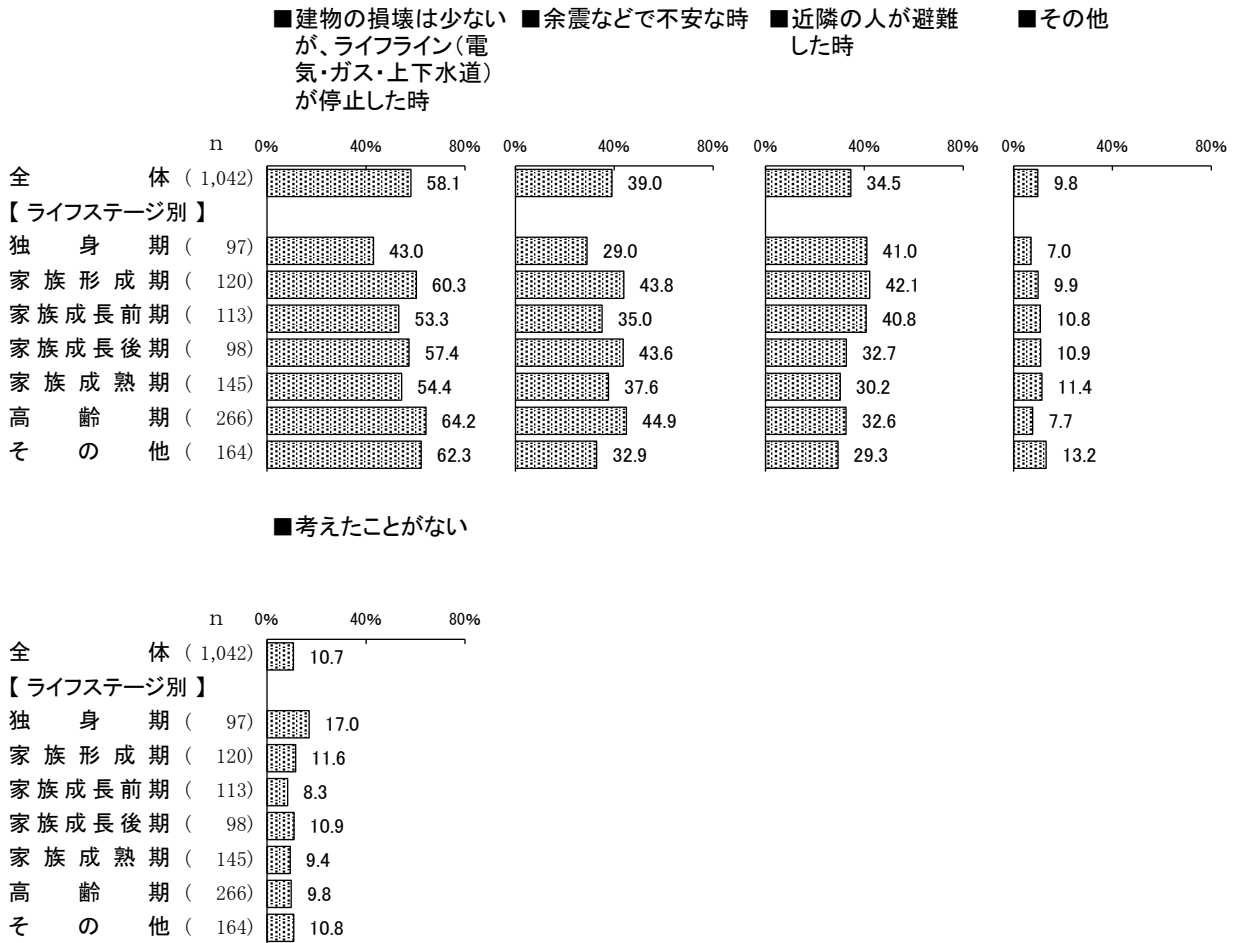
問33 震災時に、あなたが避難する基準は何ですか。（○はいくつでも）

図2-12-1 震災時に避難する基準



震災時に避難する基準を聞いたところ、「建物の損壊は少ないが、ライフライン（電気・ガス・上下水道）が停止した時」（58.1%）が6割近くと最も多く、次いで「余震などで不安な時」（39.0%）、「近隣の人が避難した時」（34.5%）などの順となっている。（図2-12-1）

図 2-12-2 震災時に避難する基準—ライフステージ別



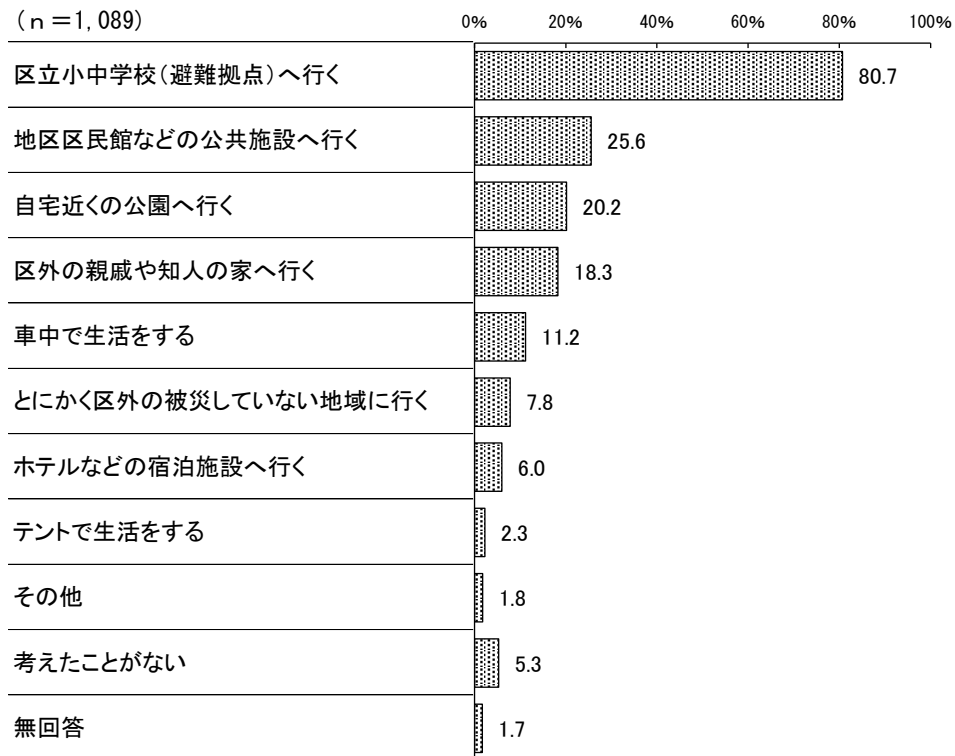
ライフステージ別にみると、「建物の損壊は少ないが、ライフライン（電気・ガス・上下水道）が停止した時」は家族形成期、高齢期、その他で6割を超えている。「近隣の人が避難した時」は独身期、家族形成期、家族成長前期で4割を超えている。（図 2-12-2）

(13) 震災時の避難手段

◇「区立小中学校（避難拠点）へ行く」が約8割

問34 震災時に、どのような避難を考えていますか。（〇はいくつでも）

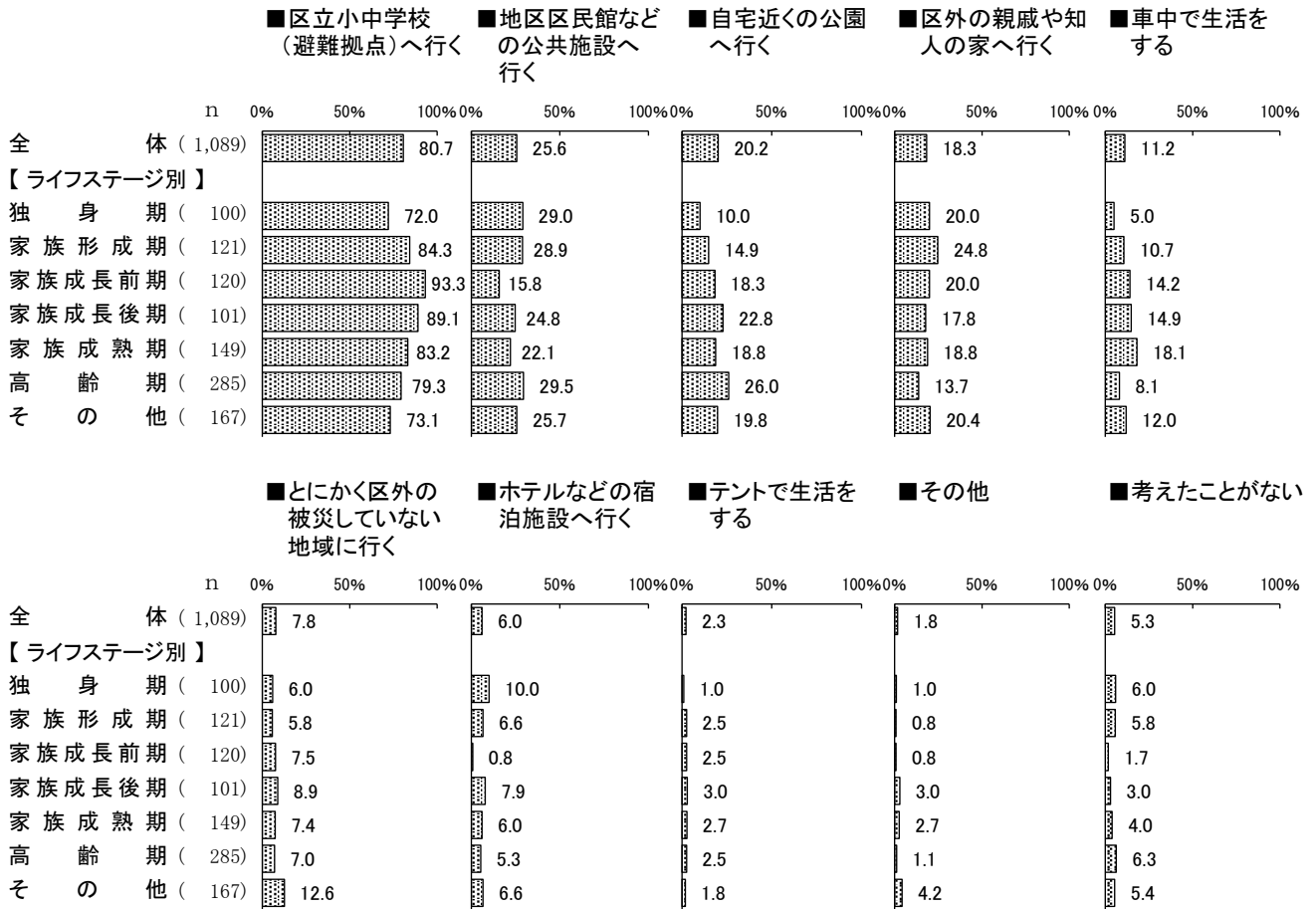
図2-13-1 震災時の避難手段



震災時の避難手段を聞いたところ、「区立小中学校（避難拠点）へ行く」（80.7%）が約8割と最も多く、次いで「地区区民館などの公共施設へ行く」（25.6%）、「自宅近くの公園へ行く」（20.2%）、「区外の親戚や知人の家へ行く」（18.3%）などの順となっている。

（図2-13-1）

図 2-13-2 震災時の避難手段—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「区立小中学校（避難拠点）へ行く」は家族成長前期で9割を超え、家族成長後期で9割近くと多くなっている。「地区区民館などの公共施設へ行く」は独身期、家族形成期、高齢期で約3割、「自宅近くの公園へ行く」は高齢期で2割台半ばとなっている。（図 2-13-2）

－「在宅避難」について－

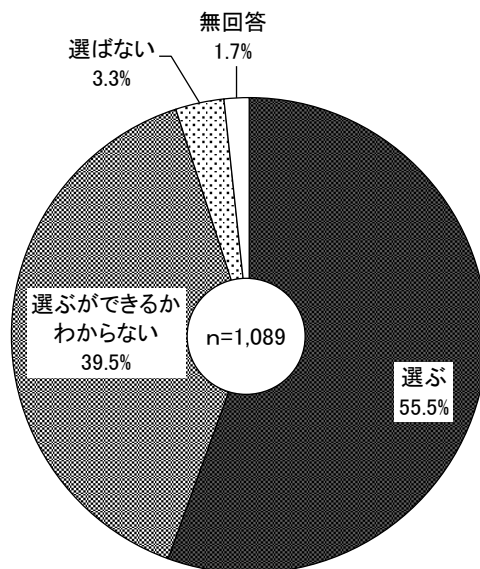
(14) 『在宅避難』の選択

◇「選ぶ」が5割半ば

問35 あなたは、『在宅避難』を選びますか。

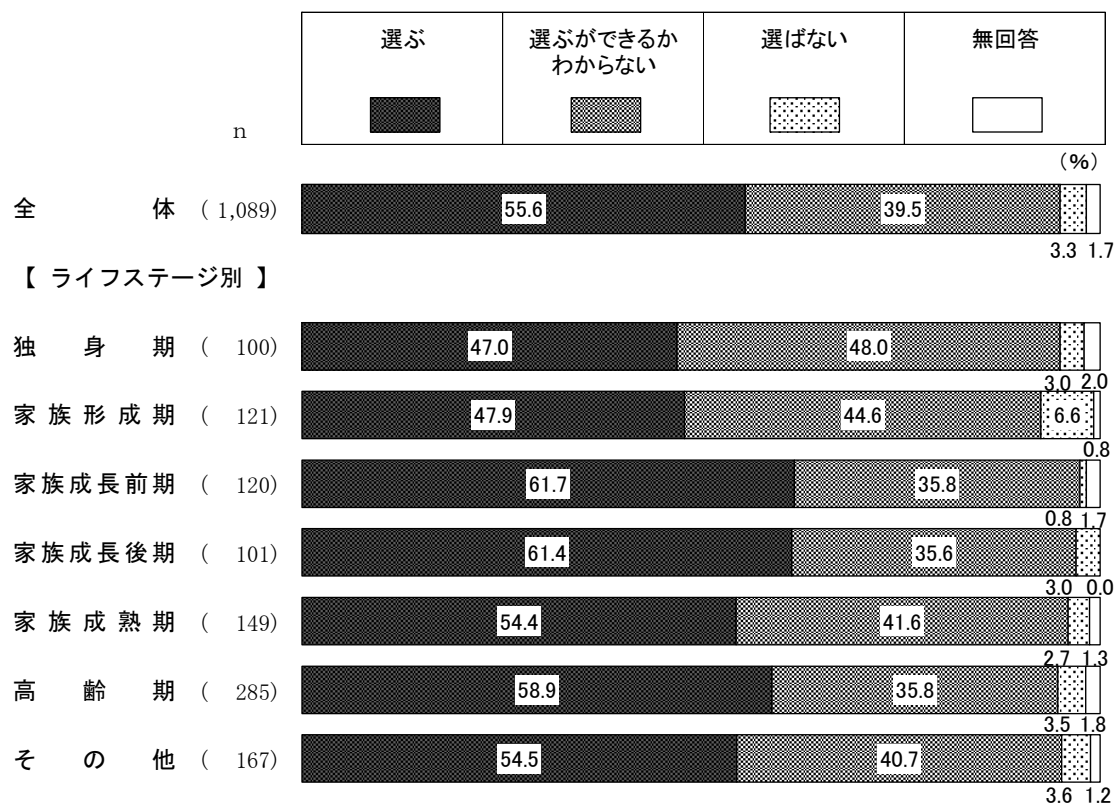
練馬区では、大地震が発生した場合の避難所および防災活動の拠点として、区立の小・中学校（98校）を「避難拠点」（避難所＋防災拠点）として指定しています。区内で震度5弱以上の地震が発生した場合に開設され、居住地による避難先の指定はないため、お近くの小中学校があなたの避難拠点になります。避難拠点では、不特定多数の方が避難してくることから、混乱した状態がしばらく続くことが想定されます。また、過去の災害では、環境の変化により避難所生活で体調を崩すなどの事例もありました。そこで、ライフライン（電気・ガス・上下水道）の供給が停止した場合でも、お住まいが無事な時は避難せず、自宅で生活を続けることを勧めています。このことを『在宅避難』と呼びます。

図2-14-1 『在宅避難』の選択



『在宅避難』を選ぶか聞いたところ、「選ぶ」（55.5%）が5割台半ばと半数を超え、「選ぶができるかわからない」（39.5%）が約4割となっている。一方、「選ばない」（3.3%）は1割を下回っている。（図2-14-1）

図2-14-2 『在宅避難』の選択－ライフステージ別



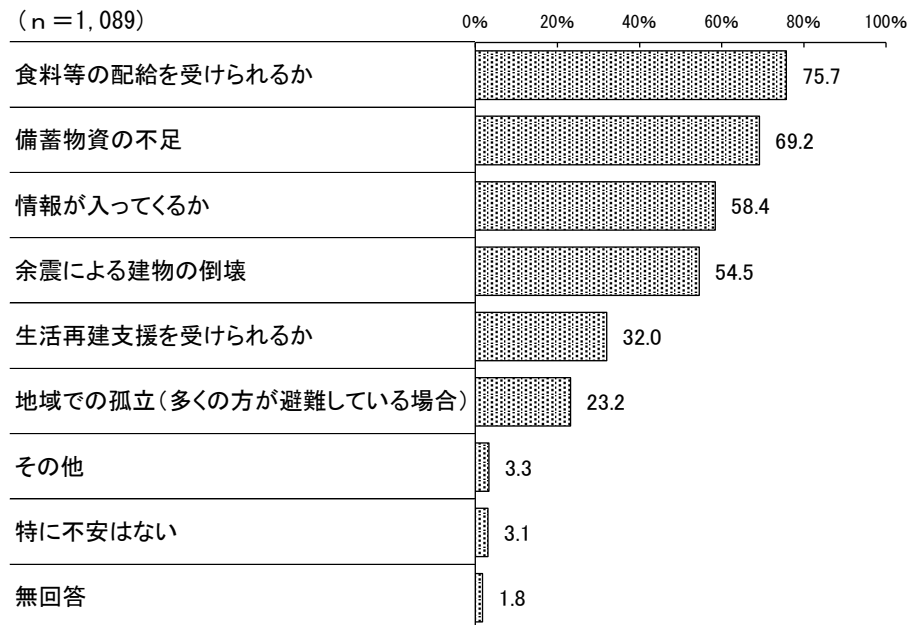
ライフステージ別にみると、「選ぶ」は家族成長前期、家族成長後期で約6割、高齢期で6割近くと多くなっている。「選ぶができるかどうかわからない」は独身期で5割近く、家族形成期で4割台半ばと多くなっている。(図2-14-2)

(15) 『在宅避難』する場合の不安な点

◇「食料等の配給を受けられるか」が7割台半ば

問36 『在宅避難』をしたら不安はありますか。(〇はいくつでも)

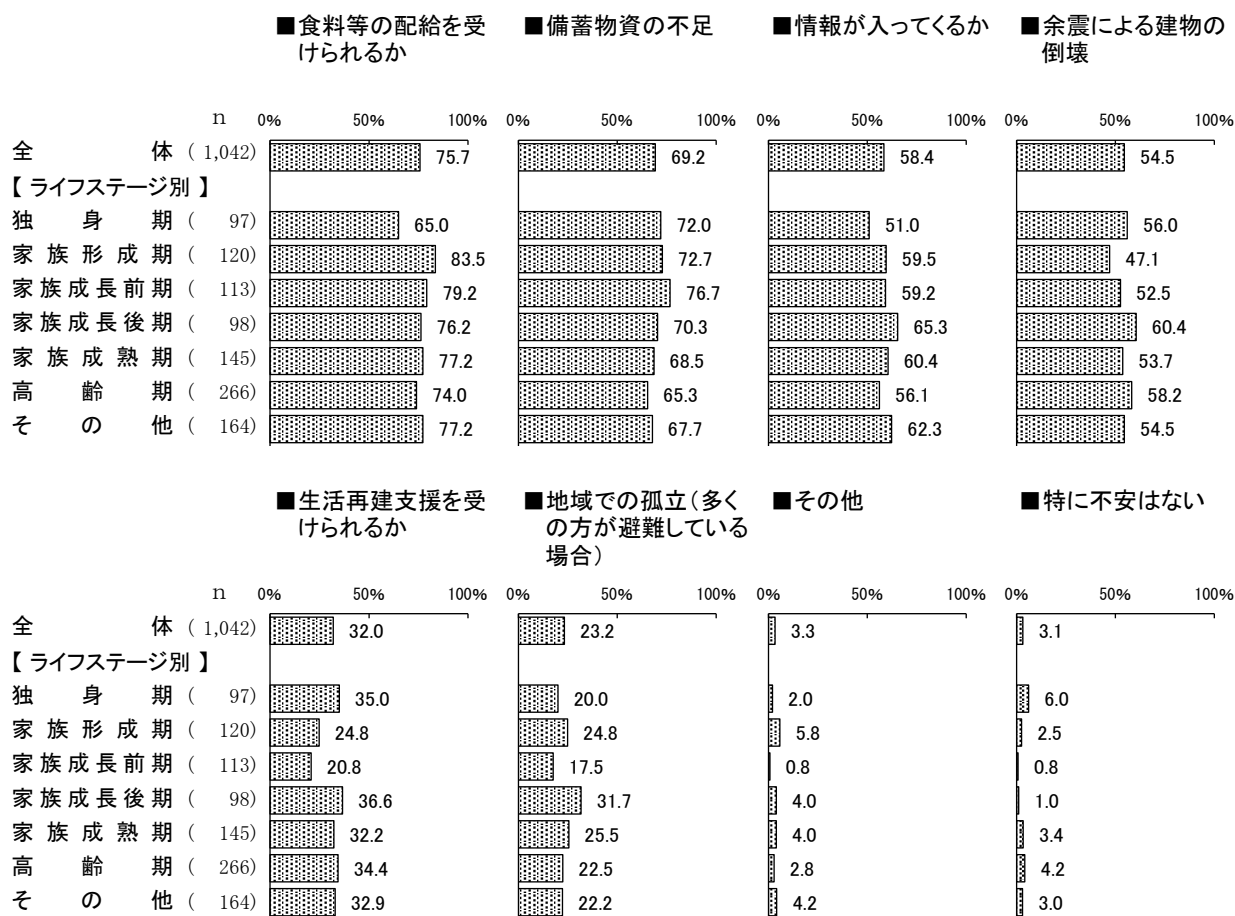
図2-15-1 『在宅避難』する場合の不安な点



『在宅避難』する場合の不安な点を聞いたところ、「食料等の配給を受けられるか」(75.7%)が7割台半ばと最も多く、次いで「備蓄物資の不足」(69.2%)、「情報が入ってくるか」(58.4%)、「余震による建物の倒壊」(54.5%)などの順となっている。

(図2-15-1)

図2-15-2 『在宅避難』する場合の不安な点－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「食料等の配給を受けられるか」は家族形成期で8割を超え、家族成長前期で8割近く、「備蓄物資の不足」は家族成長前期で7割台半ばと多くなっている。(図2-15-2)

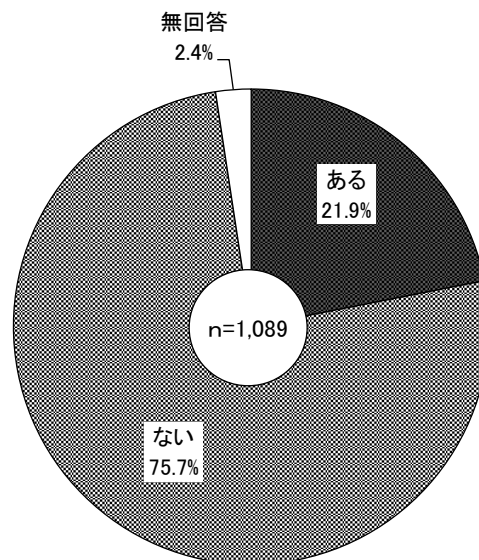
－地域での防災活動への取り組みについて－

(16) 過去3年間の地域の防災訓練・防災講座などの参加経験

◇「ない」が7割台半ば

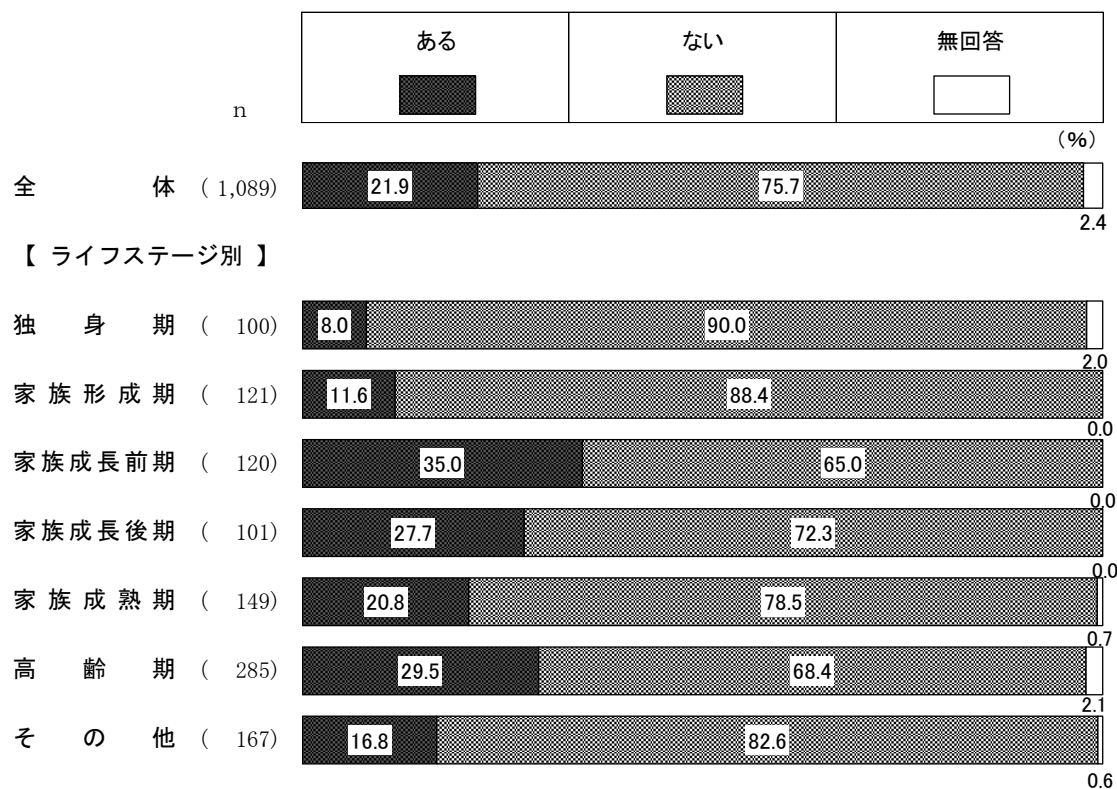
問37 過去3年間で地域の防災訓練、防災講座などに参加したことがありますか。

図2-16-1 過去3年間の地域の防災訓練・防災講座などの参加経験



過去3年間の地域の防災訓練・防災講座などの参加経験を聞いたところ、「ない」(75.7%)が7割台半ばとなっている。(図2-16-1)

図 2-16-2 過去3年間の地域の防災訓練・防災講座などの参加経験－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「ある」は家族成長前期で3割台半ば、高齢期で約3割、家族成長後期で3割近くとなっている。(図2-16-2)

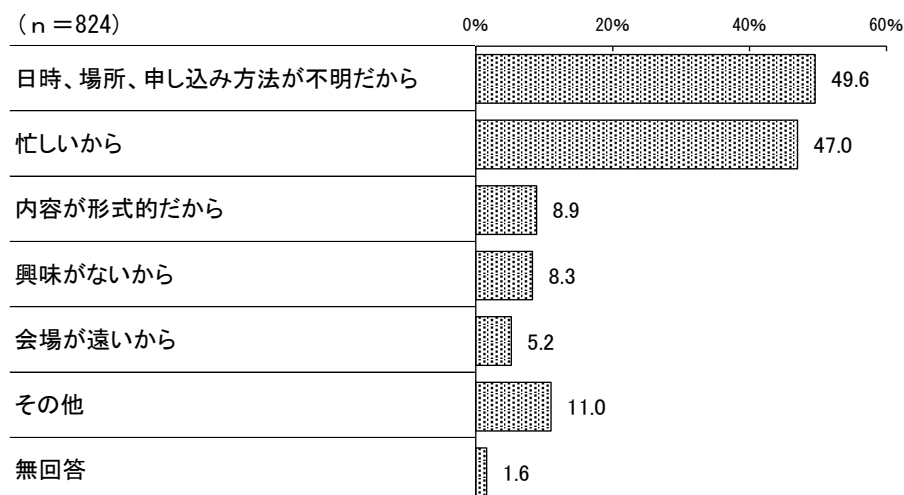
(17) 防災訓練・防災講座などに参加しない理由

◇「日時、場所、申し込み方法が不明だから」が約5割

(問37で「2 ない」と答えた方へ)

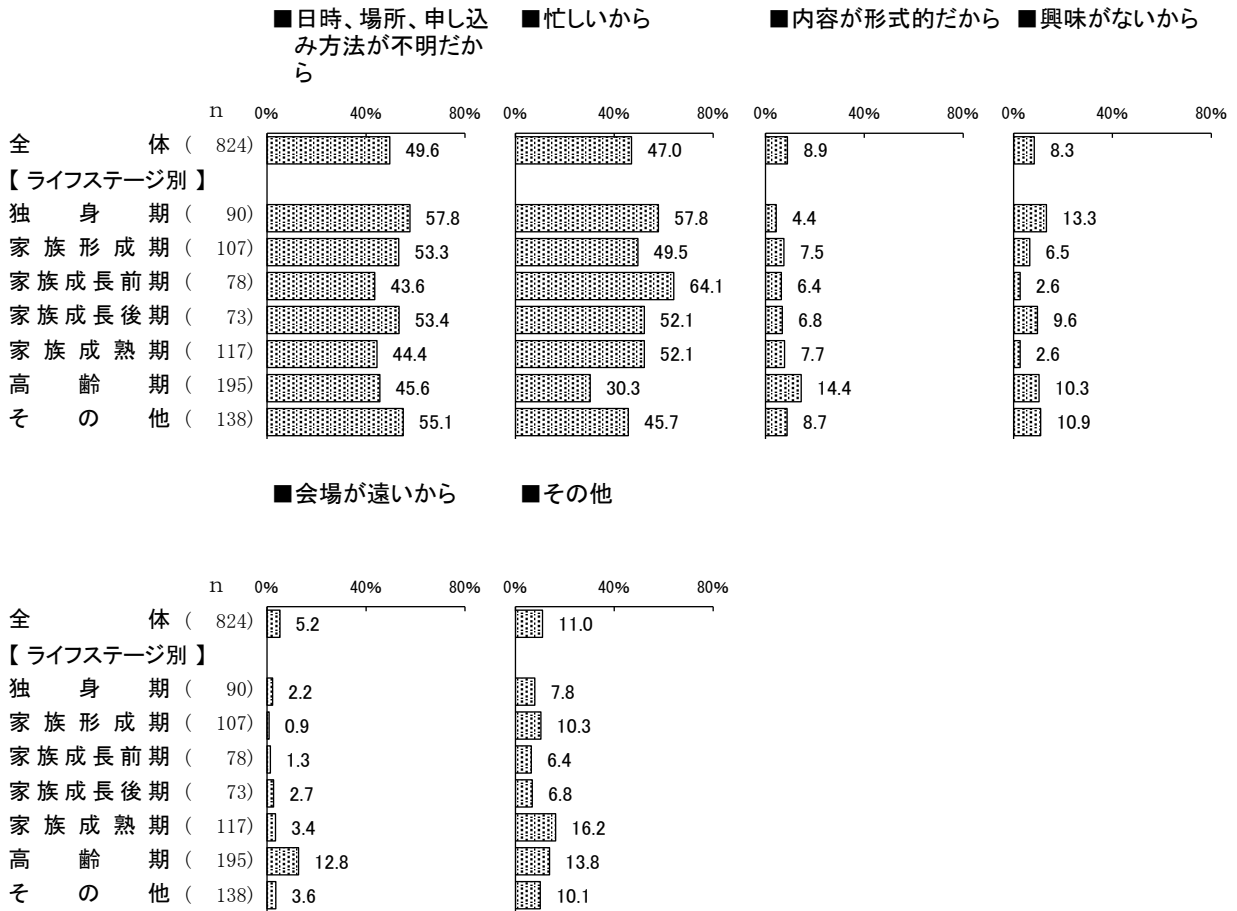
問37-1 防災訓練、防災講座などに参加しないのはなぜですか。(〇はいくつでも)

図2-17-1 防災訓練・防災講座などに参加しない理由



防災訓練・防災講座などの参加経験がないと答えた方(824人)参加しない理由を聞いたところ、「日時、場所、申し込み方法が不明だから」(49.6%)が約5割と最も多く、次いで「忙しいから」(47.0%)、「内容が形式的だから」(8.9%)、「興味がないから」(8.3%)などの順となっている。(図2-17-1)

図 2-17-2 防災訓練・防災講座などに参加しない理由－ライフステージ別



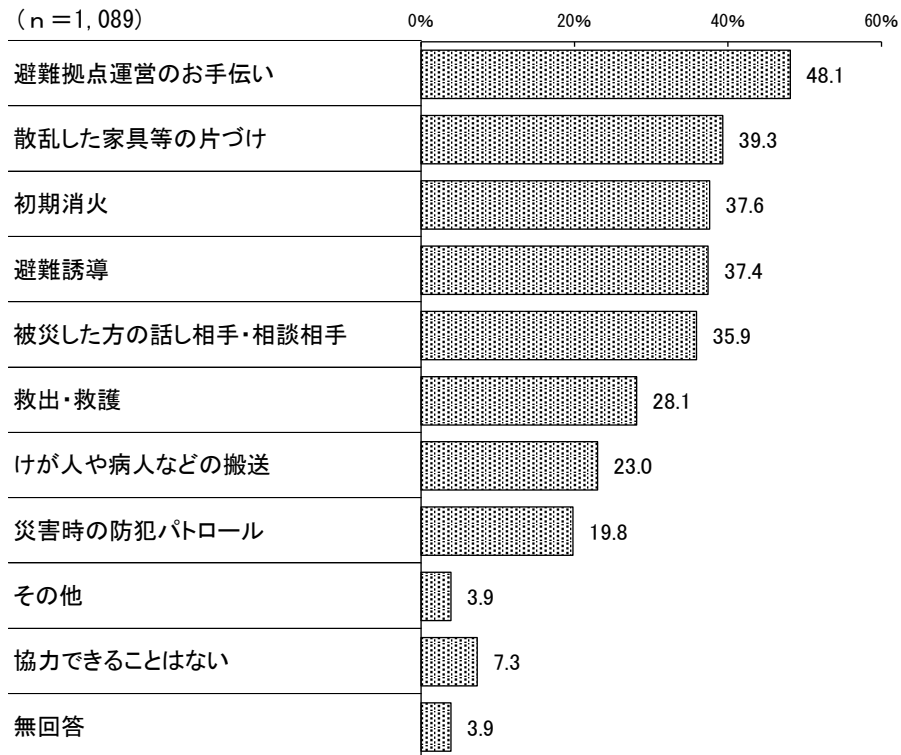
ライフステージ別にみると、「日時、場所、申し込み方法が不明だから」は独身期で6割近く、家族形成期、家族成長後期、その他で5割台、「忙しいから」は家族成長前期で6割台半ば、独身期で6割近くと多くなっている。(図 2-17-2)

(18) 震災時に協力できると思う地域の活動

◇「避難拠点運営のお手伝い」が5割近く

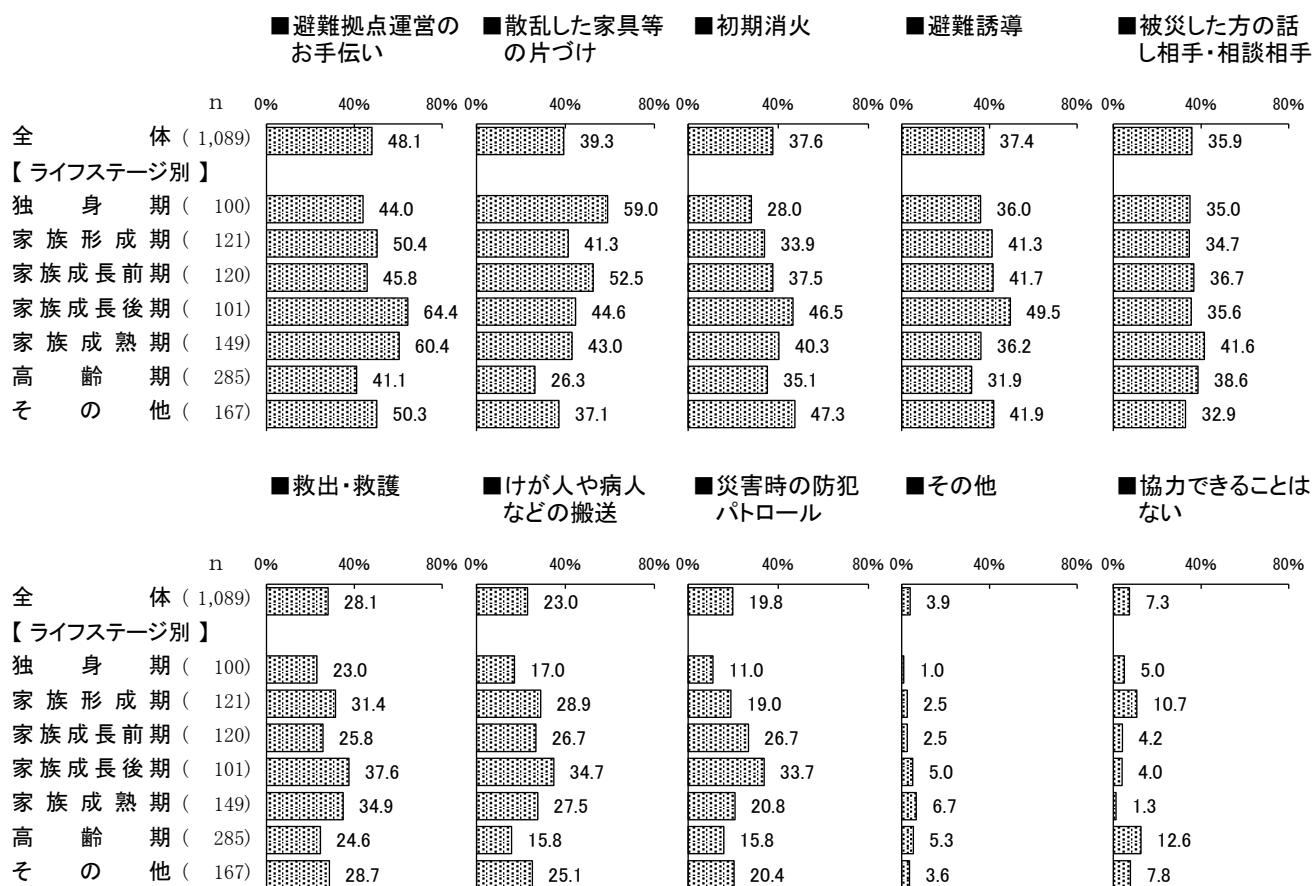
問38 震災時に、あなたが協力できると思う地域の活動はありますか。
(〇はいくつでも)

図2-18-1 震災時に協力できると思う地域の活動



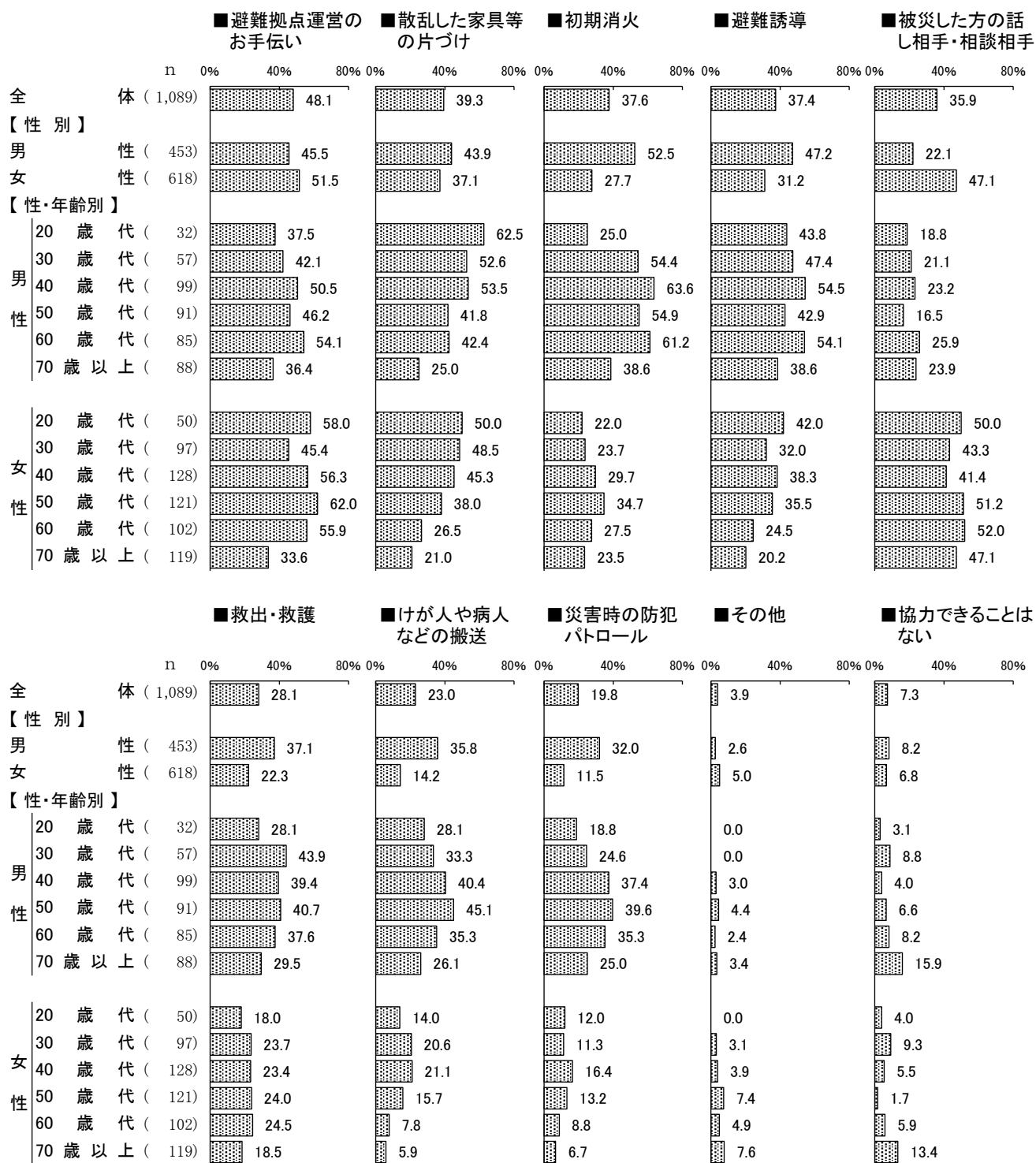
震災時に協力できると思う地域の活動を聞いたところ、「避難拠点運営のお手伝い」(48.1%)が5割近くと最も多く、次いで「散乱した家具等の片づけ」(39.3%)、「初期消火」(37.6%)、「避難誘導」(37.4%)、「被災した方の話し相手・相談相手」(35.9%)などの順となっている。(図2-18-1)

図2-18-2 震災時に協力できると思う地域の活動—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「避難拠点運営のお手伝い」は家族成長後期で6割台半ば、家族成熟期で約6割、「散乱した家具等の片づけ」は独身期で約6割、家族成長前期で5割を超えて多くなっている。「初期消火」はその他で5割近く、家族成長後期で4割台半ば、「避難誘導」は家族成長後期で約5割と多くなっている。(図2-18-2)

図2-18-3 震災時に協力できると思う地域の活動—性別／性・年齢別



性別にみると、「初期消火」は男性の方が24.8ポイント高く、5割を超え、「けが人や病人などの搬送」は男性の方が21.6ポイント高く、3割台半ば、「災害時の防犯パトロール」は男性の方が20.5ポイント高く、3割を超え、「避難誘導」は男性の方が16.0ポイント高く、5割近く、「救出・救護」は男性の方が14.8ポイント高く、4割近くとなっている。一方、「被災した方の話し相手・相談相手」は女性の方が25.0ポイント高く、5割近くとなっている。

性・年代別にみると、「散乱した家具等の片づけ」は男女ともに概ね年代が下がるほど割合が多い傾向となっており、男性20歳代で6割を超えている。「初期消火」は男性30歳代・50歳代で6割を超え、「避難誘導」は男性30歳代・50歳代で5割を超えて多くなっている。

(図2-18-3)